資本利子税	二四四	二四六	一五一
相續税	三六五	三五二	五六〇
酒税	—	—	—
清凉飲料	—	—	—
計	一三、八八〇	七、七五〇	一二、二四二

縣税

地租附加税	七、七二一	六、七六二	四、六三一
特別地税	三六七	三三七	二八四
營業收益附加税	六八二	二、二八一	五二四
所得税附加税	一、九八二	四、四六五	一、四九三
家屋税	三、九一三	三、二一〇	三、二八〇
營業税	七一八	五四五	四四三
雜種税	五、八七七	四、一一五	五、九八七
計	二一、二六〇	二一、七一五	四一、一二六

負擔

	昭和八年度豫算額	前年度決定額	年々度決算額
地租附加税	三、一一三圓	二、八七七圓	二、七一二圓
特別地租附加税	一四五	一三九	一六三
營業收益税附加税	五二四	二、三八六	五六四
縣税家屋税附加税	一、八四九	一、七八三	一、七六八
縣税營業税附加税	六九〇	四九六	五三四
縣税雜種税附加税	四、五七七	四、六七六	五、六七六
特別税戸數割	一三、八七二	一一、二四八	一一、六五三
夫役現品	—	—	—
計	二四、七七〇	二三、六〇五	二三、〇六四
合計	五九、九一〇	五三、〇七〇	七六、四三二

諸税負擔

	現住一戸當	現住一人當
國税	一〇圓三七錢	二圓二〇錢
縣税	一五圓八七錢	三圓三八錢
市町村税	一八圓四九錢	三圓九四錢

計　四四圓七三錢　三七二　九圓五二錢

直接國稅納稅人員

	三圓未滿	三圓以上五圓未滿	五圓以上十圓未滿	十圓以上十五圓未滿	十五圓以上	計
地租	九七三	一五九	一五四	六〇	八〇	一、四二六
其他	八三	一六	二七	一五	二三	一七四
	二三	二五	三一	六	八	九三

市町村稅滯納處分

	滯納	督促狀發布	財產差押	處分決行	缺損	翌年度繰越
人員	八四〇	一、三一九	—	—	四〇一	一、六一二
金額	一、二三六	三、六二四	—	—	六二七	四、三二一

（昭和九年度市制施行當時）

中山町財政

歲入之部

財產より生ずる收入	八〇八圓	縣助成金	一一圓
使用料及手數料	一、九三五	縣奬勵費	二〇
交付金	一、七六五	寄附金	四〇〇
國庫下渡金	八、〇七六	繰越金	五〇〇
國庫補助金	九五二	雜收入	六七六
縣費補助金	九八〇	町稅	三一、二二三
歲入合計			四七、三四六

歲出

經常部

神社費	三〇圓	救助費	二三五圓
會議費	二七二	警備費	七〇五
役場費	八、八一四	基本財產造成費	六〇二
土木費	二、三〇〇	財產費	三四三
小學校費	二三、六三九	諸稅負擔	二五二
補習學校費	三八三	公金取扱費	三〇
幼稚園費	一、六七九	選擧諸費	五〇
青年訓練所費	六三〇	地方改良費	四六五
學事諸費	四〇	雜支出	六
衛生諸費	一三二	豫備費	七〇〇

統計費　一二三七

經常部計　四一、五四四

歲出臨時部

傳染病豫防費	三六〇圓	補助金	二七〇圓
積戾金	一、五〇四	寄附金	一〇〇
町債費	三、〇五三	建物營繕費	五一五
臨時部計			五、八〇二
歲出合計			四七、三四六

（昭和九年四月現在）

財產

基本財產

種別	金額及見積價格
町基本財產	一〇、六〇〇圓
罹災救助資金	四、一四五
學校兒童保護資金	四五五
計	一五、二〇〇

普通財產

	金額及見積價格
小學校敷地	四、四四四坪
校舍及附屬建物	一、一二七
器具機械	—
圖書價格	—
役場敷地	五八
役場及附屬建物	四六
計	—

諸稅負擔狀況

稅目	總額	一戶當納稅額	一人當納稅額
	圓	圓	圓
國稅金	一三、五八一	九、五四	一、六七
縣稅金	三〇、四一六	二一、三四	三、七四
町稅金	二〇、四三二	一四、三六	二、五一
戶數割	一〇、八〇〇	七、五九	一、三三

國分財政

歲入之部

財産より生ずる收入	二二〇	二六三	二六三
使用料及手數料	三七一	二二八	三一五
國稅徵收交付金	二〇九	二二一	三四四
縣稅徵收交付金	二五八	二六一	二七二
水利水害豫防耕地整理組合費徵收交付金	二	一	一
收入證紙取扱交付金	四	二	三
國庫下渡金及交付金	五、三七五	五、六二四	五、二二七
縣奬勵費	二三	二八	三一
國庫補助金	五五四	五六〇	三二
縣補助金	一五二	三、九四〇	一二四
寄附金	六六五	六三一	七三九
前年度繰越金	九四六	七七〇	一、一九三
雜收入	二〇	三一〇	六四
市町村稅	一七、〇七八	一六、三六〇	一六、七四六
市町村債	一	一、二五〇	一
計	二五、八七七	三〇、四四一	二五、三五一

歲出之部

神社費	六〇圓	六〇圓	六〇圓
會議費	一一六	八〇	六六
役所役場費	六、三八三	六、六六一	六、四五五
土木費	三九七	四〇五	二八四
小學校費	一一、三九四	一一、四〇七	一〇、九九三
補習學校費	二二〇	二〇一	二〇四
青年訓練所費	三〇七	二七三	三六五
其他學事諸費	三〇	三六	二〇
衛生費	三九	八	二二
地租名寄補助費	一	一	一七一
勸業費	三四	二八	二二
統計費	二四〇	二〇九	二三九
救助費	一〇二	一四	一
警備費	七二七	四四〇	四五八

基本財産造成費	二四五	二四一	二八三
財産費	二九	一五	二五
諸税及負擔	一、一〇七	一、三六八	一、一四五
公債費	三、七一四	三、七八四	三、七一三
地方改良費及奬勵費	四五	二二	一六
補助費	一〇〇	五〇	三〇
選擧費	一二	三	二五
雜支出	一五	二一	六九
豫備費	四六一	七八九	三七〇
計	二五、八七七	三一、一〇三	二五、〇四九

國分財政

基本財産

建物價格	市町村經濟全般の爲に設備するもの 一〇〇	特定の目的の爲に設備するもの —	一、〇〇〇
諸公債證書價格	—		二、三四七
現金	三、九三五		
計	四、〇三五		三、三四七

其の他財産

土地價格	基本財産外の市町村財産（公學資金を除く） 四八三圓	部落有財産 —	
建物價格	三二〇	—	
現金	八六	—	
計	八八九	—	

市町村債

債證年限	借入債證金額	使用目的	償還財源	利率
三年以内のもの	一、三〇〇	—	—	—
三年以上のもの	二五、〇〇〇	校舍建築	一般歳入	年三分二厘
計	二六、三〇〇	—	—	同六分

國税

	昭和八年度賦課額	前年度收入濟額	前々年度收入濟額
地租	三、六九九圓	三、六六七圓	四、〇八三圓
所得税	四〇〇	七一五	四五三

營業收益税	一三六	一三五	—
資本利子税	六〇	六〇	一〇三
相續税	一七二	八二	五八六
計	四、四六七	四、六五九	五、三五一

縣税

地租附加税	四、九六一	四、七五四	四、八一二
特別地税	五六〇	五〇八	六四〇
營業收益税附加税	九四	八七	八四
所得税附加税	一四二	二三八	一六七
家屋税	一、六一四	一、四八一	一、六〇八
營業税	三四一	三二八	三四三
雜種税	四、一二〇	二、八五三	二、八二三
計	一一、八三二	一〇、二四九	一〇、四七六

村税負擔

	昭和八年度豫算額	前年度決算額	前々年度決算額
地租附加税	二、八九六圓	二、八三一圓	三、〇四五圓
特別地税附加税	三〇八	二九九	三九八
營業收益税附加税	一〇〇	二〇六	八六
縣税家屋税附加税	八九五	八六一	八九八
縣税營業税附加税	三四三	三一三	二六二
縣税雜種税附加税	三、一一五	二、八八三	二、五〇三
特別税戶數割	九、四二一	八、九六七	九、三一五
計	一七、〇七八	一六、三六〇	一六、五〇七
合計	三三、三七七	三一、二六八	三二、三三四

諸税負擔

		三圓未滿	三圓以上五圓未滿	五圓以上十圓未滿	十圓以上十五圓未滿	十五圓以上	計
納税人員	直接國税 地租	六〇八	九八	八〇	五一	五六	八九三
	所得税	六	二	一	三	二三	三五
	營業收益税	—	—	九	二	—	一一
市町村税人員		滯納 一六〇	督促狀發布 —	財産差押 —	處分決行 —	缺損 —	翌年度繰越 一六〇
滯納處分金額		—	—	—	—	—	一、〇〇五圓

第三節　衞　生

衞生概說

近代文化の贅を盡せる大東京市の延長たる我が市川市には、市設事業として尙幾多の計畫山積するであらうけれども、就中市民の保健に衞生に豫防に尙一層の英斷的な施設を望んでやまない。

綠林地帶市川、保健地帶市川として帝都の都人士を多く吸收し、眞に住心地よき市川を形成する上には、特に衞生といふことを等閑に附することは出來ない。ことに水道施設下水道の浚渫等は、第一番に着手して貰ひたい事業中の事業である。

隔離病舍

現隔離病舍は元明治二十八年地藏山墓地隣の市川字八幡前に假病舍として設立されたものが初めで、其の後同卅三年砂河原に木造小病舍を建設、專ら病人を收容したるも、設備不完全なるをもつて其の後當局の勸誘に依つて、市川、八幡、中山、葛飾、行德の五ヶ町村組合を設け、大正四年五月より八幡町に和洋折衷の規模稍々完備せる病舍に移り現在に至つてゐる。

經常費は組合費を以て支辨し、患者發生に關する費用は發生町村の負擔とし、元八幡町長管理者として今日に至る。

風土病及傳染性疾患

本市は空氣の流通極めて良好にして、海岸を離るゝ事適當の距離にあり、加之至る處松蔭蒼々として繁茂し、自然の衞生地なり、只憾むらくは下水の流通惡しき爲め、夏季蚊軍の發生甚しく、爲に往々マラリヤ性の風土病を見ることとあり、當局者は勿論市民にありても、將來此防禦に關する設備を必要と認む。

傳染病疾患に就ては極めて少く現に、小學兒童トラホームの如きは縣內第一の好成績を示す。

飲料水

飲料水は至る所良好なり、特に大字市川下出口區の井水は尤も適當なり、只鴻の臺の井水は水質良好なるも土地高燥なるを以て、井極めて深く、不便甚し、完全なるもの一個を掘るに少くとも六百圓最上千二百圓を要すと云ふ。

軍隊にては即ち江戸川の淵に數萬金を投じて大井を掘り、電力にて之を高地に汲み上げ居れり。

市川市醫師會役員（昭和九年十一月廿二日總會にて決定）

會長	高橋統閏	副會長	大野潤一郎
理事	小坂美郎	同	中島晴明
同	國井光泰	同	吉田眞
同	岡本實	評議員	星野憲藏
同	大峽清太郎	同	久保田愼
同	服部善一	同	藤原豐次郎
同	中村仁	同	御園生政一

代議員　吉岡利光　同
豫備代議員　野中景吉　同

市川市醫師會員氏名

野中景吉	中山町鬼越	高橋統閑	三八四
田村尹良	中山町高石神	杉田理千代	
遠藤龜之助	中山町鬼越		
御園生政一	中山町中山	電北八幡二七八	
宮寺卓爾	中山町高石神	同　三〇七	
後藤五郎	中山腦病院内	同　二六三	
下和田春朗	同	同　三二七	
小林長衛	同	同　二七五	
桑島眞次	中山町鬼越一二三	同　二五四	
小坂美郎	八幡町八幡	同	
道津幸雄	同	同	
内山浩	同	同	
清水貞子	八幡町三九五	同　一三一	
		同　二四一	
		同　五五	

吉岡利光	市川上出口三〇七二	電市川　一四	
杉田理千代	市川町三一一一	同　四五〇	
中島清明	市川眞間字小砂河原五五	同　三二六	
高橋統閑	市川大門向五七八	同　七七	
鳥海照雄	同	同	
内田嘉人	同		
尾林秀春	同		
高橋文雄	同		
高橋壽子	同		
中村仁	市川八幡前一〇七七	電市川　三〇一	
櫻田桝太郎	市川新田五三九	同　四五一	
松原松藏	市川市第六天前		
阿部幸之助	市川砂川原九六三		
星野憲藏	市川五丁目一六一		
大野潤一郎	市川砂河原一一〇〇	電市川　五五六	
大峽清太郎	市川大門向四四七	同　二〇三	
		同　二七三	

久保田	儀	市川砂河原三〇五七	電市川 五一九
國井	光泰	市川大門向六五〇	同 六二二
吉田	眞	市川新田市川境	同 一三一
篠崎	せき	同	同
秋山	瑞來	市川新田一三五	同 三四四
服部	善一	市川町九七四	同 二五
古川	智	市川新田一一六	同 一五二
戸塚	環	市川砂河原一〇一〇	同 六三六
戸塚	千代	同	
峯	永五郎	市川眞間一六五	電市川 一三三
川瀨	春雄	市川小學校前横丁	
廣瀨	安之	市川町一ノ二二	電市川 三二七
藤原	豊次郎	市川町一〇五三	同 六七二
玉井	仁	市川砂河原九一〇	
飛田	修三	市川五丁目	電市川 六五三
樋田	鐵太郎	市川町三一三八	

岡本	實	市川眞間下七一ノ一	電市川 三二一

計四十六名

醫師及歯科醫師其の他醫藥業者數

醫師	四六
歯科醫師	一五
産婆	二九
看護婦	六八
藥劑師	一九
藥種商	一〇

舊市川市に於ける衛生

病名	男	女	病名	男	女
腸チブス及パラチフス	一	一	百日咳	一	一
ヂフテリヤ	一	一	流行感冒	—	一
肺結核	二四	二五	腦炎及中樞神經系の結核	一	二
其他の結核	一	—	癌及その他惡性腫瘍	五	八
腦膜炎	二	八	腦出血及同軟化	一〇	一三

心臟先質的疾患	一〇	一三	急性氣管支炎	二	二
慢性氣管支炎	八	二	肺炎及氣管支肺炎	一六	一六
腎臟炎	六	七	產熱	—	—
妊娠及產に因る疾病	—	五	畸形先天性弱質及乳兒固有疾病	二四	二四
老衰	一	三	外因死	五一	一
自殺	一	三	その他の疾患	二九	三九
計				一五二	一八一

慈惠救濟

罹災救助資金	特別	六九圓	終身	一五六	一一〇
日本赤十字社員	一四		正社員		二八〇
愛國婦人會員	一一		計	一一三	一一四

舊八幡町に於ける衛生

種痘		善感	不善感	檢診未了	未種痘
第一期		一三四	四	—	三七
第二期		二七	二二四	—	—

傳染病		患者	同上死亡
赤痢		一	一
腸チブス		三	一
ジフテリア		一	—
計		五	二

昭和九年九月九日八幡加藤一郎腸チブス收容十五日死亡。十月七日八幡高平太郎同收容二十六日全治。其他ヂフテリヤ患者二名あり。

種痘

定期種痘施行人員四七四人內善感一七三人にして、善感の少なきは第二期種痘を計上したるに因る。

七月三十一日及八月七日の二回に臨時種痘を施行す。接種人員二、一六五名にして成績良好なり。

舊中山町に於ける衛生

衛生					
衛生機關	醫師	五人	齒科醫	一人	
	產婆	七	藥種商	二	
	精神病院	一			
種別	患者	同上の內死亡			
赤痢	五	三			

傳染病	善感	不善感	計	未種痘人員
腸チブス	八	四	三九〇	
ジフテリヤ	五	四		
猩紅熱	一			

種痘	善感	不善感	計	未種痘人員
第一期	三〇四人	三七人	三四一人	二人
第二期	六六	一〇九	一七五	
計	三七〇	一四六	五一六	二

飲料水の源

全町井戸水を使用

中山區（吸上ポンプ多）　若宮區（車井戸多）　鬼越區（吸上ポンプ多）

高石神區（吸上ポンプ多）　北方區（車井戸多）　千足區（吸上ポンプ多）

井戸の深さ

中山、若宮、千足、等洪積臺地は非常に深く、高石神、中山の一部鬼越等は三米許りの深さに過ぎず。

舊國分村に於ける衛生

傳染病	死亡
腸チブス	四
ジフテリア	
計	

種痘	善感	不善感	未種痘人員
第一期	八二	六	
第二期	四八	一五	
計	一三〇	七一	
		六	一七四

現住死者死因別

	男	女
慢性氣管支炎	二	
肺炎及氣管支肺炎	二	
其他の呼吸器疾患	一	一
胃の疾患		一
腦溢血	二	
腦膜炎	一	二
心臟器質的疾患		二
腹膜炎	一	一
ヂフテリア		一
消化不良	七	二
發育不全	三	四
癌及其の他の惡性腫瘍	二	一
腦出血及腦軟化		
下痢及腸炎		一
	三九一	

腎臓炎	二	女子生殖器疾患	一
老衰	三	外因死	一
自殺	一	其他の疾患	三
計	一		二六

特殊病院

千葉縣代用精神病院

中山腦病院

一、場所　市川市中山法華經寺境内　電話北八幡二五四番

一、敷地　二千坪餘

一、組織　千葉縣代用病院……公的　腦病科
　　中山腦病院……私的　精神病科

一、創立　大正十二年

一、沿革　大正十二年發起者により私設腦病院として設立され、道津病院長時代昭和三年五月千葉縣代用病院となり今日に至る。
最初は患者數も極めて尠く、その實擧らざるも逐次發展に向ひ、殊に縣代用となりて以來好績見るべきものあり。

一、役員及醫員　代表者　八木原長治、理事　小峯醫學博士、竝顧問醫師　理事　鈴木義隆、同　岡崎直大、同　渡邊ゑい、醫師院長　後藤五郎、同　小林長衛、大和田春郎、

一、現在患者數

代用病院	五〇	官廳指定者	五〇
中山腦病院	七二	町村委托者	二八
計			一二二

一、患者籍　千葉縣を大部分とし、關東一帶。

一、治療法　藥物治療に加ふるに精神療法を以てし、教育的治療を施す。
尙作業療法及持續法療法等特殊療治法の計畫あり。

一、成績狀況　同院は、社會事業的施設として信望厚く、理事者を始め關係者一致結束熱心にして、成績又良好なり。
全治退院60％を示し、死亡又は長期治癒者は40％に過ぎない。
急性患者に於ては、三ケ月乃至六ケ月にして完全治癒の效果を擧げてゐる。院長後藤氏は千葉醫專出身、精神病科の專攻にして、斯界の研究に於ては、屈指の權威者である。

第四節　警察及司法

警察及司法概說

警察及司法、川一筋のお隣り大東京から直接間接に蒙る恩惠は多大だが、一面には迷惑千萬な景物もある。即ち惡

の華がそれだ、試みに市川署の昭和八年度の犯罪送致件數をみると、八五五件で全縣の一割八厘强を占め、縣下二十九署中で斷然トップを切つてゐる。しかも管内五町三ケ村の中「市川市」となつた四ケ町村がその大部分の發生地なのだから、過去の良民は必ずしも枕も高くして寢て居ることは出來ない。曾て菅野での淺草甘酒屋三人殺傷事件が一年後に、船橋の理學士一家の五人皆殺しと同一犯人と判り、最近では迷宮入りとなつた市川の妾殺し、國府臺練兵場の人妻慘殺など、あとから〳〵と難解の重大事件や强盜暴行燒切り犯罪等が續出し、縣下警察界の關門として誠に心細い手薄な警戒陣を慨歎されてゐる。

然し市に昇格したおかげで、市川署の陣容も充實擴張される樣から、市民も一安心だらう。また八幡、中山、國分、三ケ町村の巡査駐在所も悉く所謂交番制度に變つて、本署直屬となり、漸次に署員が常時交替に勤務することとなるし、また狹隘な國道筋での交通事故の頻發も豫防出來やうとある。

一方裁判所の管轄は從來通りで、刑事關係では豫審事件は千葉地方へ、その他の事件は松戸區へ送致され、民事訴訟、小作爭議、金錢債務兩調停事件などの受理審理も從前と變らない。松戸區裁判所八幡出張所も存置される。なほ陪審員候補者の割當は十年度市川六名、中山八幡各二名、國分一名であるが、次年度からは市人口に基き變更される。

（一）市川警察署の歴史

慶應四年三月葛府は武裝鎭撫取締なるもの配下七、八十名を率ひて、警察を行ひしが、翌三月中東京へ撤去す、次で觀農方なるものを置き、其の配下四五人にて近村を警邏したることありしが、同年廢藩置縣の改革に方り、小菅縣警察に當るもの二名を配置し明治五年に至り、八幡、市川、國分の三ケ町村は印旛縣に、中山、宮久保等は葛飾縣に屬して、各縣では警察方を派せるも未だ警察官署の制定なし、明治六年、千葉縣に屬し、同八年大區取締所を出張所と改稱の際始めて第十一大區第三屯所第一分屯所と稱し、明治十年二月大區出張所を警察署と改めんとき、千葉縣警察署市川分署とし、同十三年九月甲第七十三號達示に依り、船橋警察署設置に付、同年十月三十日船橋警察署市川分署と改め、其後大正十四年六月に至り市川警察署と改稱さる。

（二）建物に就て

武裝鎭撫取締は眞間村弘法を宿舍とし、各分屯所の時代より市川村上宿渡船場際民家一棟を借り上げ、明治十一年二月區民共有に係る市川村一六六番地に工費三百圓にて廳舍一棟を新築し、敷地六十七坪一ケ月借家料二圓、借地料三十錢なりしも、同十五年七月右建物を所有人民より寄附せられたのみならず、同四十八年二月二十三日村内有志の人民は金五十八圓を醵集し、人民控所一棟及廳舍外圍の板塀十五間を建設寄附せり、明治廿七年四月一日更に市川町市川丁目下出口に四百九十六番地田上治郎右衛門所有敷地八十五坪を一ケ月借地料一圓七十一錢の契約を以て借り上げ、平家木造の廳舍一棟を新築し、同年八月十五日落成之に移轉し、爾來今日に至る。

市川警察署

市川警察署歴代署長名

年次		
明治十年	二等巡査	本間正治
同	警部	宇島和一郎
同	一等巡査	今井隼次
十一年		櫻井庄太郎

二等巡査　島崎溫知　十一年
同　永田長藏　十二年
同　高階留吉　十四年
同　牧野治三郎　十六年
警部補　結城綱吉　二十年
同　石津赳夫　二十一年
同　香取清英　二十五年
同　島海清　二十八年
同　齋藤倉吉　三十年
同　古畑鐵三郎　三十一年
同　桂勝信　三十三年
同　齋藤國藏　三十五年
同　齋藤長作　三十九年
同　水原俊峰　四十三年
警部　長谷川德藏　大正二年
同　吉田伊太郎　七年
同　倉持定次郎　十一年
一等巡査　永島辨次郎　十三年
巡査　菊地釩太郎　十五年
警部補　石津赳夫　十九年
同　清宮仙之助　二十一年
警部　服部友次郎　二十三年
同　新橋誠夫　二十六年
警部　海保忠三郎　三十年
同　靜田四郎　三十年
同　白井啓三　三十二年
同　山口謙二郎　三十四年
同　足立惇之助　三十五年
警部　八角六一郎　四十一年
警部補　稻川盛義　四十四年
同　苅込俊雄　五年
警部補　吉野甚藏　八年

警部　伊藤勳　十二年
同　爪生堪作　十三年
同　小笹伊之助　十四年
同　鶴岡半藏　十五年
同　中山泰明　三年
同　加瀨泰一郎　五年
同　鈴木要　六年
地方警視　小笹伊之助　八年

警部補　三名
巡査　三十九名

遠藤勝二　十一年
柴田平太郎　十二年
內田仲次郎　十三年
江澤賢治　昭和十五年
椎名昇一郎　二年
長田多一　四年
石原德太郎　六年
布施光次　七年
佐久間尙九　年

市川署定員（署長以下四十八名）

警視　一名
部長　五名

管內派出所

八幡　菅野中山　鬼越　鴻の臺
市川橋　眞間　鴻の臺練兵場上

松戸區裁判所市川出張所

一、場　所　市川市八幡五五八番地

二、開　廳　明治廿六年十二月（松戸區裁判所八幡出所張）

大正二年四月、千葉區裁判所八幡出張所

更に大正八年四月、松戸同

昭和九年十一月五日、松戸區裁判所市川出張所と改稱

三、取　扱　登記事務一切

出張所

抵當證券登記を始む、市制施行により金庫備附

四、昨年（昭和八年度）取扱件數

土地登記	三四〇〇	建物登記	九〇〇	船舶登記	一
工場財團	二〇	法人	一	商事會社關係	一一〇
商號登記	五	產業組合登記	二〇	漁業登記	二〇
住宅組合登記	二四	計	四四七九件		

五、管轄區域　市川市、行德、浦安、大柏、鎌ヶ谷、南行德

六、職員、書記　二名　裁判所書記　木川悌之亮　雇　中村良吉

七、昭和八年度登記料全額　四二五〇〇圓　總件數　四四七九

八、敷　地　一五〇坪

九、市制施行と共に事件の激增

昨年より約一千件の增加にして今後益々增加の傾向にあり。

○千葉區裁判所八幡出張所沿革（登記所）

明治二十六年九月十八日加藤卯之助氏及び小川銀之助氏共同にて廳舍の無賃借出許可になり、同年十月十五日出張所落成式を擧げ、同年本所開廳式を行へり。

本廳は松戸區裁判所八幡出張所と稱せしが、大正二年四月一日に至り、裁判所配合の結果千葉區裁判所八幡出張所と改稱さる。

明治三十三年廳舍の破損甚だしく、時の町長川上龜三郎氏等率先大改築を行ひたるにあり、其間一時同區富田屋構內に假廳舍を設けることあり、下りて大正五年に至り、破損狹隘を告げ一面町の體面に關係あるを以て、時の町長松丸清之助氏町會議員川上龜三郎、加藤信一郎氏等之を町有に移さんことを劃策し、先づ其の一着手として敷地坪數一五二坪五合五勺を買上げ今日に至る。

公設消防組

市川市諸團體の合併統一は、遲くも年度變りの昭和十年三月中までに行はれるが、先づ消防組は全部で廿六部とな

り、組員實に一千二百名、自動車ポンプ六臺、ガソリンポンプ十五臺、手押ポンプ僅か七臺である。本部を設ける外三部一小隊の編成をなす管である。

公設市川消防組

本市消防組は此の地方傳統の犧牲的精神の發露により、縣下有數の優秀消防組として名聲高く、金馬籠の使用允許の榮譽を擔ふ。

消防精神の旺盛と相俟つて、諸設備は充實完備以て市川市の公設消防組として恥かしからぬ體面を保たんとしつゝあり。

第一部（三丁目四丁目）喞筒自動車チヤンドラ號（昭和五年三月購入）
第二部（市川新田）同　ハドソン號（昭和四年十二月購入）
第三部（平田）同　フォード號（昭和五年十月購入）
第四部（眞間）タービン式手引ガソリン喞筒（昭和三年十月購入）
第五部（一丁目）喞筒自動車フォード號（昭和六年十一月購入）
第六部（根本）タービン式手引ガソリン喞筒（昭和七年十月購入）
第七部（二丁目）ローター式手引ガソリン喞筒（昭和三年九月購入）
第八部（五丁目）同（昭和三年十一月購入）
第九部（國府臺）同（昭和三年九月購入）

組頭　福地新作
副組頭　内田雄治

公設中山消防組

消防組	部數	組員			消防機械		
		組頭	副組頭	小頭	消防手	自動車喞筒	瓦斯倫喞筒	腕用喞筒
一	六	一	一	二〇	二三〇	一	二	三

公設國分消防組

役員　組頭　舊村長兼任、副組頭　田中彌助、主事　一　部長　七　消防手　三八六名
ポンプ　手動式手引ポンプ七臺
昭和九年二月十一日金馬籠一條を受け其使用を允許さる。

公設八幡町消防組

組　一部　四
組頭　一　副組長　一　本部長　一　部長　八　小頭　八
組　頭　松丸丘三
消防手　二七九名

使用ポンプ　ガソリン手引車四臺
貯水池　十二ケ所（内六ケ所は人工池後六ケ池は天然河川を利用冬季堰を設けて使用に供す）

娯樂機關

三松館（映畫館）

一、位置　市川町川一〇七二（三本松）一二〇
二、組織　個人經營　村瀬虎雄
三、開設　大正十三年十月
四、現在一日　大、小——三五〇（人員）
五、開設時間　午後一時——午後十時
六、フイルム　日活。外寫。
七、一ケ月收入　千五百圓
八、交流を直流施設にする計畫あり。

市川松竹館

一、位置　市川市市川新田一六五　電話五五六
二、開設　昭和六年
三、前身　春日會館——約五年前——昭和四年、松竹館となり三年

四、組織　株式會社　社長　福地新作
五、毎日入館人員　二五〇名
六、松竹映畫
七、開設時間　午後一時——午後十時
映畫經營者、營業擔當者　石井吉郎
外に市川館一つがある。

市川町花柳界

市川三業組合（電話市川一二六、五三四番）（世俗鴻の臺三業組合）

創立　大正十年頃
組合區域内置屋及び藝者

1 春之家　ちやら、文彌、小蔦
2 分中村　君子、一平、三太郎
3 柏屋　勝巳
4 竹之家　一福、幸丸
5 中村家　一榮、二葉、とき
6 櫻川　抱へなし
7 藤久野　久松、松千代、みどり
8 初春の家　〃太
9 清三筋　小たか、千賀子、叶子
10 金中村　金次
11 吉柏家　小僧、かほる
12 新久本　五郎

13 新柏家　桃壽　一松家　一奴　四〇四

15 千代柏家　か奈め、千丸

玉　代（時間制）一時間毎に一圓四十錢

御出先特別サービス、一時間酒一本お通し附一圓八十錢也

市川三業組合

春の家　三六〇　清三　飯　一七八　藤久野　四〇一　吉柏　二一

市松家　五七九　竹之家　五五三　金中村　二五五　柏屋　五三

新久本　三〇五　分中村　四三　中村家　三九

料理旅館

一柳　二二〇　田甫　二四三　月　二〇六

料理屋

鈴むら　五二八　鴻の字　三六三　華の江　四五五　高砂　一七四

榮樂　五三一　壽司代　七八　江戸川園　四三三　中藤　三二四

伊勢金　二六二　井筒屋　一〇六

眞間三業組合

見番事務所々在地　市川市市川眞間二〇

電話番號　市川五七

組合長　金親正直

創立年月日　昭和二年十月

組合内置屋及び藝妓名

藤本（電三〇四）藤本、藤丸、染子、のんき、金時、半玉桃太郎　品菊家

喜音家（電三七六）年榮、兒太郎、才三　若竹　小金、竹千代

瓢家（電三三七）お稻、ひよこ、歌丸、玉枝　喜利家（電三四三）幾代、幾千代、照子

文の家　文二　富むら（電六四四）富次、小富、富代

千代本　てい子、音千代

東川　玉太郎、半玉金太郎、常間助平、喜久八　常盤　德子

若松家　金大和　金若、金香

菊ふじぼんた　立花　小秀

米本　仁香（ヒトカ）、節江（セツエ）

玉代（時間制）一時間二圓五十錢、二時間一座敷三圓二十錢

音頭　眞間音頭　別紙の通り

料理旅館

一直園 電一〇八 三二 小松園 三八
東華亭 三七 萬屋 一一六
福の家 一三二 北邑 六九

中山三業組合

組合長 五十川玖表
事務所 市川市中山町四九二（電北八幡一〇）
創立年月日 昭和四年四月頃
組合内置屋及藝妓名

吉田家（電 七二）一若、萬太郎、長松
鈴本（電三一六）奴
一藤（電三〇〇）一丸、竹丸
清井筒（電三一〇）香代、仲代、民代、ます子、半玉そめ子
梅の家（電二六七）仲助、かの子、半玉梅香、おきな
梅本（電 七）喜樂、五郎、半玉つばめ
新靜本（電一七六）力彌、力丸、靜枝、龍枝、半玉久枝
福筒井（電一七六）小歌

林家 四六
大松 六六
松桃園 三〇
豊の家（電 七二）琴丸、秀丸
東家（電三三三）メ治、太郎
米本 小三
桝角家（電一一〇）小奴、ちやめ、小僧
ことぶき 竹松、鈴丸

栃木屋 七一
淡淡亭 四三八
松雲閣 二三一

福田家（電二五〇）
新ことぶき 玉太郎
タイコモチ 東川忠六

君の家（電二〇一）小はん、八千代
新玉屋 玉八、

料理旅館

妙泉閣 電一一九 二一七
中山荘 電三〇六
森田家 電 三五
金福 電 二七
上角庄 電一二七
三桝家 電 六三
壽美家 電二二四

料理屋

黒門 電 一〇
琴月 電二二八
美登里 電一六四

旅館

吉本
玉代（時間制） 一時間 一圓五十錢

◎電話は全部北八幡なり

一直園（割烹、旅館、料理）

一、場所 市川新田眞間一五八 電話市川一〇八・三二八
一、開業 大正十年
一、坪數 二千三百坪

一、建　坪　十七棟
一、庭　園　雅趣に富み、庭園千四百坪

眞間音頭

市川眞間三業組合
演藝部作詞作曲
花柳輔一郎振附

〈市川よい〉　都の東　ヨホ、イ
里見城跡　里見城跡　古戰場
コリヤ　見タイ見セタヤ　眞間の里。

〈市川よい〉　櫻の名所　ヨホ、イ
眞間の色街　眞間の色街　春霞み
コリヤ　行コカ行タヤ　眞間の里。

〈市川よい〉　三本松は　ヨホ、イ
眞間の入口　眞間の入口　道しるべ
コリヤ　見ショカ見セタヤ　眞間の里。

〈市川よい〉　緑りが丘の　ヨホ、イ
鐘も遙瀬の　鐘も遙瀬の　橋渡し
コリヤ　來タイ行タヤ　眞間の里。

〈市川よい〉　こぼれ日あびて　ヨホ、イ
二人たのしい　二人たのしい　ピクニック
コリヤ　行コカ行タヤ　眞間の里。

市川ダンスホール

所　在　市川市市川町三丁目四三六　電話番號　市川六五九番
組　織　三名、出資　萩野貴右、佐子惣次郎、恩河朝健
ダンサー數　見習共三十名
スター　1、伊藤華子　2、佐藤一枝　3、佐原勝枝　4、扇美矢子　5、眞田美吟子
料　金　夜十錢　晝五錢
沿　革　昭和七年十二月創立
開業時間　午後二時から十一時迄
一日平均客數　約八十人（日曜祭日を除く）
音樂裝置　タンゴバンド　ジャズバンド
特　長　家庭的（東京に比し料金半額）
ダンサーの品性向上に勤め、月二三回茶話會の形式にて支配人が孝經の講義をする。

市川競馬場

一、場　所　行德町字内大洲　　二、敷　地　十五町歩
三、コース　一八〇〇米（公認に習つてやる）　　四、開　設　昭和七年十月
五、組　織　千葉畜産組合聯合會が主催
六、職　員　會長　歴代知事、副會長　内務部長　平野由太郎、理事　農産課長
七、馬券制度　一票一圓、單複、拂戻は規定により十倍以下
八、競馬期間　春秋二期、全國地方競馬協會で日時は決定、一期四日間
九、賣上高　一期約七十萬圓（關東第三位）組合利益二割、二割の使途馬匹改良費に充當
十、建　物　投票場一棟、入場券賣場一棟、景品引換所一棟、
十一、地形上　關東競馬第一位の交通網
十二、將來スタンドその他設備の完備により、關東一、二の地位となる。
　　檢量場一棟、事務所一棟、厩舎八棟、審判所一棟
十三、所要工事費　馬場三萬圓、建物十五萬圓　　十四、第一回競馬　昭和七年十二月（場所は九月に決定）
十五、創設功勞者　浮谷竹次郎、平山米太郎　　十六、競馬場設置による市川の利益勘からず年額七八萬圓
十七、入場人員　一日約二萬人、一期約八萬人　　十八、競技種目　駈歩、繫駕、騎乘速歩

設備完成東洋一を誇る中山競馬場（農林省公認）

東洋一を誇る宏莊なるスタンドと優雅な音樂堂を持ち、春秋二期の競馬は全國のファンを熱狂させる本競馬場は、昭和八年以來から總工費三十餘萬圓を計上して、着工中であつた障碍馬場、葛飾町國道から競馬場に至る專用道路厩舎から下見場に通ずる地下道等の新設及び勝馬投票場、一、二等スタンド改築等が落成し、内外の設備が完成善美をつくし、全國に冠たる競馬場となり、急坂二ケ所を取入れ、全部で十六障碍と云ふ全國一の障碍であり、尙專用道路は眞中に柵を設け車道となし、兩側を歩道とし自動車追拔きを防止する循環線で、バスは二等席前、圓タクは一等席前縣道の二ケ所に停車場を設け、混雜と事故を防止する事に設備される爲め、ファンの入退場は頗る便利となる譯である。

交　通

驛より十八丁、貸切十分二圓、乘合十分三十錢、京成では當日臨時に附近に停留所を開く。

第六編　會社及金融

第一節　概說

關東大震災により東京市の過渡的郊外住宅都市として、昭和九年十一月市制の實施を見たる我市川市は、自ら消費都市であり、從つて本編を修飾する彩りは、自ら稚々たるものに過ぎぬ。數十の會社ありと雖も線路下に存する共立モス、寶酒造その他二三のものを除けば、他は殆んど手工業の域を脱したるに過ぎず、本市將來の工作が如何に進むかは未知數にして、生産效果の上から工業都市として建設するか、將又清楚優雅なる郊外住宅都市として實現せしむるかは、將來に囑された重大なる問題である。今日に於ては、何れにも發達の要素は充分に具つてゐるが、此の兩者は、眞の發展上兩立し難き半面を持つてゐる。蓋し工場の立ぶ所によき住宅は存し得ぬからである。此等の問題は直ちに都市計畫に密接なる關係あり、局に當るものゝ考慮を要する處である。目下に於ては此の如き狀態なれば、金融機關も又僅かに銀行二、信用組合一、無盡會社二あるのみにして、又それを以つて今日の要を辨じてゐる狀態である。

次に本市の會社及金融機關を表示し、主なるものに就き簡單なる說明を加へる事とする。

第二節　會社

會社名	創立月日	營業種別	出資額又は資本金	總額拂込額
千葉合同銀行市川支店	昭和三年五月	預金貸付	六、九五〇、〇〇〇	—
川崎第百銀行市川出張所	大正十五年七月	預金貸付	—	—
東京毛布株式會社	大正七年十一月	毛織物	一、〇〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
東葛印刷株式會社	大正十四年四月	印刷	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
市川合同運送株式會社	昭和二年三月	運送業	一〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇
三菱合資會社	昭和五年十月	不動産賣買貸管理	一二〇、〇〇〇	—
葛飾瓦斯株式會社	昭和元年十二月	瓦斯	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
合資會社　中山商店	大正十四年一月	穀類商	一八、〇〇〇	—
合資會社　柏屋洋品店	昭和二年一月	洋品販賣	三、〇〇〇	—
合資會社　市川製氷所	昭和三年十一月	製氷	三〇、〇〇〇	—
合名會社　東葛牧場	昭和二年十一月	牛乳	六、〇〇〇	—
合資會社　田甫	大正十五年	料理旅館	五、〇〇〇	—

合資會社	兄弟ゴムタイヤ製造所	大正十四年六月	ゴムタイヤ製造	三、〇〇〇	—
株式會社	春日會館	昭和四年十一月	活動寫眞館	二〇、〇〇〇	一九、三八五
合資會社	東京銅瓦板製造所	昭和四年四月	銅瓦板製造	二九、〇〇〇	—
則武保全合資會社		昭和四年三月	土地建物賃貸賣買	一五、〇〇〇	—
博愛株式會社		昭和五年六月	葬儀一式	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
合資會社	丸千百貨店	昭和五年一月	百貨販賣	二五、〇〇〇	—
合名會社	江戸川絞染工場	大正十二年三月	絞染製造加工	二、一〇〇	—
合資會社	大和屋書店	昭和四年八月	書籍類販賣	一、〇〇〇	—
合資會社	藤代商店	昭和四年十一月	鷄卵販賣	五、〇〇〇	—
合資會社	市福商店	昭和四年十月	土地建物賣買仲買業	六、〇〇〇	—
合資會社	野村商店	昭和四年十月	土地建物賣買仲立業	二、三〇〇	—
合資會社	長水	昭和五年十一月	金融仲立業	三〇、〇〇〇	—
合資會社	染谷商店	昭和五年九月	料理旅館	六、四〇〇	—
合資會社	加藤塗料製造所	昭和五年四月	建具製造	五、〇〇〇	—
合資會社	國府臺倍行社特約店	昭和五年三月	塗料製造	五、〇〇〇	—
山下電氣合名會社		昭和五年十二月	食料品販賣	三、〇〇〇	—
			電氣工事請負		

藤井同族株式會社		大正五年二月	土地建物賃貸業	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
藤井保全株式會社		大正七年十二月	保全會社	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
軍用品製作株式會社		昭知六年七月	皮革及皮革製品製造業	二五、〇〇〇	八、八七五
合資會社	大信工務所	昭和六年十二月	建築請負	二、〇〇〇	—
同	澤田牛乳搾取販賣店	昭和六年十二月	牛乳搾取販賣	一、五〇〇	—
同	糸賀商店	昭和六年七月	空瓶類販賣	五、〇〇〇	—
同	松桃園	昭和六年十月	料理旅館	五、五〇〇	—
合名會社	スヤヤ商店	昭和七年三月	菓子食料品販賣	三、〇〇〇	—
三陽合資會社		昭和七年七月	機械器具販賣	二、〇〇〇	—
合資會社	山新商店	昭和七年八月	薪炭石炭販賣	一、〇〇〇	—
同	大坂屋本店	昭和八年一月	雜貨商	一、〇〇〇	—
愛聖堂合資會社		昭和八年七月	雜商貨	七五〇	—
合資會社	水谷商店	昭和八年十月	穀類調味料	五、〇〇〇	—
共立モスリン株式會社		昭和二年七月	モスリン製造	四〇〇〇、〇〇〇	—
寶酒造株式會社		大正十五年十月	燒酎製造	六一九八、〇〇〇	—
日本パイプ株式會社		明治四四年九月	パイプ製造		—

岩上合資會社	昭和二年七月	土地建物賃貸	五〇、〇〇〇	—
合資會社杉山商會	昭和五年二月	牛乳搾取業	八、二〇〇	—
合資會社祐伸社長島牧場	昭和六年三月	牛乳搾取業	八、〇〇〇	—
合資會社保富商會	昭和七年八月	セルロイド製造	二、〇〇〇	—

共立モスリン株式會社

場　所　市川市鬼高一六一番地　電話市川六二四番、六五七番
創　立　昭和二年七月
社　長　川西清司
支配人　高野吉太郎
資本金　四〇〇萬圓　全額拂込
販　路　東京、名古屋、大阪、方面を主とし全國
原料供給地　濠洲
職工數　一八〇〇人
職員數　五五人
分工場　群馬縣館林
沿　革　上毛モスリン存せしが不況の風を受け、解散その後身として昭和二年設立したるものにして、以後二回の增築、日本毛織の姉妹社として、密接關係あり、設備完備す今日は八分の利益配當をなし、全國でも有數の會社として好況を示す。
特殊設備　共立モスリン女學校、青年團、訓練所、野球、庭球倶樂部、武道場等設備の完備せること殆んど全國に其の類を見ず。

日本パイプ株式會社

場　所　市川市菅野二二八番地　電話市川七三番、北八幡一〇五番
創　立　明治四十四年九月
社　長　松村鶴造
八幡工場　社長代理　五明豊美
本　社　東京市本所區竪川町二丁目三ノ五
製造品目　コンヂット・チューブ及附屬品、銅管
販　路　內地及滿、鮮
原料供給地　內地及獨逸
職工數　三〇〇人
職員數　五五人
沿　革　明治四十四年九月武田宣英氏創立當時の資本金十萬圓なりしが、十二萬五千圓に增資、次いで十五萬

圓、三十萬圓、六十萬圓と增資、段々發展して今日に及ぶ、社は益々好況を示す。

寶酒造株式會社市川工場

本　　社　京都市伏見區竹中町

創立及沿革　大正七年帝國酒造株式會社設立せられ、商況振はざりしが、大正十五年十月寶酒造之を買收せり、今日市川の外四ヶ所の工場を有す。

資　本　金　六一九八、〇〇〇圓　拂込額　三九四八、〇〇〇

社　　長　四方卯三郎

市川工場長　加藤辨三郎

使用人員　職工　一七〇人、職員　一五人

生産額

燒酎	二二〇〇〇石	一七六〇、〇〇〇圓
味淋	一三〇〇〇	一五六〇、〇〇〇
白酒	四〇〇	四〇、〇〇〇
計		三三六〇、〇〇〇

原料供給地　內地、滿洲及南洋

販　路　關東、東北、北海道

葛飾瓦斯株式會社

本　　社　市川町眞間二〇　電市川三五九番

工　　場　市川市市川新田石代七二　電市川三六二番

船橋營業所　船橋町海神中濱田　電話船橋三二七・四六〇

創立月日　昭和元年十二月二十六日　昭和三年十月より供給開始（市川町のみ）

現在供給區域　市川市、船橋町、小岩町の一部

資　本　金　五十萬圓　拂込　二五萬圓十

製造能力　一日　一〇五〇〇〇立方呎（住宅都市として需要家三五〇〇戶）

副産物　瓦斯コークス、コールター

生産價額　約十萬圓

原　　料　三井、三菱（石炭を主とす）

埋管の延長　十一萬四千米

役　　員　社長　本多貞次郎、專務取締役　浮谷權兵衞、取締役　三橋　彌、同　松崎新次郎、同　內田幾助、監査役　田原德次郎、新山武雄、理事　小川富士男、

合名會社東京精鍛工所

場　　所　市川新田一一

組　　織　合資會社　東京精鍛工所　電市川長三四一・六三五

創　立

代表者　石川隆三

資本金　十一萬圓

營業科目　自動車、自動三輪車、兵器、艦船、航空機、諸機械用部品、型鍛造品並に火造品及仕上作業專賣特許

菊富士銅板、製造販賣

技師　三名、技手　二名、技手補　二名

顧　問　高橋和人

職工數　五〇名

工場敷地　九二七坪　工場及附屬建物　三六六坪

一ヶ年生產高　五〇萬圓

販　路　內　地

沿　革　大正九年三月　京都市下京區に石川工業所を創設し、從來手工業銅瓦板を製造、大正十三年三月　工場を市川町に移轉商號を東京銅板製造所とし、昭和四年三月　資本金三萬圓の合資會社組織とし東京銅瓦板製造所と改稱す昭和八年二月更に資本金三萬五千圓に擴張、同九年二月　增築設備をなし、昭和九年七月又々資本金十一萬圓に增資し商號を合資會社東京精鍛工所と改め今日に至る、商標は東京銅板製造所とす、昭和四年五月三日　菊富士銅板の專賣特許を受く。

設　備　第一鍛工場、第二同、仕上工場、變電所、その他

合名會社東葛牧場

位　置　市川市大字市川一六六一

創　立　昭和三年五月（個人經營として明治六年開設）

資本金　六千圓　全額拂込

供給區域　市川市、東京市（卸）

頭　數　乳牛十三頭

現在供給石數　平均一日　二石五斗　卸　一石　市川一石五斗

社　長　松田五郎吉、專務　吉田稻之助

小澤合名會社

場　所　市川市字市川

創　立　大正九年

製造品目　眼鏡

販　路　內　地（東京、大阪）外　國（印度、南洋、濠洲）

原料供給地　內　地

年生產額　二〇萬圓乃至三〇萬圓

使用人員　二〇〇
代表社員　小澤元重

小澤信工舎製作所

場所　市川市市川一二八四　電話市川二五八
創立　昭和八年五月
組織　個人經營
主要製品　シガーケース、シガーライター、その他金屬製品
販路　輸出が主（八割）殘二割内地
原料供給地　眞鍮――東京
生産額　六萬圓
職工數　五〇名　職員　三名
工場新築中　三六〇坪　工費　一萬圓
所長　小澤久信

北越製紙株式會社

本社　長岡市藏王町八百番地
現在資本金　金六百萬圓也（内拂込金四百五十萬圓）

諸償却金　三百七萬圓也
創業以來五十五期間配當率平均　年一割
最近配當率　年一割
積立金及繰越　金百六萬二千七百圓
一ヶ年生産高　板紙　一萬八千噸　洋紙、六千五百萬封度
輸出向　仕移出先　英領印度、蘭領印度、馬來半島、香港、上海、天津、浦鹽、關東洲、滿洲、朝鮮
從業員數　八百二十四名
工場設備　長岡、新潟、市川
市川工場　千葉縣市川市所在　大正九年運轉開始
敷地　二〇、六九二坪六一
總建坪　三、三四〇坪五二七
抄紙機械　長網式　八十六吋　二臺
火力發電所　發電能力　一千「キロワット」時
社業の沿革　同社は明治四十年五月故田村文四郎、故覺張治平の兩氏主唱となり、資本金七十五萬圓を以て創立し板紙抄紙機一臺を据付、翌四十一年操業を開始したるに創り、爾來二十有七年其間增資を重ねること三回、當初に比して八倍の資額に達し、工場は三ヶ所、抄紙機は八臺、外に亞硫酸パルプ、碎木パル

プ、年額二萬六千噸の裝置を設備し、製紙年額は一億萬封度に達し、正に創業當時の十倍に達せり。

第三節　金融機關

千葉合同銀行市川支店

所在　市川市字市川四九八　電話市川一二九番
支店長　清水靜司氏
本店資本金　六九五萬圓也
本支店預金總額　三八二七九、五六五圓也
創立年月日　東葛飾郡內銀行が合同して市川支店が生れたのが昭和二年である。
頭取　古莊四郎彥氏
從業員　中山出張所員共支店長外八名

千葉合同銀行中山出張所

開設　昭和九年七月　以前中山支店——昭和三年九月出張所となる
出張所長　石井金吾
資本金　六九五萬圓

川崎第百銀行市川出張所

場所　市川市三木松
創設　大正十五年十二月
沿革　大正十五年十二月舊市川町四丁目に假營業所を開設、昭和四年十二月現在の地に新築移轉す。
營業區域　市川市、行德、小岩
金融範圍　約一割

千葉無盡株式會社市川出張所

所在地　市川市五丁目一〇五八　電話市川五六二
創立　昭和三年九月（本社創立大正二年）
本社　千葉市千葉五二〇
營業區域　千葉縣一圓
資本金　十五萬圓　十萬五千圓拂込
出張所區域　市川市、行德、南行德、浦安
目的　勤儉貯蓄金融（二百五十圓　千三百五十日　一日掛金二十錢）
（五百圓　同　四十錢）
（一千圓　同（三年間餘）　八十錢）

社長　伊藤精

國民共濟無盡合資會社市川出張所

位置　市川市二丁目三〇八〇番地　電話四七三

本社　千葉縣香取郡佐原町

資本金　三萬圓　全額拂込　縣下出張所二十六

營業區域　市川市、行徳、小岩

社長　遠山七郎氏　市川支配人　田村郡造

出張所創立　昭和七年頃より手を延ばし昭和九年三月七日開所、昭和十年には組織變更株式にして增資計畫

一口　千圓　六十回　五百圓　三十五回

三百圓　四三回　三五回

二百圓　三四回

百圓　三五回

月　二十一圓

三圓

市川信用組合

場所　市川市市川

創立　昭和三年七月

組合員　五〇五名

一口出資額　二〇圓

拂込金　年末現在額　四八、四四七圓（昭和八年度）

主なる役員　組合長　石井靜、常務理事　宇田川祐藏、監事　高橋健夫（外二名）

沿革　舊市川町の金融は大正の末期梗塞の途を辿りて、殆んど其底止する所を知らざるの情勢に鑑み、同憂の志相議りて、昭和三年玆に信用組合設立に着手、爾來營々努力百有餘日、六月十五日準備成りて市川町役場に合同す、其の氏名

宇田川祐藏、門馬將興、岡澤是平、皆川常吉、細谷松次郎、石井靜、高橋健夫、鈴木秋太郎、岡本傳右衞門、宮田森藏、高柳正秋、坂本元次郎、福地兼吉、內田作次郎、津田富作、石原勇吉、諏訪原勝次郎

斯くて昭和三年六月十六日有限責任市川信用組合設立許可申請書を千葉縣知事福永尊介氏宛提出、七月二日設立の件許可せらる。同月二十八日事業を開始す、事務所昭和四年十二月末迄高橋健夫氏住家內に設けしが、後市川五丁目に新築移轉す。

當時の組合長は石井靜氏、

第七編　社會事業及公共團體

第一節　概　說

凡そ太古蒙昧の時代自然經濟即自給自足經濟の社會に於ては、人と人との間に交渉なく、從つて、公共團體もなく、社會事業も存しないが、而し人類文化の向上に連れ、交易經濟の社會となるや、人類の生活は派生化され、玆に社會政策の要も起り又、諸種の團體が生るゝに至る。

吾が市川市も今日迄は社會的施設の緊要性も薄かつたと云へようが、今後は文化開發の上から種々の社會衛生に目が注がれなければならぬ。目下二三の施設ありと雖も實に稚々たるものと云はねばならぬ。本市發展の爲めの文化的施設と相俟つて、社會政策的施設は日一日とその必要性が認められなければならぬ。文明が開化すればするだけ、此の如き救濟機關の必要なるは今更多辯を要しない。

本市の將來に殘された大きな問題と敢て吾人は云つて置き度い。

第二節　社會事業と其施設

市川市方面委員

方面委員の仕事たるや其の範圍實に廣汎にして、而も今日の社會に必要なる機關である。その業蹟が擧がる時は、社會政策的施設として詢に有意義なものであるが、その範圍、方法の指示なきが故に、放任すれば有害無實に了り易い。本市に於ても且ては或地方に於て、方面委員助成會を設けた程であるが、未だ特筆すべき聲を聞かない憾みがある。蓋し、本市に止まらず全國共該施設の眞の效果を吾人は耳にしない樣である。新興都市吾市川の將來に於ては、折角存する機關の存在を意義あらしめて、社會衛生の實を擧げ度いとは、蓋し文化の開發と相俟つて、社會の希望である。

小宮權太郎	市川市國府臺二〇	西川惠雄	市川市眞間三三六
横田信四郎	同　眞間九九三	酒井實祐	同　二五八
後藤仁助	同　新田二九六	前田朝吉	市川市　三〇〇八
宮崎銀次郎	同　平田二一一	武井俊次	市川市　九九
稻毛清	市川市　三一六三	浮谷準太郎	同　新田二三六
北川民藏	同　八幡　六六	染谷與平治	同　宮久保四〇八
松丸丘三	同　菅野四三〇	川上孝之助	同　八幡五〇四

谷口金太郎　同　鬼越八六　福田伊右衛門　同　鬼越九八
湯浅利助　同　高神石　伊藤松太郎　同　中山五四五
皆川傳吉　同　北方二一〇九　山崎政之助　同　國分一七〇五
松丸甚藏　同　稻越一一三三

本市健康保險醫及簡易保險醫

野中景吉　田村用良　遠藤龜之助
御園生政一　宮寺卓爾　後藤五郎
大和田春郎　小林長衛　桑島眞次
小坂美郎　道津幸雄　內山浩
清水貞子　吉岡利光　杉田理千代
中島清明　中村仁　高橋統閏
櫻田桝太郎　松原松藏　岡本實
津々見仙甫　星野憲藏　大野潤一郎
大峽清太郎　久保田愼　國井光泰
吉田眞　篠崎せき　服部善一
古川智　戸塚環　戸塚千代
峯永春雄　廣瀨安之　藤原豊次郎
島海照雄　內田嘉人　尾林秀雄
高橋壽子　樋田鉄太郎　川瀨春雄
高橋文雄

計　四十三名

市川市職業紹介所

所在　市川市三丁目四八四番地　電話市川六三一番

主任　白井高義氏

沿革

市川市職業紹介所は創立後爰に四年を經過して居るが、其間には相當に複雜なる變化がある。昭和六年八月千葉縣社會事業協會の經營に依て、舊市川町議事堂の一部に臨時事務所を設けたのが此紹介所の創始であつた。當時恰も時の內閣に依て、旺んに地方失業救濟事業が行はれ、本縣は、七號國道の大改修工事が開始せられて、爲めに當時の勞働需給は頗る活潑に動いた。當時臨時市川職業紹介所が東葛南部一帶に亘る勞力需給調節に勉めた効績は偉大なるものがあつた、傍ら一般紹介をも扱つて居たが、次第に斯業に對する町民の認識が深められた結果、一般紹介業務も大いに繁忙を極めて來たので、昭和七年に初めて町會に提出さるゝ事となり、同年五月二十五日附內務省認可六月一日を以て市川町營職業紹介所として、其儘業務を繼承して現地に約四年間の月日を過て、今般市制と同時に市川市職業紹介所と成つたのである。此間に於ける現主任白井高義氏が、白熱的献身的に奔走された功績は、實に尊いものがあ

る。

職業紹介所の諸活動

光輝ある新興市川市の社會施設方面を一瞥するに當り、吾等が忌憚なき感想を述ぶるならば、都市の樣態に照して餘りに立遲れと言ふよりも蓋ろ無關心に過ぎはしまいかとさへ想はれる。

然し乍ら社會政策の寂寥さを想はせる中に、只一つ市職業紹介所がぴか一の存在として、夙夜多端な事業を取捌いて居る狀況はせめてもの心强さを想はせるものがある。

隨つて市職業紹介所の活動概況を紹介する事は引いて目下の社會政策の大部を爲すものであるから、聊か精細に記述する事とした。

職業紹介所は職業一般に付て紹介を爲すの外産業別、性別、年齢別等に依り日傭勞働、婦人、少年、知識階級、除隊兵、臨時雇傭人等特種の紹介を必要とするものに付ては夫々專門部を設くる等事務の合理專門化を圖り、職業紹介所の機能の發揮に努めて居る。

(一) 一般職業紹介

職業紹介所の取扱ふ範圍は各種の産業部門に亘つて居るのであつて、是等各方面より來る勞働者の需要と供給を結付けて居る。而もそれは適材適所主義を以て一貫して居るのである。又適材を適所に紹介する爲に絶えず職業の調査研究と適性の理解並適性檢査の利用に意を注ぎ、そこで合致を見なければ全國の職業紹介所と聯絡をとり或はラヂオ放送新聞の利用に依り迅速に紹介する樣に努めて居る。其の他不正不良求人求職者の防止の爲には信用調査、身元調

査を行ひ確實な紹介を爲し得る樣努力して居る。

(二) 日傭勞働紹介

日傭勞働者の職業紹介は他の一般職業紹介と異り、日々紹介斡旋をなすと共に必要に應じては賃金の立替、勞働要具の貸付等も行ふ事にして居る。

又日傭勞働者の失業救濟事業の起興に際しては、職業紹介所に於て要救濟者の登錄を行ひ、勞働手帳を交付し需要人員の紹介をなし、且つ事業現場員、就勞統制員と聯絡して就勞の公平を期して居る。又民間事業へも極力求人の開拓を爲し此の方面の需要も漸次增加の傾向にある。之に具ふる爲豫め勞働者の技能を調査し置き、求人に從ひ速に所要勞働者を供給する爲め適材主義の紹介方法も實施して居る。

(三) 少年職業紹介

實社會に巣立ち行く少年は未だ世の中の實情に暗いし、心身も未だ發達して居らない爲、職業選擇に就ては正しき判斷を缺き、就職後も種々動搖するものが多い。或は誘惑に禍され懶怠に陷り、或は濫りに離職し轉々として一定の職業が身につかず、甚ては失業者浮浪者の群に落ちゆく等憂ふべき幾多の社會現象が少しとしない。斯の如き實情に鑑み、職業紹介所は少年の就職の爲め、特に小學校と聯絡提携し先づ勤勞愛好の精神を涵養し時には休暇を利用して職業の見學、調査、實習、講習會等を實施し將來良き職業人たらしむるの自覺を促し、職業の選擇に當つては兒童の身體、個性、家庭環境を調査し、或は職業相談に應ずる等適職への誘導に努めて居る。之が爲めには少年の就職案內に關する各種の印刷物の配付、父兄懇談會、求人者懇談會、打合會、講習會等の開催、適性檢査器に依る性能診査等

を爲して居る。就職後に於ても就職少年の輔道に努め、確りした職業生活の樹立に力を致して居る。尙大都市就職希望少年の就職に就ては地方、都市相互間の職業情報の交換を密にし、少年の就職に充分の注意保護を加味した特殊の取扱方法を實施して居るのである。

（四）知識階級の職業紹介

知識階級に屬する失業者は相當多數に及んで居る。學校卒業者の增加と都市集中の傾向に基き、都市を中心とした知識階級の就職難は依然として深刻化の域を脫しない。同所は之等知識階級の失業者の爲め各方面に求人の開拓を試み、出來る丈け就職上の便宜を與へ、極力就職の斡旋に努力を拂ふて居る。

（五）除隊兵職業紹介

自家の休戚、自己の利害を顧みることなく、粉骨碎身軍務に服し皇國鎭護の重任を果して歸鄉する除隊兵の就職に就き不安を與ふることは國民皆兵の主義に反する。昭和六年十一月一日より入營者職業保障法が施行せられ、何人も被傭者の入營に依る不利益な取扱を爲すことは禁ぜられ、五十人以上の雇傭主には除隊後復職せしむるの義務を課して居る。一方復職の希望なき者、除隊を契期として轉職する者、新に職業を求めんとする者又少しとしない。此れに對し適職に紹介斡旋することは、蓋し職業紹介所本來の使命である。於玆同所は除隊兵の失業防止に關し社會的に注意を喚起すると共に第三旅團各部隊及同在鄉軍人職業補導部と聯絡提携し斡旋の任に當つて居る。或は關係部隊に出張し一般職業の需給狀況につき講演を爲し、或は直接面接の上職業相談に應じ或は軍部と協力し求人開拓に努め、實績を擧ぐるに力を致して居る。

（六）婦人職業紹介

近時銀行、會社、商店、工場に於ける事務員、店員、タイピスト、女工、並に一般家庭に於ける女中、臨時派出婦等の婦人の求人口が著しく增加し來りたると共に一方女子求職者も非常なる數に及んで居る、之が爲に同所に於ては婦人部を設け、之が取扱の便宜を圖ると共に之が斡旋に努力して居るのであつて、殊に競馬事務員の募集に際しては一時に數百人の女子求職者が殺到する狀況であり、女中の斡旋に付ては之が拂底の實情に照し、地方農村の婦女子に呼びかけて之が開拓をなし、婦人職業紹介に付ての活動は相當目覺しいものがある。

（七）移動紹介

地方から都會地に小店員職工見習を希望する少年及女中希望者又は土木建築勞働者にして工事關係上遠隔地に向つて移動せねばならぬことがある。職業紹介所は此等需給兩地間に介在して遠距離間の移動紹介を行つて居るが、失業對策として產業助長として非常なる貢獻を齎して居るのである。

（八）臨時雇傭人紹介

都市生活に於ては家庭其他に臨時の雜役人を求むることが多い。職業紹介所は派出す可き人を常に登錄し置き、是等需要に對し其の都度適當な人を差し向ける。營利業の場合と異り、求職者は入會金などの費用もかゝらず、求人がある場合に呼出を受けて働きに出る事になつて居る。最近當所は日雇供給部を設置して是れが專門的取扱を爲す事とした。

一般業務成績

今創業來四年間に於ける一般部門の業務成績を年度別統計に依つて見ると左の通りである。

一般職業紹介年次統計

年次	求人 男	求人 女	求人 計	求職 男	求職 女	求職 計	就職 男	就職 女	就職 計
昭和六年	二〇三	一四四	三四七	一九三	六八	二六一	六二	四六	一〇八
昭和七年	六〇五	一、二五五	一、八六〇	八二一	一、〇二六	一、八四七	二七〇	八二七	一、〇九七
昭和八年	六四五	二、二一七	二、八六二	七〇九	一、四六四	二、一七三	二五九	一、〇二八	一、二八七
昭和九年（十月末迄）	六〇三	一、三〇四	一、九〇七	五〇九	一、〇二六	一、五三五	三〇三	一、〇〇六	一、三〇九

右に徴すると逐年驚く可き比率を以て取扱計量が増加しつつある事が目に附く。

更に一ケ年を通じて其變化を見ると春夏秋冬によつて需給の波に著しい高低がある。今假りに昨昭和八年の統計に就て見ると左の通りである。

一般職業紹介月次統計（昭和八年歴年度統計）

月次	求人 男	求人 女	求人 計	求職 男	求職 女	求職 計	就職 男	就職 女	就職 計
一月	五三	二五八	三一一	七〇	九四	一六四	一一	三二	四三
二月	二二	五九	八一	五九	九八	一五七	一五	一四八	一六三
三月	七七	七三	一五〇	一〇一	五三	一五四	三六	三四	七〇
四月	五八	一一一	一六九	五一	一〇〇	一五一	一五	四七	六二
五月	七二	三一九	三九一	一〇二	二六四	三六六	五二	二二七	二七九
六月	三一	一七七	二〇八	四七	七六	一二三	一〇	二一	三一
七月	四〇	八〇	一二〇	五四	一二四	一七八	一九	一三七	一五六
八月	六八	三三二	四〇〇	五一	一六五	二一六	一二	三五	四七
九月	五四	二二七	二八一	五八	二六一	三一九	五一	二六八	三一九
十月	四四	七八	一二二	三七	四七	八四	一五	三一	四六
十一月	四二	一七二	二一四	四七	五〇	九七	一二	二九	四一
十二月	八四	三三一	四一五	三二	一三二	一六四	一一	一九	三〇
合計	六四五	二、二一七	二、八六二	七〇九	一、四六四	二、一七三	二五九	一、〇二八	一、二八七

以上は季節的需給狀況を示したのであるが、更に翻つて其内容を檢討して見る。即ち以上の取扱計量があらゆる職業分野に向つて何の樣な勢で流れて行くか、今是れを社會局大分類別統計なるものに依て同所の取扱ひを示すと左の樣な狀勢である。

職業別取扱年計　昭和八年　自　昭和八年一月　至　昭和八年十二月

職業分類	求人 男	求人 女	求人 計	求職 男	求職 女	求職 計	就職 男	就職 女	就職 計
工業及鑛業	一〇二	二七七	三七九	二〇七	九一	二九八	三四	四二	七六
土木建築	四八	三	五一	七七	五	八二	三八	二	四〇
商業	二六八	二七	二九五	一〇五	三八	一四三	六九	六	七五
農林業	二	—	二	三	—	三	一	—	一
水產業	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通信運輸	八	—	八	二七	一〇	三七	三	—	三
戸內使用人	一一	八二一	八三二	二八	三六一	三八九	三	二八一	二八四
雜業	二〇六	一、〇八九	一、二九五	二六二	九五九	一、二二一	一一一	六九七	八〇八
合計	六四五	二、二一七	二、八六二	七〇九	一、四六四	二、一七三	二五九	一、〇二八	一、二八七

同所の活動狀況や業務成績はさつと以上の通りであつて、共需給取扱の輻輳する事、及各般の施設の多角的なる事、到底一片の記事には盡し難いものがある。今や廣袤四ケ町村を集め四萬壹千の人口を包擁して起立した新興市川市の前途には益々社會問題の輻輳を招來し、是に向つて深刻に諸般の對策を考究せねばならぬ狀勢に立ち向つて居る時、一般の囑目を擔ひて立つ市職業紹介所の前途に一層の重責を背負ふものであるが、夫れにしても現在の勞力設備は此大任を負ふには餘りにも不備と申さなければなるまい。差し當り市當局が社會政策に力を致す第一歩は之が適當の解決でなければなるまい。

兒童教化、八幡學園

一、組織

總務部

庶務
1 恒例行事、學藝會、展覽會等の事項
2 學園諸規程事項
3 社會事業團體交涉事項
4 官廳關係（事業報告、諸種申請）事項

寮務
1 日課による園兒生活指導
2 保護者關係事項
3 寮舍內外淸潔整頓
4 園兒所有品、學用品並に實科用具整備等

會計
1 營繕修理
2 器械諸備品調達購入
3 諸物資購入
4 學園收支金及び實科作業による生產收支

教養部

精神教化
1 基督教主義と信仰とに基く薫化方針（禮拜、祈禱、訓話）
2 皇室尊重、國體明徴の教化
3 學科教育、實科指導等
4 書信及日記指導等

身體養護
1 體育心練
2 榮養食給與（縣衛生課指導）
3 遠足旅行プール游泳の行樂的運動
4 園兒保健衛生（冷水摩擦、ラヂォ體操等）

兒童研究部

醫療衛生
1 身體檢査及治療
2 食事献立表作成
3 教室及寮舍並に衣類寢具衛生
4 紫外光線照射

心性及家庭調査
1 精神測定、個性調査、兒童鑑別、教育相談
2 家庭、家系調査（遺傳環境）
3 兒童に關する心理學的、教育學的、社會學的調査研究
4 園兒家庭訪問（アフターケヤー）

教務
1 學科並實科配置
2 職員擔當、日課表作成、教材按配
3 參考資料蒐集及保存
4 小學校補助學級との交渉關係等

社會部
1 優生學的兒童愛護運動（精神衛生）映畫並講演
2 「精神薄弱兒童愛護協會」運動
3 「千葉縣私設社會事業聯盟」運動
4 月刊「兒童問題研究」發行　其他

二、施設

（一）事業種別及目的　精神薄弱兒童保護教養
（二）所　在　千葉縣北八幡町（京成電車八幡）東京事務所　下谷三の輪同善會內
（三）創　立　昭和三年十二月
（四）經營方法　救護費、養護料、官公衙補助奬勵金、篤志寄附金、賛助會醵出、同族會出資、實科收入、基金利

(五) 開設以來保護兒童（昭和八年六月末）延人員　二〇、〇〇〇人

(六) 定　員　四十名

現在收容
- 救護法該當者　一三名
- 方面委員紹介　三名
- 親權者直接委託　一〇名

(七) 建　物（三寮舍その他）　一五〇坪

土　地（農園とも）　八〇〇坪

(八) 恩賜金及官廳助成（昭和八年度）

宮內省御下賜金　三〇〇圓

內務省奬勵金　二〇〇圓

恩賜財團慶福會　二五〇圓

千葉縣助成金　五〇〇圓

同（三菱分）

園長　文學士　久保寺保久　　寮母　久保寺美智子

主事　園藝得業士　波邊實　　園醫　千葉醫學士　內山浩

藥劑擔當　東京藥學士　若林眞太郎　　囑託　技能（美校）　久保寺辰夫

囑託　技能（高工）　島田清久

北八幡保育園

一、場　所　市川市八幡町八幡一七七二番地

二、創　立　昭和七年五月

三、沿　革　昭和四年四月八幡町久保寺氏創立せしものにして、最初は精神薄弱兒と共に保育部を設け、經營せしも精神薄弱兒との交渉多くして保育部の成績面白からず、分離せんとの意思の處、銚子東岸寺住職上野純良氏之を引受け、獨立せしめて現地に保育園を昭和七年五月設立せしものなり。同氏は種々の隣保事業を營み多忙の爲め、愛孃つね氏に專ら依囑し、現在上野つね氏園長として、功績を擧げつゝあり。

四、園　長　上野つね

五、園兒數　七十名

六、保　姆　南條とし、上野とき

七、保育料　月額一圓五十錢（但し社會的施設なるを以て貧困兒には無料又は半額とす）

八、組織現狀　千葉縣公認社會事業の一、兒童保護施設として縣の補助を受く。

現園長上野つね氏は昭和二年銚子高女卒後更に東京帝都教育會附屬保姆傳習所を卒業したる才媛にし

て、獨身妙齡乍ら兒童の保護敎育そのものを趣味とし、熱心にして見識を供へ、今や町內父兄の信望も厚く好成績を擧げつゝあり。

第三節　公共團體

市川市農會

且て市川、八幡、中山、國分に存せし、町村農會は市制の實施と共に合併統一されて、市川市農會として、昭和九年十一月その成立を見た。去る昭和九年十一月下旬之が組織統一と役員の決定をなした。農會長には、浮谷横兵衛氏副會長に監物正三郎氏が任命された。

市川家庭購買組合（產業組合、消費組合）

場　所　市川市市川新田二五五
創　立　昭和五年七月
組合員　三百三十名
一　口　五圓
組合長　横田信四郎
種　類　有限責任

國府臺水道組合

本組合は大正十年十二月の創立にかゝり、資本金三萬圓を以つて國府臺一圓に飲料水を供給してゐたが、最近給水區域擴張の目的より、資本金三十萬圓增額の企劃あり。

江戸川水防組合

江戸川沿岸の水防の目的より設立する組合であり、嘗ては、大なる効果を見た事もあるが、最近の事業成績は少ない。行德町加藤氏を組合長とし、市川市より、石井、後藤（仁）竹之內の三氏を議員としてゐる。

東葛飾郡八幡町外九ケ村耕地整理組合

一、施行區域　八幡、國分、八柱、市川、行德、中山、葛飾、大柏、法典、鎌ケ谷
二、設立認可　明治四十四年十二月二十七日
三、起工式　明治四十五年十二月二十七日
四、現組合長　浮谷權兵衛
五、事務所　市川市市川

今日大體事業の完成を見、目下殘務の整理中である。

舊市川町青年團

市川市各區に、舊若衆組ありしを次第に青年會と改稱し、何時とはなしに各區青年會の設置を見るに至れり。於是大正元年九月各青年會を統一して、本團の設置を見るに至れり。最初に參加せしは新田、平田、下町一丁目、二丁目の各青年會なりしが、次で大正四年眞間根本の兩青年會參加し現在の狀勢となれり。團費は各青年會の負擔金により

團の直營としては、總會通俗講演會、夜學會等とし各青年會は年度に依りて、其事業を異にすれども、大要夜學會、夜警基本財産造成、道路改修、共同試作、養魚等の事を實行し、新田及一丁目青年會は各自公會堂を建設せり。

市川少年消防義勇隊

本隊は昭和六年三月二十日市川小學校に於て、義勇隊長を近藤洋雄氏副隊長を梶谷昇氏として、發會式を擧げたり。趣意は小學校、高學年兒童をして義勇奉公社會奉仕の精神を涵養し、協同規律の訓練を實施し、併せて防火思想の普及宣傳を行ふ事は、兒童をして學校教育を實際的ならしめ、社會的訓練の好機會を作らしめ、將來町民として社會人とし、貴き一要素を體驗せしめ、併せて町消防組の組織を理解せしめ、將來町消防組の改善進展に資するものなり。

舊市川町女子青年團

團は大正五年に組織せられ、當初は市川町處女會と稱せしが、昭和五年之れを市川町女子青年團と改稱された。本團は町在住の十三歳以上二十歳未滿の未婚の女子を正團員に、尋六以上在學の女子を准團員とし、賢良なる主婦たらしむべき修養團體にして、市川町男子青年團と相竝んで社會的に各方面に活動しつゝあり、事務所は市川尋常高等小學校内。

舊市川町防護團

團は昭和八年八月本町在住の町民有志の外、在郷軍人會分會、防消組、男女青年團、青訓生徒、少年團、少年消防義勇隊、衛生團體、婦人團體、其他を以て組織せられたるものにして、非常變災に際し、町の防護に當るものなり。平時に於て訓練を行ふ。團長　浮谷竹次郎氏

市川商工會

會は大正十四年五月八日創立せられ、市川市在住の商工業者にて組織し、會員の交誼を敦ふし、營業上相互の利便を增進し、以て斯業の進歩繁榮を期し、納税に對し進んで之が義務を竭さんことを期し、併せて町の發展を企圖するを目的とす。本會は本市に於ける斯の種唯一の團體にして、創立以來能くその機能を發揮斯業の繁榮市の發展に貢獻しつゝあり。

國府臺在郷將校婦人會

會は事務所を市川憲兵分隊に置き、市川市八幡町を中心とする國府臺衛戍地内に居住する在郷將校同相當官婦人を以て組織、會員相互の親睦を厚くし、社會風教の核心たるを期するを目的とし、家事講習會、軍隊其の他の見學、傷病兵慰問、出征遺族の慰問、慰問品恤兵金等の募集其他の事業を行ふものにして、その行事を拔萃すれば、昭和八年三月十一日東北震水災に對し、見舞金を贈り、同年六月濱松聯隊復舊費獻金募集に活動し、陸相より感謝狀を受く、同年六月より九月に至る間滿洲出征兵慰問袋募集及慰問金醵出の方法として、軍事繪はがきの販賣に從事す。昭和八年八月の關東防空演習には配給班を組織し參加せり。爾來本會の活動洵に目覺しきものあり。會長は陽元中將夫人陽元芳子氏。

陸海軍將校婦人會國府臺支部

會は國府臺衛戍地内に居住する陸海軍將校同相當官家族の婦人にて組織、會員相互の親睦を圖り、常に協同一致して、益々婦德を涵養するを目的とす、支部を野戰重砲第三旅團司令部内に置く。

舊市川町教育會

町教育の上進を圖るを目的とし、事務所は舊市川町小學校内に置く。

同窓會

市川小學校同窓會を設置、之を男子女子の兩部に分ち、會長には校長、副會長は會長の推薦を以て適宜に任命、青年團と聯合秋季に總會を開催、毎回非常の盛會を極む。

日本赤十字及愛國婦人會

閑院の宮殿下を總裁と仰ぎ、其の分區委員部を市川役場内に、逐年盛況に進みつゝあり。加ふるに市は帝都に近きを以て毎年總會毎に多數の社員出席し、親しく本社の狀況を目擊し、毎回皇后陛下の玉顏を拜するの光榮を有す。

日本赤十字社有功章佩用者　石川赳夫

愛國婦人會有功章佩用者　石川ゑつ子

免囚保護施設

大正元年特赦あるや大に免囚保護の必要を感じ、時の郡長石川赳夫、市川警察署長稲川盛義氏等の指導に依り、同十一月二十六日有志者眞間山弘法寺に會合し、酒井日愼氏座長となり、左記の議題を決議せり。

一、市川、八幡、中山、國分の四ヶ町村組合免囚保護組合設立の件

滿場設立を協贊す、但し免囚保護組合の文字を他の名稱に更改することを理事に一任す。

慈濟會と命名し、理事長に酒井日愼氏を推薦す、市川、八幡、中山、國分の四ヶ町村を聯合區域とし、免囚者に對

する隣佑の同情を喚起して、改悛正善に就かしめ、永く忠良の民たらしむるを目的とす。

會の資金積立方法は町内篤志家の義捐に賴るものとす。

本會は釋放者の通知に接したるときは、確實なる引受者を指定刑務所に出頭せしめ同道歸郷す、本會は釋放者の父兄又は親戚あるも赤貧にして旅費を辨じ難き時は相當旅費を支給す。

釋放者にして父兄親戚なく、又は一定の住所職業なき時は適宜の方法を講ず。

本會は釋放者の當該寺院住職をして隨時訪問せしめ、教誨を施すと共に家族等の融和を圖り、將來を誤らざる樣に努む。

舊八幡町青年團

明治四十三年四月創立、現在正團員一〇三、本年度の努力事項は思想善導、質素、儉約、時間勵行、團體訓練等とす。

本年度の行事の主なるものを擧ぐれば左の如し。

昭和九年四月三日小學校に於て總會を開き、團務會計の報告をなし、雄辯會、講演會を催す、講師は田村少佐外一名にして、當日の出席者多數なりき。

同年八月九日十日十一日の三日間關東防空演習に參加し大に活動す。

同年八月二十日小學校庭に於て運動會開催第三支部優勝せり。

同年九月十日南部聯合運動會に多數選手を派遣大に奮鬪す。

舊八幡町女子青年團

「強く優しき」の目標のもとに伸びゆく我が八幡町女子青年團は、全員四十名一時不振の感もあつたが、昭和九年度は各支部皆時局に目さめ、漸く振興の機運に向ひつゝあることは此の上なく喜ばしい。次年度よりよい發展を見ることを心ひそかに期待してゐる。本年度行事としては

一月二十八日　郡女子青年團と聯合の講演會
四　月　三　日　總會　軍事講話、餘興浪花節
五　月　一　日　例會　行事打合、音樂練習
六　月　一　日　同　作法實習
七　月　一　日　同　料理實習、野菜サラダ
八　月　一　日　同　同　葛まんじゅう

八月九日十日十一日三日間防空演習に參加し、大に活動す。

中山町青年團

一、事務所　小學校
二、團　長　松丸益雄
三、副團長　石井千代松
四、創　立　大正七年（以前は青年會）
五、團　員　一二三名
六、年　齢　十六歳より二十五歳迄
七、行　事　運動會——體育奬勵（町民運動會）その他　交通整理、用水の便、道路改善。（昭和九年調）
八、區　域　六支團に分つ

國分村各種團體

1	青年團	二五〇人	團長　小學校長　北田英左右氏
2	女子青年團	八〇人	同
3	在鄕軍人分會員	一八六人	同

日本赤十字社員	特別社員	二	終身社員	一二〇	正社員	八九
愛國婦人會員	特別維持員	—	特別會員	—	通常會員	二七

計　二一一
計　二七

八幡町外四ヶ町村隔離病舍組合
組合長　監物正三郎

八幡町外三ケ村道路組合

組合長　監物正三郎

信用購賣販賣組合

所在　八幡町八幡一三二九番地

組合長　北川善太郎

農家組合（八幡）

一、農業の指導奬勵に關する施設

二、農業に從事するものゝ福利增進の施設

三、農業に關する研究及調査

四、農業に關する紛議の調停又は仲裁

五、其他農業の改良發達を圖るに必要なる事業

會員は昭和八年十一月にて三百二十一人

人物篇

人物篇

（順序不同）

九條良欽氏

本籍地　東京市赤坂區福吉町二
現住所　市川市八幡一六〇

九條家―尙忠―道孝―
（五摂家）（關白）（公爵）
―道實―道秀（公爵）
―範子（故山階宮妃）
―良政（男爵）
―鑄子（大谷光瑞氏御裏方）
―節子（皇太后陛下）
―良致（男爵）
―良欽
―篷子（男爵澁谷隆敦氏御裏方）
―紘子（大谷光明氏御裏方）

良欽氏は明治十八年の御誕生にして、學習院御卒業後水産講習所にて御研學御卒業後勸業銀行に御勤務。本來水産方面の御研究熱心にして、殊に鰹節製造研究を遊ばさる、大島物産株式會社或は保險會社の創立に御努力さるゝ處あり後大正二年世を離れて現八幡に居を設けられ、釣魚の趣味に隱遁の御生活を送られてゐる。御性格又溫厚而も民衆的にして道孝公の御邸深く御成人遊ばした人とは拜せぬ程の輕快な御氣分の方である。

男爵 正四位 奈良原三次氏

本籍地　鹿兒島市高麗町一六八
現住所　市川市新田二四六

氏は明治維新の勳功により男爵を授けられし薩摩島津家の家老奈良原繁氏の次男として、明治十年二月十一日の佳節鹿兒島にて出生、東京中學を卒業、第六高等學校を經て、東京帝國大學法科を優秀の成績にて卒業せられ、海軍に入りて、軍籍に身を置かれ横須

賀にて勤務さる、造兵大尉にて軍籍をひかれ專ら飛行機の研究に專念さる。明治四十一年純日本式の飛行機にて、同氏が飛行せしを我國航空界の濫觴とする氏が、軍籍を去りて、民間飛行士の養成に從事して以來今日迄我が航空界に貢獻せし功績實に偉大なるものあり、大正元年津田沼に海軍飛行場を開設操縱士の養成に盡力現在民間飛行士の大半は同氏の養成に係るもので現在も、東京芝今入町に事務所を置き、日本輕飛行機倶樂部會長として航空事業に粉骨碎身努力せらる、今日迄氏が數十萬圓の私財を投じて、斯界に貢獻せし功績は決して尠くない。更に氏は廢物利用の研究に熱心にて、今日殆んど全國的に普及を見たバット銀紙の利用も又氏の創設によるものである。氏の語る凡て日本人は模倣は上手なるも創作力に乏しい、例へば手近なバットの利用にしても踏襲でなく、次には箱の利用でも考へられ度い。

家庭、令孃、綠さんは女子學習院卒業の才媛である。

本多貞次郎氏

本籍地　市川市眞間
現住所　同　（電話市川二〇番）

氏は明治の豪商雨宮敬次郎の逸足にして安政五年の生れ塾學研鑽、市川の地に居を定め、實業家として、政治家として、今日の地位を成したるのみならず、市川市の誕生は又氏の力によると云つても決して過言ではない。嘗ては市川町長として、或は縣會議員として、且又現在は、衆議院議員として、信望を一身に擔ひ、町治の開發から大にしては國政の運用に至る迄私心なく、粉骨碎身凡ゆる曲折に屈せず今日の地位をなした政治家としての氏を先づ見逃す事は出來ない。一面實業家としての氏は寧ろ自らに酬ひられずして、市川開發の爲めに努力の人生と云へよう。京成電車の大成、葛飾瓦斯事業の完成を始め北總鐵道の創設に、多古線の買收に幾多の波瀾曲折と惡戰苦鬪今日の鄕土文化の上に齎したる功績は決して尠くない。氏の事業は決して以上に盡くるにあらずして、教育事業に又熱心、國府臺女

學校が今日の隆盛を來したるは又氏の力に負ふ所が多い、その他陰に陽に本市の各種事業、團體に援助し顧問として盡力する處あり。

今日市川市が誕生された懷ひ出を遡れば、大正元年頃僅か二十餘年前には今日の繁華を成せる眞間附近は蓼尙暗き森にして、避病院の附近は蓼尙强盜出沒全くの僻地にして當時の市川は僅か八百戸に過ぎず、之等の開發に小岩迄なりし電車を延長して交通の便を圖り、或は、東京の實業家を招聘して、工場を誘致し、且つは又東華園等の料亭を建てゝ都人士の吸收を圖る等一々枚擧に遑あらずと雖も何と云つても、氏が市川文化の開拓に盡せし所は甚大である。堅忍不拔牢固たる精神の所持者で、血と涙の情熱家たる仁俠の人本多氏にして、よく今日を成さしめたと云ひ度い。眞間電停際に、聳立せる氏の銅像こそ、今は朗かに市川市を祝福して永久に氏の事業と功績と德望とを讃えてゐる。

中村勝五郎氏

本籍地　市川市鬼越
現住所　同　（電話北八幡五、六番）

氏は明治二十五年の出生、幼にして氣力に富み、資性剛健父業を繼ぎて、味噌釀造會社を經營す、市制前町自治體の凡ゆる名譽職にありて、町の爲め碎身の努力を傾けしが如きは、今更記者の筆をまつ迄もなく、人の知る處であるが、特に大書すべきは中山町長として前後三期全く沒我の爲政振りを發揮し、自治運用に困難なりし同町の施政を圓滿、活潑に發展せしめ、四方の信望を一身に集め中山に中村ありと人口に膾炙せしめた偉大なる人格の持主である、氏が町の爲め教育の爲に拂つた犧牲は決して尠からず、三歳の童子もよく氏を先生として仰ぐ所以こそ氏の陰德の然らしむる處である。市制記念に際し、町として、氏の爲め彫刻家、大須賀力氏の力作胸像を贈つたのも宜なる事である。德望の點に於て、力の點に於て、正しく本市の大人物と云へる、一面又義俠心厚く、齡未だ四十三歳の氏の前途には大なる仕事が殘されてゐる。

浮谷權兵衛氏

本籍地　市川市新田二三一
現住所　同　（電話市川一八番）

氏は明治十年の出生、土着派の手腕家として自他共に許されたる、本市の大人物である嘗ては市川町の凡ゆる名譽職として殊に市川町長として多年市川の發展に献身努力する所あり又縣會議員として、數度當選、縣會議長として、鄉土の爲め抱負を傾け名聲を博せり、現に葛飾瓦斯株式會社專務取締役たる外京成電車重役、所得税調査委員、耕地整理組合長、商工會顧問、市川市農會長等の地位にあるのみならず種々の公私事業に關係す。

本市開發の上に本多貞次郎氏の女房役として努力した功績は決して尠くない。理想と抱負に滿ちた實行力に富む政治家、實業家であり、本市多額納税者の一人にして本市政友系の本營である。

令弟浮谷竹次郎氏は前市川町長として現市川市長として市政の功勞者才德兼備の人格者として譽高い。

浮谷竹次郎氏

本籍地　市川市新田一二二
現住所　同　（電話市川一〇一番）

氏は明治二十年の出生にして、市川土着派の代表的舊家で、大正二年の北海道札幌農大出の秀才である。卒業後習志野騎兵聯隊に一年志願兵として入隊、除隊後同帝大講師に聘せられ傍ら北海道廳の囑託たり後、大正六七年は仙臺の縣技師を拜命、大正八年鄉里市川に歸り、京成會計課長、北總、成田鐵道建設部長等の要職にありしのみならず、縣會議員として、今日も縣政の上にその名を謳はれ、且つは又市川町長として多年町治開發の爲めに献身的努力を傾け殊に市制施行に際しては、殆んど晝夜を分たず寢食を忘れて活躍して市制促進を圖りし隨一の功勞者である。愈々市制布かるや市會議員として當選、更に推されて榮譽ある市川市初代市長に就任し、今日に及ぶ、言葉通り才德兼備の氏は市民の渇仰の的にして今日より氏が吾等の市川市の上に齎らす働きは大いに期待すべきものがあらう。今日の趣

味は讀書、ハイキング位なものであるが過去は野球、スケーテング等多趣味の人であつた、家庭は、宇都宮高女出身の貞節深き夫人との間に男三、女二あり、長男は佐倉中學に在學中。因に本多貞次郎氏の女婿であり浮谷權兵衛氏の令弟で今や帆を擧げた環境に於ける働き盛りの氏の前途は多事たると共に期して俟つべきものがある、日比谷の議政壇上に旗擧げする日も遠くはないであらう、その見識抱負も又遠大豐富である。

玉井仁氏

本籍地　千葉縣香取郡
現住所　市川市砂河原九一〇

氏は千葉縣香取郡の出身にして、中學卒業後日本大學醫科を數年前卒業し東京駒込病院にて今尙研究の傍ら昭和九年十月、現地に內科小兒科を開業せり、氏は溫厚篤實にして夙に秀才の譽れ高く新進の醫學士として、前途を囑望された青年である殊に患者に對して、親切にして開業幾何ならずして已に名聲を博しつゝある。

田中政吉氏

本籍地　市川市須和田一二二
現住所　同

氏は文久三年の出生にして、三百年前承應年間よりの舊家土着派の耆宿にして、舊國分村の名譽職は殆んど氏の關せざるものなく、區長土木委員害虫驅除委員を始め耕地整理組合發起人として且つ又村會議員として五期、村長として三期、或は又消防組々頭として、一意村治開發の爲に努力、殊に村長時代殘せし功績は尠くない。人生の後半は殆んど公共事業の爲めに捧げて來た犧牲的の士である。趣味としては旅行七十二歲にして、尙元氣旺盛である、家庭は一男、三女あり、嗣子哲太郎氏は明治二十七年の出生、父業を繼ぎて農業の傍ら青年團長、消防小頭或は部長、現在は顧問、戶數割調査委員、衞生委員、農會評議員等の要職にありて又公共の爲めに盡瘁されて已に四子を擧げ、長男政太郎君は東京府立七中在學中の秀才である。

千葉平一郎氏

本籍地　宮城縣登米郡石越村
現住所　市川市市川二一八（電話市川四七一番）

氏は明治十六年の出生にして、出身學校が現市川の政黨的分野に影響する事を避けて語られないが、職業としての第一歩は仙臺に於て、稅務監督局官吏を一年間拜命し故あつて、富士瓦斯紡績株式會社に入社、靜岡縣箱根裏工場に於て七八年勤務、東京本社經理課詰として轉任、昨年迄約二十五年間社の爲に貢献されし賜として、現在尙社員待遇として病を養ひつゝある、氏は大正十三年より現地に住し成る可く表面的なる仕事から避けて居られるが、懇請により、特別戸數割調査委員を勤めた。趣味としての俳句は堂に入つたもので嬰石の號は知る人ぞ知る釣にも趣味を持つて居る。人生は總て中庸を旨として俳句の調日本精神に生き度いと云ふのが氏の左右の銘である夫人は、昨年他界す長女松子さんは國府臺女學校四年在學中である。市制實施に就て新市會議員は市經濟を充分顧慮して利己的慾望に走らず市民の負擔を輕減して發展策を講ぜられたい、土地政策に就ては徒らに中心的コンパス定規に囚われずに典型的實際を根據として劃策される必要があらうとの談である。宗派は眞宗。

吉岡利光氏

本籍地　市川市市川三〇七二
現住所　同　（電話市川一四番）

氏は山梨縣の出身にして、永く軍醫として、國府臺砲兵聯隊に在職後現に市川二丁目に開業して已に二十年、此間市川町會議員を始め校醫、方面委員等種々公共的職務に盡力せり、私心なくして、專心町治革新に努力、老いて若き頭の所持者にして民衆の爲め權門に媚びず、金力に阿附する念なく力闘する處、氏の人格が窺はれる。市制實施に又尠からざる功勞あり、市會選擧にあたり出馬、第三位の高點を以つて當選、四萬市民の爲め更にその活躍が約束されてゐる。人格識見共に市民の代表として、恥ぢざる市川の人物である。趣味として、野球、テニス等仲々の運動家である。自らのコートを持ち、或は、市川野球倶樂部々長等その現はれである。

金親正直氏

本籍地　市川市新田一五八
現住所　同　（電話市川一〇八番・三二八番）

氏は父君惣八氏の次男として、明治十七年埼玉縣鴻巣に孤々の聲を擧ぐ、資性自ら聰明にして溫厚中學卒業後明治三十五年十八歳にして、ホテル研究の爲め渡米紐育カレージに學び後紐育（現在日本東京に於ける）オリエンタル寫眞工業會社々長菊地東陽氏創業の當時總支配人として、才腕を揮ひ英米滯在十六年後大正六年歸朝後は向島に、一直園を獨立經營、大正十年現在の市川に之を移し、二千三百坪高層雅趣に富む居を選び市川市第一の割烹旅館として、嘗ては竹田宮、李王殿下を始め、朝野貴賓の御宿泊所として光榮に浴せり。

氏の事業は決して之に止まらずして、大日本體育協會の元老として、斯界にその名を知られてゐる。彼のスミス飛行機を始めて日本に招來し、或は五萬圓の私財を投じ、米國職業野球團を招き我體育奬勵に資し、且又我拳闘界の創設者として、斯界に貢献嘗ては大日本體育協會アナウンサーとして、今上陛下御攝政當時御前に召され或は、秩父宮殿下、英國皇太子殿下に拜謁の榮を得たり、現在も大日本體育協會評議員、商工會理事、千葉縣料理聯合會副會長等の要職を帶び各方面にその功績を認められてゐる。氏の性格たるや恬淡磊落、政黨政派に關する處なくして、犧牲的精神に富み全く義俠潔白なる氣分の人として、公共的に盡す處又尠からず今や市川にその人ありとせられたる一人である。

因に家庭は二男二女にして、長男は曉星中學に長女は國府臺女學校に在學中である。

小澤元重氏

本籍地　市川市二丁目一六四
現住所　同　（電話　工場　市川四四九番　住宅　市川五五二番）

氏は明治二十六年の出生にして、東京市柳島に眼鏡製造

業を開始し、大正九年市川町に移轉し現地に斯業を擴張、昭和八年合資組織に變更今日に至る、氏は昭和八年三月迄町會議員の要職にあり、現在東京眼鏡工業組合理事長として、公務に又熱心である。性は恬淡健實にして斯業に專ら精勵されて居る家庭には九人の子女があり、長男政敏君は中學校在學中長女壽子さんは國府臺女學校在學中である。氏の談に依れば「市川は物價高く工場地帶としては最適でない云々」と氏の宗教は日蓮宗である。

押賀孝作氏

本籍地　市川市市川三一五二
現住所　同　（電市川三五四番）

氏は明治十八年の出生にして、明治三十八年に至りて父業藥種商を繼承、町會議員を一期區長は三期に亘り、八年間其他消防團、救護班長を二十八年間、方面委員等凡ゆる公共事務に盡瘁現在では商工會常任理事、葛飾藥業組合副會長及び松戸煙草小賣組合副會長等の要職にあり謙曲に堪能にして玄人も跣足の感があり、謙讓圓滿の紳士である、家庭には二男二女あり、長女は國府臺女學校卒業長男は日大中學校、次男は東京府立第三中學校に勉學中である、氏が市制に就ての感想は「住宅都市たらしむる事を中心として線路下は工業地帶が適當なるべく道路の改修を第一の要務とする凡そ道路の不備程文化に遅れる事はなく起債しても完備の要がある」と言ふにある。氏の宗派は眞言宗である。

越沼節次氏

本籍地　栃木縣下都賀郡小野寺村
現住所　市川市一丁目三一〇三（電話市川八番）

氏は明治四十二年栃木縣下に生れ、醫師を營みし越沼彌之助氏の養子として、入家縣立栃木中學校卒業後東京駒場農科大學に入り、昭和六年卒業昭和七年より農林省に勤務現在に及んで居るが、將來を囑望された青年である。趣味としては、園碁、野球、ランニングが先づ擧げられるがその他仲々多趣味である。性格は極く眞面目にして篤實の青年紳士にして、家庭には壽賀子さんが在り佐野女學校卒業

並に、大妻實踐女學校卒業の賢夫人である。市制實施後は區劃整理都市計劃を誤らず理想的な住宅都市たらしめ度いと言つて居られる、宗教は禪宗である。

大里三熊氏

本籍地　熊本市横手町
現住所　市川市國府臺十三番地

氏は明治四年熊本市に生を享け、明治二十二年軍人を志望して、陸軍教導團に入り、明治三十四年陸軍經理學校卒業後、日露日獨、西比利亞の各戰役に參加し國家の爲め赫々たる偉勳を樹てられしが現在は退役陸軍歩兵少佐として悠々自適自然に親んで、百姓をする事を唯一の趣味として居られる。氏の人生觀は終始、陛下より賜はりし五ヶ條の御誓文を信條として行く時大安の境地に在ると言つて居らるゝ事程、左樣に嚴肅實直且つ圓滿なる人格の所有者である。家庭には四男があり、長男弱次郎君は明大を卒業されて區役所に、次男純義君は農業大學卒業三男定是君は明治大學法科に在學、四男益具君は早稲田大學政治經濟科に在學中である。市制實施につれて交通の便を得住みよい都市たらしむる事を念願としてゐる宗教は神教を奉じてゐる。

中島一郎氏

本籍地　市川市三丁目三〇二五番地
現住所　同　（電話市川六一〇番）

氏は明治十四年當市に生れ、現在茶商を營んで居らるゝが最初、昭和四年三月第一期として町會議員に當選、次回は昭和八年三月當選、二期共學務委員に在職後期には土木委員、町出納檢査立會人を兼務され、昭和八年三月よりは隔離病舍出納檢査及び改良委員として、病舍の設備改善經費節減の實行に成功されし熱心家にて、區長及び方面委員の要職にありし事あり、市制實施に當り市議當選、更に推されて現市會副議長の榮職にあり、溫厚篤實實直の士にして、桃李物云はざれ共下自ら徑をなすの觀がある。實施後の市政に對しても寡言ではあるが、その抱負は豊である。長男昇一君は東京府立七中を卒業し、現に慶應大學在學中の秀才である。

長尾操氏

本籍地　香川縣丸亀市福島町六二
現住所　市川市新田一六二

氏は明治二十九年、四國香川縣下に孤々の聲をあげられた、縣立丸亀中學校卒業後上京、東京齒科醫學專門學校に入學大正八年卒業、爾來文部省齒科病院、東京赤十字病院横濱市十全病院に職を奉じ研鑽、昭和七年四月に至り現地に開業診療に從事さる、庭球、野球に趣味を持つ謙讓溫厚の名醫師である、家庭には貞淑なる松子夫人（東京府立第三高等女學校出身）が在つて二女の教育に心を碎いて居らるゝ。宗派は眞言宗である。

小林勝太郎氏

本籍地　千葉縣印旛郡白井村富塚
現住所　市川市市川三三二九番地

氏は明治十六年千葉縣下に生れ、學校は明治四十年に東京一ツ橋高等商業を卒業後小樽木材株式會社に入り三年後轉じて松田ランプ會社に四年間、大正五年に至り貿易商に

從事せらる昭和三年現地に計理士を開業せられしが既往に氏が勤務先に於ける功績は實に偉大なるものが在つて、永くその人物を惜しまれて居る。一方昭和四年に第一回昭和八年に第二回町會議員に當選、インテリ町議としてその手腕を認められてゐる、又町の信望も深い、其他學務委員、會計檢査員及び一二期を通じて、隔離病舍組合委員も兼務され、當町火葬場設置反對運動に熱心に奔走された歴史が在る。氏は內面的生活に親しむ人格者で趣味としては義太夫、川柳、短歌、野球を好まれ義太夫の如きは素人と思へぬ堪能さである。讀書は歴史物に造詣が深い。性格としては當時高商出の變り種で處生學として「眞直なる定規を用ひず雲形定規を使つて人生に適正ならしむ」と言ふのが氏の主義である、家庭は七人で夫人ツネさんは日本女學校出身長女柳枝さんは松戸女學校卒次女松代さんは千葉高等女學校卒後女子醫學專門學校を卒業、現在は新井病院に勤務中三女、薫さんは國府臺家政女學校を卒業された才媛であるが、子女の教育に關しては總て職業教育を施さるゝ方針である、氏が今回の市制實施に就ての談に「成るべく住宅地たらしむべく工場が多數にては住宅地に適せず中等學校が在れば理想的なものだらう新市議に對しては切に稅の負擔均衡戸數割に注意をせられ度い」との事である著書として鄕土商業讀本を出して居られ同期生中の成功者に坪上次官來栖氏等が在る。

宇田川祐藏氏

本籍地　市川市市川三一五四番地
現住所　同　（電市川二〇八番）

氏は明治十九年市川市に產聲をあげた土着派の先覺者にして、明治三十五年東京青山師範檢定試驗に合格准教員として、小岩町に奉職長ずるに及び陸軍現役志願で軍務に就き明治四十三年一等計手時代に朝鮮羅南に從軍三十二歲に至つて、上等計手で退職薪炭商として現在に及んで居るが滿四十歲より約十年間三期を通じて、町會議員土木委員に當選、其他出納檢査立會員市制實施代表委員として奔走、昭和三年七月の信用組合創立の際の立役者である。趣味は茶道、謠曲、英語等多方面に堪能にして四十五歲迄は一滴の酒も口にせず政治的に洗練されたる手腕と公德心に厚い人で人生は徹頭徹尾、正しく强くの信條で進んで居らるゝ人物である、家庭には夫人市得（東洋技藝女學校卒業）さんが內助の譽高い。氏の感想を聞けば仲々雄辯家にて「地位利用に依る生活の支持は自治關與者として不可、細民の生活向上方面委員の精神徹底等熱心なる理論の所有者である、市制實施さるゝや市議に出馬見事當選、更に選ばれて現市會參事會員たり。

秋山瑞來氏

本籍地　香川縣三豊郡財田村
現住所　市川市新田一三五

氏は明治二十八年香川縣に生れ、長じて大正十年東京帝大醫學部を卒業、更に同大學產科婦人科教室に研究同十三年同學病理學教室に轉じ同十五年順天堂病院產婦人科に入り、昭和二年博士號を受け市川新田一三五番地に開業今日に至る、氏溫厚篤實の紳士にして圍碁尺八に趣味を有し家

庭には夫人康子さん（故愛星醬油會社常務取締役越智文太郎氏の孫にして西條高女卒業）との間に長男瑞男さん長女清子さん二男龍馬さんがある宗教は眞宗である。

大野潤一郎氏

本籍地　千葉縣船橋町九日市
現住所　市川市砂河原一一〇〇（電市川二〇三番）

氏は三高を經大正五年度東京帝大醫科の出身にして卒業後大學に約二ケ年間助手を勤め、後現在の地に開業中千葉醫大に論文を提出昭和六年二月博士號を得て今日に至る。

市醫師會副會長にして資性聰明頭腦敏感にして非常なる學究的努力家今日以つて、研究を怠らず患者の信望も厚く仁俠の士を以つて任ぜられてゐる。（出生明治二十三年）

服部善一氏

本籍地　愛知縣
現住所　市川市市川九七四　（電市川二五番）

氏は大正十一年東京帝大醫科を卒業博士の稱號を得、後市川眞間に開業今日に至る、溫厚篤實氣力旺んにして業務に熱心、醫は仁術なりの精神に生きる言行一致稀に見る有德の士である。

岡田耕平氏

本籍地　市川市高石神
現住所　同

氏は明治三年の出生、齡已に六十五歲なるも元氣旺盛市制實施期の中山町長として才腕を揮ひ昭和六年就任以來、町役場の整理、道路の新設或は改修、學校の新築、市制實施運動等困難なる事業をよく處理して、市會に臨んで見事當選、更に市會議長に推選さる、今日迄も町會議員たる事二期消防組頭として四ケ年、土地調査委員その他自治體の公職に盡力せし功績尠からざるものがある、氏は性格又溫厚圓滿にして、統御の才に富み、一面又氣力果斷にして、實行力に富み、得難い人物である、町長として數ケ年間の心勞を一蹴して更に市會に馬を進め吾等の市川市發展の爲めその抱負を傾けんとしてゐる、市公園、中等學校、或は都市計畫等一定の見識を以つて、臨む所に氏の信念が窺はれる。市會議長としての活躍が期待される。

鳥海照雄氏

本籍地　東京市
現住所　東京市中野區住吉町三四（電東京中野五〇四四）

氏は第二高卒大正十一年度東大醫科の出身にて同病院に副手、助手を努め昭和六年博士號を得現に東京芝に外科を開業し傍ら當市高橋病院に勤務今日に至る。

米本濱次郎氏

本籍地　市川市國府臺一六
現住所　同

氏は明治七年の出生、明治二十九年の國民學會の出身にして明治三十一年六月立教學院を卒業し、英語に堪能にして明治四十二年に中學卒業檢定試驗に合格、後東大英文學科に學び四十五年卒業せり、此間明治三十四年東京中學校教諭を拜命、傍ら陸軍將校教授として蘊蓄を傾け爾來松山中學校、宮崎中學を歷任して、大正七年九月千葉縣立成東中學に赴任す、大正九年には立教中學に招聘され終始英語教授として殆んど生涯を、教育界に投ぜられた至誠實實一貫せる信念の人である。後氏にとりて最も印象深き市川國府臺に居を定め、餘生を町治開發に捧げ町議を始め種々名譽職に就任、今回市制の實施さるゝや市會に出馬見事、高點を以て當選、現市會議員の榮職にある、家庭、長男源太郎君は、東洋大學を卒業し、教職にあり、次男正次郎君は法政大學在學中である、外二女ありて、松戸縣女卒業の才媛である、更に氏の希望としては、道路、公園の完備と高校を兼ねた七年制中學校の新設にある由。

高橋健夫氏

本籍地　市川市五丁目一八六四
現住所　同　（電市川六五・二四四番）

氏は明治三十六年の出生二十四歲にして、父に死別し二十六歲にして合同運送會社を創立し、昭和三年に宇田川、石井、本間、の三氏と共に市川信用組合を創立監事として今日に及べるも、昭和八年三月には町會議員にも當選、現在では市川合同運送株式會社の社長であり、資本金十萬圓の千葉合同運送株式會社常任監査役である、氏は些事に拘

泥せぬ實踐躬行の活動家にして、圍碁、將棋、尺八、謠曲、書道に亘る多趣味の人である、氏の處生の要は多趣味を以て圓滿なる人との交渉が進捗學問と社會の一致せぬを歎き現代に於ては、社會で眞に働ける人間を造るにあること、尊父の遺訓であり學歴に拘泥せず實際に、社會で働ける修養に努めよとの事が若くして氏を、現在の地位に成さしめたのであらう。氏は市制實施の代表委員として、よく先輩の間に伍し、活動せし功績は尠くない、覇氣に滿ちて剛毅なる氏の今後の活躍振りは期待に價する。

前田朝吉氏

本籍地　市川市三丁目三〇〇八
現住所　同　（電話市川四二五番）

氏は明治十九年七月七日市川町に生る、市川土着の舊家にして現在葬具店を經營して居らるゝが、昭和四年三月より二期に亘つて町會議員に推され其他に、商工會常任理事たり、消防第一部小頭としては現在に至る廿五ケ年間縣方面委員として、十年更に市川信用組合理事、區評議員、三四丁目聯合會長、兩葛飾郡葬祭具同業組合副會長も勤められた人望家である。圍碁、將棋、に趣味を持ち自治公共的事業の爲めには日夜粉骨碎身する篤志家であつて、今日迄先代より町治開發に盡された功績は尠くない、消防に對する功勞に就ては、縣知事より感謝狀を受けてゐるも又宜なり。家庭に五子、市制實施に對して都市計劃の促進、市川より中山に至る縣道線の新設に希望を持つ云々、宗教は眞言宗。

伊藤賢二氏

本籍地　名古屋市西區上園町一丁目三三番地
現住所　市川市五丁目一八七一官舍一號

氏は明治三十二年名古屋市に生る、東京主計學校を卒業後中央大學法科に學び大正十五年卒業直ちに鐵道省人事課に採用され東京甲府千葉各驛の業務を經て昭和九年六月七日附當市川驛長に就任された、昭和三年には高等試驗行政科に合格す、野球、圍碁、水泳に趣味を持ち至つて謙讓溫厚の士にして人生に對して機會ある毎に浩然の氣を養ひ朗

らかに正しく業務を遂行して行かるゝのが氏のモットーである。家庭に令夫人孝子さんが在て實踐女學校出身の才媛である市制實施と同時に驛の裏口の新設驛前廣場の開拓、汽車の停車場たらしめたいとの意向である、因に獨立獨行今日の地位をなした氏の前途は最早拓かれた、近き內行政官としての華々しき活躍が展開されるであらう。

石井喜代太郎氏

本籍地　市川市平田一五二
現住所　同

氏は明治二十三年の出生にして大正十五年父業を繼ぐ今日に至る間引續き町會議員の要職を三期勤め土木委員及學務委員其他在鄕軍人分會副長、區評議員、消防組第三部長を十八年間勤續、更に農會總代市制實施に就ては代表委員として東奔西走溫健にして、覇氣を有する氏は公共事業の爲め盡瘁するのが趣味にして、市制施行に關し左の如く語る、市制施行の氣運は表面は兎も角實際は、十年前よりの問題で八幡國分等土地が入り込んで居た爲め、土木事業が完全に行はれず何うしても自然的に市制實施の要あり地形上合併の必要あつた土地であると。氏は早くより市制の必要を唱導して居た數年來發達の遲れた市川は上水道其の他設備が不完全で此儘では東京の芥捨場とならねばならぬ併し土木事業、を起すにしても市民の負擔を重くせず縣の補助、國庫補助、起債等に依つて行はるべきである云々。

因に現市會議員の榮職にあり。

遠藤寛照氏

本籍地　市川市中山二四七
現住所　同　（電話北八幡一八番）

氏は明治十四年靜岡縣に生れ長じて立正大學を卒業せしが在學中法華經本寺に修業後玉蘭坊（高見）にて明治四十五年より大正五年迄宗務を執る大正五年現法宣院住職に就任、宗務所長及宗會議員たりし事あり、現在も宗務計劃所長である、資性溫厚にして信念深き高僧にして檀家の信望も篤い園藝に趣味を持つ家庭は一男二女にして、長男は東京海星中學在學中長女は國府臺女學校卒業後上野女子藥學

院卒業の才媛にて次女は同學院在學中である。

川上徹雄氏

本籍地　市川市八幡五二八
現住所　同

氏は明治三十七年の出生、大正六年東京順天中學卒業後明治大學政治經濟科に學び昭和三年卒業、昭和四年三月株式會社千葉合同銀行に入社九月早くも拔擢されて貸附係となり、昭和六年十二月辭職昭和七年一月より現北八幡郵便局長として今日に至る覇氣旺逸の人にして、局員の信賴も厚く新進の活動家である菊、朝顏等園藝に趣味を有す、宗派は眞言宗。

柴田眞作氏

本籍地　栃木縣河内郡大澤村
現住所　市川市宮久保四九

氏は明治十年栃木縣に生れ、中耳炎の爲め高等小學校を半途にして退學せしが十五歳の頃より尊父竹三氏に從つて鄕里大野川の工事監督に出張中、土木請負業を志し後東京に出で大正三年頃には民間飛行事業の爲めに多大の貢獻をなし時の大隈首相より感謝の辭を受けし事あり、大正十二年に至り東京市下谷區龍泉寺町に土木請負業を開業大正十四年三月當地に來り、土木請負業を經營今日に至る間昭和八年三月より町會議員たり今回市制により、立候補見事市會議員の榮職に就任したるを見ても如何に鄕黨の信賴厚きかを識る事が出來る氏は至つて素直にして、謙遜唯々公共事業に貢獻する事と子弟の敎育に、力を注ぐ事が氏の樂しみである、氏は祖父五郎右衛門氏の家訓に依り飽迄義を守り、不正をして迄貯財する等は絕對に厭むところにして、公明正大なる處世をなす高潔の士である。家庭は夫人孝子さんとの間に長男孝雄君は靑山師範、日本大學高等師範部を卒業して現在は、東京二葉實科女學校及日進小學校に敎鞭をとりつゝあり、次男順二郎君は宇都宮中學校卒三男重光君は、報德中學校卒業後中野電信隊より滿洲事變に轉戰偉功を立て、昭和六年三月凱旋、五男正信君は東京錦糸堀中學校四年修業名譽ある帝國の空の護りの勇士たるべく現

在は横須賀海軍航空兵班長である、氏は市制實施に就て謙遜し乍ら左の如く語る。

先づ市制區域外廓に環狀自動車道路を作りて、交通の便を圖り工事は靑年團員の奉仕的作業に俟ち自己も職業の立場上無論奉仕する其れによりて住宅都市としての市川市を都人士に紹介理想的なる住宅地たらしめ度い併して內部的には區劃整理を行なひ、市川町附近在來の道路は此れを補修してなるべく、直線にして永久的にする事以上の希望實行の方法として市會議員を志ざしたが、要は市民が擧つて市制を謳歌する樣に國分附近の格安の土地も、閑居的生活者の住宅地に適すべく眞の大市川市を完成し度い云々。

石川彦三郎氏

本籍地　栃木縣下都賀郡富山村
現住所　中山驛構內官舍第一號

氏は明治二十二年の出生、將來鐵道職員たらん事を志望し十九歳にして、明治四十一年鐵道省に入り佐野驛を振出しに高崎熊ケ谷渋谷等を經て國部驛の助役となり光で我孫子總戸に在勤日向驛より驛長となり、幕張より現中山驛長に轉任、今日に至る間、實に二十七年間一日の如く斯界の生字引とされ剛毅果斷不撓不屈の性格を以て斯業に貢獻正に立志の人である。家庭には二男二女あり。宗派眞言宗。

星合正治氏

本籍地　東京市澁谷區豊分町一
現住所　市川市宇市川四二三

氏は明治三十一年の生れ、京都宮津中學校を卒業するや東京第一高等學校を經て東京帝國大學工科を大正十一年卒業、後同大學講師に拔擢されて翌十二年春帝大助敎授となつた其後、二、三、公私大學の講師をも兼務昭和五年より六年に懸けて歐米見學の途に上り研究歸朝して同六年工學博士の學位を獲得爾來東京帝國大學助敎授として今日に及ぶ、氏は溫厚にして淸實なる敎育家にて電氣學會常議員及電信電話學會評議員の要職にあり、讀書、研究に至つて熱心なる趣味を持ち、前途を囑望された少壯學者である家庭には夫人米子さん（東京府立第二女學校出身）との間に男

兒二人あり、圓滿なる家庭生活の中に賢夫人米子さんの內助の功ありと聞く。

道口健介氏

本籍地　市川市五丁目一〇七六
現住所　同　（電市川三四五番）

氏は明治三十一年の出生にして、本市菅野石渡敬次郎氏の三男にして、養子嗣として入家、東京錦城中學校に學び明治藥學校を卒業、大正八年十二月藥劑師試驗に合格現在一丁目所在の金子藥局の場所にて藥局を開店、昭和二年五月に現地に移轉開業爾來三本松の藥局と言へば誰知らぬもの無き藥店として、今日に及び同業組合の幹事たりし事もあり、溫厚篤實の士にして小鳥に趣味を持ち家庭には男兒三人あり、目下小學校在學中である。

楢村德氏

本籍地　千葉縣東葛飾郡小金町小金一二六
現住所　市川市市川三〇七〇

氏は明治二十年小金町に呱々の聲をあげ、長じて郵便事業に從事、明治四十年三月東京市小石川郵便局より當市川郵便局長代理として就任爾來二十八年間一日の如く精勵され市川郵便局內の明星となつて萬事局長の事務を執らる、言葉通り溫厚篤實勤勉の人にして書道を能くし家庭には四人の男子あり、長男保君は東京高等工業學校在學中次男は東京府立第四中學校卒業の秀才である。宗敎は日蓮宗。

根本六郎氏

本籍地　千葉縣市原郡海上村字今富
現住所　市川市三丁目二九六三

氏は明治三十四年縣下海上村に生れ、長じて東京モスリン株式會社從業員たりし事もあつたが大正十二年十二月寶酒造會社に勤務爾來今日迄永勤され、昭和八年三月無產黨を代表して町會議員に當選他に第三區評議員千葉縣勞働聯合會主事でもある。氏は恬淡磊落にして、小事に拘泥せず實に襟度の大なるものがある、釣と圍碁を好み、民衆の生活向上を念願として居らる、家庭には二女あり氏の主義として政黨に拘泥して自治體の精神を忘れる事を虞れ、社會

事業的施設を企劃して民衆生活の向上を力說さる例えば職業紹介所托兒所等の完備は目下の急務である云々。因に社會大衆黨役員たり、宗派は日蓮宗。

石井留五郎氏

本籍地　市川市市川三一〇八
現住所　同　（電話市川五一八番）

氏は明治二十五年の出生にして、八歲の時秋藏氏の養嗣子となり爾來代々の家業たる壁左官請負業を經營、今日に至る。昭和八年二月町會議員に當選土木委員に推され同年七月より區長代理をも勤め、現在は町內會計係である恬淡にして義俠心に富むの士で町內の信望も篤い、釣が唯一の趣味である、家庭には長男が小學校在學中、長女は國府臺女學校卒業の才媛である、氏の宗敎は日蓮宗。

隈元政次氏

本籍地　市川市市川三丁目三〇三〇
現住所　同

氏は安政二年九月の出生、明治十一年の士官學校出明治十年四月九日附を以て陸軍少尉補に任ぜられ明治十年西南の役には學生時代なるも、之に參加殊勳を顯はし爾後數度の戰爭に又功ありて着々昇進市川國府臺野砲旅團長、及び東京灣要塞司令官等の要職を經て陸軍中將に累進大正二年待命翌三年豫備役となりて現住所に餘生を自然を友として悠々自適閑居せらる、現在の氏の邸宅は元片岡待從の家にして、明治大帝が三度立ち寄らせられた光榮の玉座存し記念物保存法の指定を受く、氏の友人には上原元帥（士官學校二期下）大迫大將等が有り我陸軍での元老である。

監物正三郎氏

本籍地　市川市菅野二三
現住所　同

氏は明治二十四年の出生にして、東京錦城中學校卒業後は父祖よりの家業たる農に從ひ、大正十五年に區長を其他學務委員、土木委員、產業組合理事、八幡町農會長、及び三ケ町村道路組合長隔離病舍組合長の要職に就き、更に昭和八年三月町會議員昭和九年五月十五日には町長に推薦さ

れた人望家であるが、若年にして手腕家公共事業に盡された功績は實に偉大なるものがある、殊に市制實施に就ては町長及代表委員としてその促進上に於ける氏の寢食を忘れての活躍は、見逃してはならぬ、現市會議員並に市農會副會長たり。

田中喜兵衛氏

本籍地　市川市市川三〇七〇
現住所　同　（電市川二番）

氏は明治三十三年の出生長じて、東京府立第三中學校卒業後、一年志願兵として入營正八位陸軍歩兵少尉として退營父祖より三代市川郵便局長を兼ね家業は、明治初期よりの醫酒釀造業である三年前迄、學務委員商工會長の要職に在り、至て磊落正直前途多き活動家、謡曲、書道に造詣が深い、尙市内屈指の舊家にして、同氏邸は明治大帝の聖蹟として、記念物保存法により玉座たりし場所等指定された。

大越治郎吉氏

本籍地　新潟縣西頸城郡下早川村
現住所　市川市市川一九二八

氏は明治二十二年の出生にして、大正七年實酒造會社に入り、昭和八年三月町會議員當選昨年迄は役場の出納係たり、手腕家である氏は、社會大衆黨東葛支部長の地位にあり大衆黨議員として有名である、讀書の趣味と嗜好の酒は氏の至つて好む所にして、民衆生活の向上發展を念願として居られる、思想研究又熱心にして、忙中、中々の勉強家である。

石田長介氏

本籍地　茨城縣鹿島郡鉾田町
現住所　市川市市川一七五

氏は明治二十六年の出生にして、十九歳の時より川崎第百銀行水戸支店を振出しに、八王寺支店、東京神田、岩本町兩支店を經て、現在川崎銀行市川支店長迄二十年一日の如く精勵されて今日の地位を獲得された努力家にして勤勉家、今や斯界の權威である嚴肅にて溫健氏の人望は同社の事業成績に表はれてゐる、謡曲、旅行に趣味を有し終始一貫實行の人である家庭には二男一女あり、市制實施後は定めし銀行の需要も增加するであらうが、銀行の經營方針は大體不變で進み度いと言つて居らるゝが、氏の今後の活躍ぶりは大いに觀る可きものがあらう。

染谷元治氏

本籍地　市川市市川八三八
現住所　同

氏は明治二十一年の出生、四十七歳の働き盛趣味旁々釣道具店を經營してゐるが昭和二年より眞間區會評議員として昭和五年に至り家屋稅調査委員、眞間區副會長に推薦され、昭和八年三月町會議員に當選、六月より市制施行代表委員として市制實施に東奔西走目下も扶桑海上保險及び三井生命保險の代理店を經營眞間區會の相談役及び、隔離病舍組合會議員でもある、氏は自治爲政者として至つて公德心に富む仁俠の義人にして釣に對して、入神の技を持つて居られる。市制實施の顯著なる功勞者にして市川町會四闘士の一人と云はれた敏腕家である市議の選擧始まるや、出馬し區民の信望を集めて見事當選更に參事會員に選ばる今後の活躍期待するものがあらう。宗派天台宗。

石橋甲平氏

本籍地　市川市國分
現住所　同

氏は市制實施前の舊國分村議として、村治開發に力を傾けしのみならず、今日迄區長を始めとし種々の公共的事業に盡瘁せり、責性明快にして思想又新しく新日本建設に向つて合掌する人材と云へよう、剛毅果斷正邪曲直を明にし大山鳴動の士である。

石田締氏

本籍地　市川市新田一〇四
現住所　同

氏は明治二十八年の出生にして、長じて山口縣立山口中學校卒業後軍隊に入營除隊後は、內務省に勤務して居たが感ずる所あり、大正十四年に同志社大學神學科を卒業後キ

リスト教の牧師となり、現在は自然幼稚園を經營して居られるが強き信仰を有し聖潔なる信念の人にして、散歩讀書に趣味をもつ、氏は終始愛を以て處世の信條となし家庭には夫人トナ子さん（東京保姆傳習所卒業）との間に一人の男子が在る夫婦揃て熱心に園兒の教育に心を碎き、氏が理想案として母性教育（幼稚園の精神に必要）國字改良假名文字運動、兒童遊園少年先驅團等極めて遠大なる抱負を以つて精進怠りない齡未だ壯にして、強き信念の所持者だけに隱れたる社會の貢献者である。

上野清城氏

本籍地　福井縣坂井郡新保村
現住所　市川市市川九七二

氏は明治十七年の出生にして、長じて福井中學校卒業後東京日本大學法科に學び大正八年卒業大正十年に辯護士試驗に合格、東京日本橋區濱町に事務所を開設せしが、昭和四年に現地に移轉、現在東京市京橋區西八丁堀二丁目二番地に法律事務所を經營手腕德望兼備の辯護士として、帝都にその名を謳はれ剛毅にして、健直なる氏は市川市民のよき相談役でもめる、釣と撞球は玄人も及ばぬ手並で、家庭には大阪女學校出身の夫人ありて、賢夫人の譽高く長女澄子さんは東京佛英和女學校在學中、次女演子さんは、附屬小學校在學中である、宗派は眞宗。

德田德藏氏

本籍地　岩手縣上閉伊郡大槌町
現住所　市川市市川六四一

氏は明治二十六年の出生にして、陸軍獸醫部に十五年間在勤、勳八等特務曹長相當官の肩書を有し、退役後現地に開業家畜の診療に從事する獸醫師にして溫厚にして、動物愛護の念に篤い氏は家畜飼養主方面の信頼も深いものがある家庭には男子五人あり小學校在學中である、宗派は禪宗。

岩澤貞氏

本籍地　東京市城東區大島町二ノ一〇七
現住所　市川市中山北方四四七

氏は明治二十四年の出生にして、東京府立第三中學校卒業後北海道札幌農科大學を卒業、尊父の代より經營せる東京大島町岩澤牧場主となり、昭和三年現中山に牧場を移轉し今日の盛大を成す東京にては、牧場組合代議員、評議員、中山町に於ても市制直前の町會議員として、公共事業に專念現在東葛飾牧場組合副長であり、榮譽ある初代市川市會議員である、謹嚴にして努力家なる氏は將棋を戰はす位を樂しみに營々として事業に勵しんで居るが、家庭には夫人クラ子さんの內助の譽高く男兒四人、女兒二人の中で長男敬君は、東京府立第三中學校卒業後浦和高等學校在學中であり次男朗君は、千葉中學校在學中何れも秀才である因に氏は力量に於て將又德望に於て中山市議のピカ一との評判あり。

佐藤延彦氏

本籍地　市川市市川一丁目三〇八九
現住所　同

氏は明治三十七年名古屋に生れたるが、不遇にして三歲の時慈母に死別二十歲の時父君に別れ斷然立志して、東京に出で新聞配達夫をし乍ら、苦學力行後齒科醫院に入り、研究大正十五年二十三歲にして齒科檢定試驗に合格した、一時東京本鄉駒込坂下町に開業して居たが、昭和四年市川に移り現地に齒科醫院を開業今日に至る氏は實に立志傳中の努力家にて近代青年の龜鑑とするに足る、園藝に趣味を持ち家庭には、杉子夫人ありて內助の譽ありと聞く、男兒一女兒一、何れも小學校在學中である、宗派は眞宗。

谷口晃吉氏

本籍地　市川市鬼越二五五
現住所　同

氏は明治十七年の出生にして、大正十一年より現地に荒物雜貨商を開店今日に至る、町自治方面に貢献さる事深く昭和二年より五年迄役場書記後消防部長神社氏子總代たりし事あり其他評議員區長或は中山信用組合創立者時には理事として全く寢食を忘れて、町治の開發に努め、公共的信念篤し、資性溫厚篤實にして家庭には男二、女二あり長男壽雄君は、東京下谷鐵道學校卒業後、市川市役所に勤務す

二男勇君は東洋商業學校在學中で、長女は國府臺女學校修學中である。市制實施後は位置上から言へば商工業生産郷市たらしめ得べく、何れにしても健全圓滿なる市勢の發展を希望すると氏は語る、宗派は眞言宗。

小坂忠之輔氏

本籍地　市川市八幡一二一
現住所　市川市平田一四八

氏は明治十二年に生れ、長じて明治四十一年渡米彫刻の研究を積みて彼の地に於て、室内裝飾ランプ工場を經營せしが後、紐育市タイムスビルに於て齒科陶材研究所を開設す、昭和九年二月歸京七月より、東京日本橋區通二丁目に小坂齒科陶材研究所を設置す、（電日本橋二〇七一番）家庫には長男忠夫君が慶應醫科大學在學中である。氏が經營せる事業は日本に於ては、全國唯一のものにして陶材は金より衛生上良く、又恰好も遜かに優る現在は輸入となつて居る由、趣味は美術、彫刻、繪畫宗派は禪宗。因に氏は創造的頭の人にして、一面清實互讓の精神に富み、才徳備はる實業家である。

國井光泰氏

現住所　市川市市川六五〇（電話市川六二二番）

氏は明治十七年の出生にして、宮城縣の出身仙臺宮城縣立第二中學校卒業後仙臺醫學專門學校に學び、明治四十一年卒業直ちに陸軍に入り名軍醫として、手腕を振ひ、從五位勳四等三等軍醫正中佐相當官たり、退職後昭和五年現地に開業せる外科專門の名醫にして、圓滿溫雅なる氏の風格と眞摯なる態度は患者の信頼を深くし町民の信望も又備はれり趣味としての謠曲に堪能と聞く。

神保日慈氏

本籍地　神奈川縣足柄下郡
現住所　市川市中山二四二（電話北八幡一三三番）

氏は明治六年の出生にして、池上中檀林卒業後曹洞宗中教院にて修學後、東京小石川白山檀林（日蓮宗）の教授、妙情寺住職、境市本山妙國寺住職、東京鳥山幸龍寺住職を

經て昭和八年五月八日現中山法華經寺本山の住職として赴任せる高僧なるが、其間日蓮宗宗會議員或は日蓮宗總監たりし事もあり、昭和八年十二月日蓮宗管長に就任したが、剛毅にして信仰と信念成れる、氏の心境は信徒を始め諸僧の信望を一身に集めて居る、趣味としては宗學の研究、漢詩を詠ずる位である。

伊藤雅史氏

本籍地　市川市宇市川二七八
現住所　市川市八幡一九二四

氏は明治三十三年の出生にして、最初は東京市電氣局に勤務せしが、大正十二年より、京成電車會社に入社運轉手として着實に精勤せし處、衆人の認むるところとなり昭和五年に助役昭和九年驛長に累進して、現在眞間菅野鴻之臺の驛長を兼任し、日々貴重なる人命の責任線に活躍して居る溫厚誠實にして部下の信頼も厚く刀劍に、趣味を有し家庭には男一、女一あり、長男新吉君は、東京第七中學校に在學中である、宗派は眞言宗。

山田萬吉氏

本籍地　市川市鬼越五
現住所　同　（電話北八幡一三六番）

氏は明治十年の出生にして、初め軍人を志望して教導團に入り模範的下士として、野砲第一聯隊に奉任日露戰役に從軍して勳功を立て、退役後現地に雜貨商を經營今日に至る間、明治四十三年より在郷軍人分會長として、十餘年貢献其他消防部長を初め、市制當時の町會議員且つは信用組合理事等に歴任、一意町治の開發に努む責性活淡磊落にして、圍碁に趣味を持つ家庭には、男四、女三あり、長男隆君は、實業に從事し青年訓練所第一班長である、市制實施に就て鬼越地方は交通不便の爲め、文化が遅れてゐる故、停留場の新設に依り、又道路改修により開拓する事が急務で、此邊は郊外住宅に適する地帶が廣き故都人士を吸收する事に依り、發展を期す事が決して至難ではないと、語る因に第一回市川市市會議員として當選、更に市參事會員に選ばる氏の今後の活躍見るべきものがあらう。

清田義郎氏

本籍地　市川市鬼越一三
現住所　同　（電話北八幡二三番）

氏は明治二十六年に千葉縣下の酒井町、大谷道平氏の三男に生れ、清田家に養子として入家佐倉中學校を明治四十四年卒業、大正三年近衛歩兵第四聯隊へ、一年志願兵として入營大正四年軍曹で除隊、昭和三年尊父惣七氏の家業米穀商を相續するに至り、今日迄に消防部長六ケ年、副組頭として、二年間要職にあつた溫厚にして實直なる氏は、將棋、金魚の養成に趣味を有し、家庭には男三、女一あり長男義一君は、東京府立第三中學校在學、長女秀子さんは跡見女學校在學中である、市川市は將來消費都市として發達すべく十五六年前迄は米は町に餘りて東京に送りたるも現在逆入の狀態にて中山町の生産だけでは不足、即消費都市としての發達過程である云々、宗派淨土宗。

影山堯雄氏

本籍地　島根縣松江市天神一
現住所　市川市高石神五一

氏は明治十九年佐賀濱醫石井重義氏の二男として生れ後影山佳雄氏方へ養嗣子として入家、東京に遊學開成中學校卒業後、立正大學校に入學大正三年卒業するや更に、日本大學宗教科に學び昭和二年卒業、大正十四年泰福寺の住職となり、現在では傍ら又立正大學の教授である。又日蓮宗宗學全書刊行編輯長であり、日蓮宗宗實調査委員、同史料編纂委員である、資性聰明究學の士にして、今尙日蓮宗史研究中であるが同宗史に對する造詣に於ては比類尠き學者である、高僧にして而も明朗さを思はせる優雅な性格の持主である。

山脇龜三郎氏

本籍地　兵庫縣印南郡東神吉村
現住所　市川市鬼越二二七

氏は、明治二十六年出生最初は日本毛織工場に勤務後、姫路工場に轉勤共立モスリン株式會社の創立さるゝや、聘せられて今日迄一日の如く精勤三課のトップ工手七課の防毛工手として會社の重要なる地位を占む斯界の權威者である、家庭には男子四人あり、長男肇君は佐倉中學卒業後現在は日本大學商科に在學中にして、次男知君は東京府立第七中學校在學中である、市施實施に對する氏の感想は市川を工業都市として發達せしむるには、動力料金の低下に依る工業の發達を期し度く勞資協調問題に就ても一考を要する云々、因に中正の思想を把持し、方面に對する手腕ありて、技術又優れ德望篤し。

松崎清吉氏

本籍地　市川市鬼越一六九
現住所　同

氏は明治二十六年の出生にして、東京市京橋に浴場を開設し後、大正十三年現地に自動車業を開業元消防部長、區長、評議員代表等に歷任、現消防副組頭たり、斯業方面に於ても前自動車協會副支部長を經て現在は自動車協會の理事である、資性溫厚にして淸實隣人の信望厚く家庭には男二、女一の子女あり、市制實施前の區長として奔走するも退職金は學校貧困兒童に給與せし潔僻の人である、市制實施さるや市議に出馬高點を以て當選第一回市會議員として榮譽ある一頁を作る。道路改修、排水の事業等に對し氏の活躍期待に値するものがあらう。

栗原織造氏

本籍地　市川市北方七〇〇
現住所　同

氏は明治十二年の出生にして、明治四十一年平藏氏の後を繼ぎ農業に從事す若年の頃より、區の靑年會長、消防部長等を初め町會議員に當選、更に現在は中山信用組合長である、資性溫厚篤實にして能く大衆の儀表となり、人望も篤く德義深き人格者である、家庭には二男、一女あり、長男は家事に從事す、語る處に依れば市の完全興滿なる發達により北方邊りも市制後には驟て、住宅地として發展せしめ度い云云、宗派日蓮宗。

石橋勝之助氏

本籍地　市川市國分
現住所　同

氏は明治二十四年の出生にして、本來農業なるも其の資性業に優れ農の傍ら村治の爲め盡瘁せしを、村民は次第に信頼し收入役より助役となり、更に推されて村長となり、市制實施前迄舊國分村長として功勞多大なり此間町會議員に當選して、信望を一身に擔ひ市制實施に對する尠からざる努力を傾く、町村合併により市川市財務課長の重責を帶びて就任す。公德心厚く、又公共心に富み責任感强く、公共事業に當るや寢食を忘れて、沒頭する人格である。

宮崎銀次郎氏

本籍地　市川市平田二一一
現住所　同

氏は明治四年に生れ、現在雜貨油商を營む、二十歳頃より自治の爲めに奔走消防小頭、青年會長、區評議員、等を初め區長代理を四年間第九區長を十二年間現在諏訪神社氏子總代方面委員、衛生組台委員であつて表面に華やかに纏れざるも自治の功勞者であることを忘れてはならない溫健にして、熱情的なる氏は區の公共事業は青年時代より殆んど繼續的に奔走した、今日の市川建設者の一人である庭園に趣味を持ち家庭には男子二人ある、宗派は眞言宗。

山下清亮氏

本籍地　鹿兒島縣鹿兒島郡西櫻島村
現住所　市川市市川三一二〇

氏は明治三十三年七月出生の壯年盛り東京工學院卒業後京成電燈技手として、十年間在勤昭和四年に至り山下電氣合名會社を創立經營現在に至る、會社は資本金一萬五千五百圓にて、營業所は本社を市川新田一〇一番地に置き、（電話六二七）中山町省線驛前及び、東京市神田區仲町萬世ビル（電話下谷八一一五、八一一六、五八二三）に各々支店を有す、同社は京成電氣明電舍、日立製作所の特約店になつて居る。其他事業的手腕を有せる氏は市川市に昭和タクシーを經營す、氏は實に立志傳中の人にて仕事を唯一の趣味として邁進する新進の德望ある活動家である、家庭には愛子二人あり市制に對して、政黨的鬪爭を避けて自治體の健全なる發達を希望す云々、宗派は眞宗。

星野憲藏氏

本籍地　群馬縣
現住所　市川市市川一〇七五（電話市川一四四番）

氏は群馬縣の出身にして、前橋中學校卒業後新潟醫學專門學校に學び卒業後は、大正十一年に現市川に開業產婦人科の泰斗として信頼され、市川實業學校及び市川小學校の校醫である、資性謹嚴にして方正人を容るゝの才量ありて人氣よく、德望又具はる、宗派は曹洞宗。

五關晴道氏

本籍地　千葉縣葛飾區新宿町
現住所　千葉縣九日市九九

氏は明治三十五年農家に生れ、長じて松戸木製玩具製造所に在勤後、大正十年京成電氣會社に入社默々として自己の職務に精進された結果上司の認むる所となり、現在は國府臺驛長として最高責任者たり、溫健實直の人にして部下を愛し乘降の人々にも最も良き印象を與へて居る、讀書に趣味を持ち、家庭には女兒三人があり、宗派は日蓮宗である

筒井伊三郎氏

本籍地　埼玉縣忍町行田
現住所　市川市大門向六三七（電話市川三番）

氏は明治二十一年に生れ、若年より東京日本橋區通油町某織物問屋にて、實地修業適齡に至り野砲第十七聯隊に入營三ケ年光輝ある義務を果たして除隊後、當市川町一丁目に呉服商を開業、昭和五年現地に新築落成移轉今日に至る間、呉服開店後二十五年の老舗である溫厚にして卓見而も、着實なる氏は實業家として申分なく、謠曲に趣味を有し、家庭には男子二人あり、長男は東京商業學校卒業後實業に從事して居られる、宗派は眞宗。

松丸吉五郎氏

本籍地　市川市中山四一八
現住所　同

氏は明治十一年の出生にして、長じて松丸寅吉氏の養子となり十餘代に亘る舊家を相續して、農業を生業として今日に至り、區長代理を二期區長を二期農會役員を初め、現在に於ても氏子總代農會評議員の譽職にあり、平穏高潔なる心境の持主にて昔乍らの清廉潔白なる處に特徴がある、園藝に趣味を有し家庭には男二、女二の子女あり、長男仙之助氏は、實業に次男は青木ロール會社に勤務中である、宗派日蓮宗。

高山信司氏

本籍地　廣島縣安藝郡矢野町
現住所　市川市菅野

氏は明治三十二年に生れ、長じて廣島師範學校を大正七年に卒業後は同校附屬小學校に三年間、郡部の小學校に三年間教鞭をとり後志す處ありて、大正十三年上京して青山學院英文科に入學、大正十五年より仙臺東北帝國大學心理學專攻卒業後、女子專門學校の教職に在りしが、昭和八年東京市根津尋常小學校に轉任、昭和九年現日之出學園に重

聘され主任の要職に就かれたが、氏は兒童教育を趣味として、全力を捧ぐる好適教育家であつて直條議讓特に教育に對する造詣は深い、家庭にはキクナ夫人（廣島三原女子師範卒業）との間に男一、女一あり。

山崎寅之助氏

本籍地　市川市八幡一〇四
現住所　同

氏は明治三十五年尊父仁助氏の長男に生れ、小學校卒業後父君の建築業を補け二十六歳に至り、斯業を繼ぐ此間近衛野砲兵聯隊に於て、軍隊生活をさる、現に青年團評議員建築同業組合相談役（父君が組合創立者）であり、昭和八年四月より最近迄在鄉軍人分會長であつた、氏は非常な活動家にして半面に酒は氏の愛好する所で、職工組合の基礎確立を要望し、在鄉軍人分會存立の意義を一般がもつと認識し、自治の上には政黨政派に拘泥せず嚴正に、町政の處理をし度い希望の持主で前途有望なる青年事業家である、宗派は淨土宗。

覺張彦一氏

本籍地　新潟縣長岡市稽古町
現住所　市川市市川九七二

氏は明治三十年鄉里長岡に生れ、長岡中學校卒業後、東京に遊學、早稻田大學商科卒業後、北越製紙會社本社詰として入社、昭和五年に當市川工場へ轉勤、現在は工場次長の要職にあるが、資性至つて溫厚謙讓の人にして、スポーツに趣味を有し、家庭には難波又三郎氏の長女にして新潟女學校出身の夫人が內助に盡さる、男三、女一の子女あり小學校在學中である、現北越製紙會社の創立者は、同氏の嚴父にして、兄義平氏は現在取締役である、氏は衣食住は凡て可及的に生活狀態を簡單になし必要でないものは所持しない、つまり、屋上屋を架する如き弊は一日も早く一掃すべく今日はそんな時代ではないとの所信で、市川市實施に就ては市川町は東京より近き所に拘らず、都市としての文化的施設が凡ゆる方面に缺除して居る感があり、都人士の吸收に不便なるのみならず、生活上にも不便が多い故、將來市の發展には大いに考慮すべきであらうと、見識は無限に豐富である。

若島良吉氏

本籍地　東京市荒川區日暮里二ノ七一
現住所　市川市市川九九八

氏は明治二十七年の出生にして、東京明治學院中學校卒業後、日本齒科醫學專門學校に入り、大正十年卒業直ちに青島病院に於て實地研究、昭和九年十月現地に齒科醫院を開業診療に從事しつゝあるが、堅實にして手腕ある氏は、技工上にも患者の信頼厚く、開業後餘日ならずして已に人氣を博しつゝあり、家庭には御茶之水高女出身のクメヨ夫人ありて、貞節の譽高し、女子一人あり、至極圓滿なる生活を營んで居られる、宗派は眞宗。

渡邊一弘氏

本籍地　市川市市川三一九二
現住所　同　（電話市川五六七番）

氏は明治三十一年尊父隆平氏の三男に生れ明治中期より

の家業たる土木業を繼承し、東葛飾土木組合會計係及び千葉縣土木聯合組合の評議員であるが剛毅果斷なる半面情誼厚き氏は斯業に從事する勞働者をも手足の如く、統御する手腕は更に功妙なるものあり、蓋し氏の德望の然らしむる處にして、才德共に備はる、將來ある實業家である、趣味としての釣には日の暮るゝも忘れる氏の半面がある、宗派は眞言宗。

遠藤龜之助氏

本籍地　茨城縣猿島郡新郷村
現住所　市川市鬼越五二（電話北八幡二六三番）

氏は明治二十八年の出生、宇都宮中學校卒業後、東京に遊學、慈惠會醫學專門學校卒業同校附屬醫院外科にて二年間實地研究後櫻木町濱田病院に就職、昭和二年に至り現地に獨立開業、今日に及べるが磊落にして竹を割つた如き氏は、患者に對しても至つて親切で、附近の人から信賴されて居る、スポーツや、犬鳥の飼育に趣味を持ち、家庭には男一、女一の子女あり、清健なる生活の持主である。

內田幾助氏

本籍地　東京市本所區石原町四ノ八
現住所　市川市眞間一五（電話市川三三三番）

氏は明治二十六年東京に生れ、中學校卒業後、實業家として立つ可く、尊父時代よりの家業たる銅鐵業に從事東京本所の內田商店主として、東京一流の大實業家である、又事業的手腕に富み一面又德望高く現在は葛飾瓦斯株式會社の重役として會社側から大いに期待さる、責性快活淡にしてゴルフ、スポーツに趣味を有し家庭には男三、女二の子女あり、長男は府立第三中學校に在學中である、因に同家は一世の大實業家清岡榮之助と義兄弟の間柄にして清岡氏が青年時代番頭として仕へた舊家である。

吉田銀次氏

本籍地　千葉縣君津郡環村
現住所　市川市八幡一八七九

氏は明治五年の出生にして、早稻田大學英語政治科卒業後、元千葉縣會議員、千葉縣參事會員、農商務省森林會議員、滿洲利源調査千葉縣代表、中外商業新報記者、東京朝日新聞記者、新總房新聞社長兼主筆東海新聞社長兼主筆、の經歷を有し現在は株式會社第百二十銀行清算人、及日本水鉛金鑛株式會社常任監査役である、剛毅果斷にして何れの事業に於ても、快刀亂麻を斷つ態の手腕には萬人齊しく一歩を讓るものがある、園藝は氏が靜かなる心境を委する唯一の趣味にして、相續人として海軍少佐西野耕三氏を養子とされて居る、氏の宗派は眞言宗である。

川野傳之助氏

本籍地　市川市北方三六六
現住所　同

氏は明治十二年に生れ農業を以て、家業となすも、町自治方面に力を注ぎて、區長一期耕地整理組合委員、町會議員三期、現在は二期を通じての學務委員である、責性健全着實而も氣概ある手腕家にして自治向上の爲め盡瘁するのは實に氏の趣味とも言へよう、家庭には男二人、女四人あり、氏は市制促進の隱れたる功勞者として中山の花形である。

田中常五郎氏

本籍地　市川市北方一六四九
現住所　同

氏は明治元年の出生にして、二十七歳の當時、村會議員となり、任期六ケ年を通じて村の爲め、土地開發の爲め大なる貢献をなし、明治三十七年に至りて、助役となり引續き村長として、大正四年迄三期を通じて要職にあつた事は氏が如何に人望家なるかを識る可く、又一方明治二十七、八年頃より約三十年間に亘り郡農會に携はり表彰を受く、その他勸業員、學務委員、土木委員等、自治上に多大の貢献をなした德望家であり、中山の開拓者である園藝に趣味を持ち、現在中山町肥料組合長を勤む、家庭に女子六人あり、宗派日蓮宗。

小宮六兵衛氏

本籍地　市川市高石神三九
現住所　同　（電北八幡一〇〇番）

氏は明治元年の生れにして、祖先より代々の豪農にして土地の開拓者として、土着の功勞者であり、元村長收入役及區長を務めし事あり、其他町の名譽職に關係尠からず、現共立モスリン株式會社の創立にも大いに貢獻して、町利を圖りし中山町の先輩である。溫健にして着實なる老紳士として釣と信仰に熱心なる事は言外である、養嗣子專之助氏は野田の茂木家の出にして、明治三十五の年出生早稻田實業學校卒業後、消防事業に力を盡し眞摯なる勤勉家である。

笹木親丸氏

現住所　市川市市川四四七

氏は權力に怖れず金力に阿附せず、十年一日の如く川崎銀行に勤務、其の熱心と器量とを認められ、京橋支店長と云ふ要職にあり、その實直さは上司の認むるところであり、一面又下級社員渇仰の人として、その人格の高潔なるは今や、萬人の齊しく認むる處である、未だ一日も遲刻せし事がない程の精勤振りには一同感激してゐる謙讓なる氏は、特に記者に對し多くを語らず、その意思を尊重して擱筆する。

遠山光二氏

本籍地　長野縣下伊那郡鼎村
現住所　市川市平田二二四

氏は明治九年に生れ、長野縣立師範を明治三十年に卒業同校附屬の訓導を勤め後、中等教員檢定試驗七科目に合格信州野澤小學校長、長野縣立女學校教諭を經て、明治四十一年東京月島小學校長を、大正九年迄東京本所區柳島小學校長を、大正十年より昭和八年十月迄勤續せし教育界の重鎭にして奏任官六等である、現在は聯合教育界幹事及互助部長であるが、昨年十一月より東京駿河臺に開設せる教職員互助會事業三樂病院は御下賜金三萬圓を基礎として、氏が奔走せし光輝ある記念事業である、家庭には男三女三あり、長男千里氏は、明治中學卒業、早稻田大學在學中柔、劍道の選手にて斯道に優れ出版に携はりし事あり、次男千

卷君は、專修大學卒業後、本所區役所在勤三男千似君は、東洋大學在學中にして、他女子三人何れも高女卒又は在學中の才媛なり。

高原正高氏

本籍地　千葉縣長生郡一ノ宮町
現住所　市川市八幡一一九（電話北八幡二二三番）

氏は明治三十年に生れ、長じて日本體育協會附屬中學校卒業、明治大學法科に學び卒業、新聞記者に職を奉ぜし事もあれども、現在は東京神田區淡路町に、日本社學園を開き、滿洲語支那語馬來語等の無料教授國學の實費教授及海外雄飛青年の養成に務め、又女學校設立の計劃中である、其他雜誌「輿論」の主幹たりし事、京成電車社長の秘書たりし氏は、杉浦重剛先生、後藤新平氏に親しく師事薫陶を受けたるだけに普通人に見えぬ、特徴を具へた、才德兼備の活動家である、衆議員囑託たりし事もあり、前途有爲の青年には學資を給與するなど人情厚し、體軀堂々として柔道初段の猛者である、家庭には七人の子福者にて、長男は明治中學在學中である、市制には都市計畫を大々的に百年の計を以て恒久の策を立つべきで市の營造物は集中して建つべく又思想方面には國民精神作興機關の設立、及尙武的會を起して、國民の意氣を養成し度いと語る、氏は實に哲學味を持つ見識の人である、因に市會に出馬して八幡の最高點を以て第一回市會議員に當選推されて參事會員たり。

東興亮氏

本籍地　東京市深川區清澄町三七
現住所　市川市市川一三九（電話市川一一二番）

氏は明治二十七年の出生にして、東京早稻田大學商科卒業後、共同印刷株式會社に入社同社の爲め、大いに貢獻する所あり、現在は同社參事にして營業課長として同社に取りては實に重要なる存在である、其他、東京正則商業學校理事であり、印刷事業にも二三關係を持つ人望家である、資性剛毅果斷にして、人情に篤く謠曲と、スポーツは氏の最も愛好するところである、人生には終始自力本願を中心に獨立自尊の信念に生きるの士にして家庭には、神奈川縣

立高等女學校出身の夫人タマキさんが内助の功を盡され男兒三人、女兒二人ありて、惠まれた生活の持主である。

三神爲吉氏

本籍地　千葉縣夷隅郡浪花村
現住所　市川市市川九一二

氏は明治十八年の出生にして、工手學校を卒業後、建築業實習を各所にてなしたる上、大正四年獨立して建築業を開始、東京市淺草區田中町一丁目二番地に事務所を設け、大正十五年現地に住居を定む、東京に於ても町會評議員、東京土木建築業組合常任理事を勤め、日本堤署管内の區長たり、尙市川に於ても區長代理として區に參與して居る人望家にて、謠曲菊作りに趣味を有する平靜にして、着實味を有つ好事業家である、家庭には長女榮さんが國府臺女學校通學中である。氏は斯業に於ける日本一流の事業家にして、東京辯護士會館の增築工事により、金盃受領、寺島小學校工事に感謝狀竝に金盃受領、野方町役場工事に表彰された外、司法省關係工事は多く氏の手に依るもので、當市川市に於ても眞間小學校憲兵分隊工事には夫々表彰され、市川市より金一千圓を贈られた業跡をもつ、因に本縣多額納稅者である。

林幸司氏

本籍地　大阪府南河内郡狹山村
現住所　市川市市川九六八　（電話市川五番）

氏は明治十三年の出生にして、奈良縣郡山中學校卒業後東京士官學校卒業、明治三十六年任官後、砲工學校及陸軍大學校卒業、時大尉にして、大正三年より、此間日露役に從軍動功を立つ、後大阪砲兵第四聯隊長より、現市川市國府臺第三旅團長の榮職に就き、正五位勳三等を帶び剛毅果斷の武人肌にして、家庭には男二人、女四人あり、氏の談に曰く、教導團は陸軍最古のものであると同時に軍隊の基礎をなし其出身者は、自ら典型的な軍人が多い、帝都東口守備所として重要なる地である、今回の市制は實に好適な事にして、相等發展するであらう、當地には陸軍墓地があるが、記念碑を建立すべく計劃中であると。因に謹嚴なる一

面又部下を愛し、軍事に又造詣深く、正に時代の器である。

武井俊郎氏

現住所　市川市市川九〇五（電市川二六三番）

氏はライオン石鹼株式會社の取締役にして、資性恬淡磊落大會社の重役に見えぬ程の氣輕さにて、謙讓の美德は氏を今日あらしめた因をなして居る、齡未だ壯にして前途を囑望された實業家で、氏の事に關し筆を擱くは心殘りの親があるが特に氏の懇望によりて、記者は筆を止む、

松永光正氏

本籍地　德島縣阿波郡八幡町
現住所　市川市市川九七五（電話市川一四七番）

氏は明治三十一年の出生にして、德島中學校卒業後、東京專修大學に入學、大正九年に卒業、三菱倉庫會社に就職次いで、帝國毛織紡績會社に勤務重要の地位を占め、且つ南洲製糖會社監査役たり、現在は東京測地協會を經營し傍ら東京日本橋兜町株式會社川島屋商店に勤務、なくてはならぬ同店の重鎭たり、現地に住してより四年今日に及ぶ、見識ある事業家にして趣味として、義太夫、撞球は仲々堂に入つたものである、家庭には賢夫人（茨城縣出身東京第一高女出身）があり市制に關し市會には是非適當なる人を得る事共れには、一般市民によき候補者を認識せしめる機關が必要である云々。

湯淺文平氏

本籍地　市川市新田一二〇
現住所　同　（電話市川二六番）

氏は明治三十一年船橋町鳥光正之助氏の二男として生れ大正十一年に至りて、現湯淺家に養嗣子として入家、先代金藏氏の家業を繼ぎ、今日に及べるが同家は明治三十年より開業せる酒類卸商にして氏は、酒類商組合長であり、商工會理事である資性溫厚篤實にして、奉仕的德望家として信用篤く店狀好況なり、家庭には男兒一人、女兒三人がある、宗派は日蓮宗である。

平田華藏氏

本籍地　山口縣吉敷郡平川村
現住所　市川市菅野二三七

氏は明治十六年の出生にして、山口中學校卒業後、山口高等學校を經て、明治四十四年京都帝國大學卒業後將來教育家たるべき氏は先づ小學校代用教員より、女學校教員神職養成所、及佛教中學教諭、京都同志社大學講師としてキリストの福音を傳へ後、大阪市實業學校教頭、大阪市小學校長（大阪市幼稚園長兼務）日本大學校講師等を經て、東京女子師範學校教頭を三年勤め、千葉女子師範學校長迄の經歷を有する教育界の權威にして、現地に國府臺女學校、日之出學園を創立して校長となる迄には實に、教育界に有る事二十五年間、現今にては千葉縣第一の女學校とまで盛り立てしは全く氏の努力によるものである、尊父は吉田松蔭の門下であつた家柄に生れた、氏は教育が唯一の趣味にして教育理想として、個性教育と一貫せる教育に重點を求めてゐる。

加藤誠一氏

本籍地　市川市八幡五二二
現住所　同　（電話北八幡七六番）

氏は明治三十一年尊父信一郎氏の長男に生れ、長じて大倉商業學校に學び卒業後、東京の會社に勤務せしが、大正十三年に至り、先祖の代より八代繼承の光輝ある舊家を繼ぎて、父業の呉服雜貨商に從事す、溫厚にして着實なる氏の經營法に顧客は安心して買物をする事が出來る、家庭には男子一人女子二人あり、長女は國府臺女學校在學中である、因に同家は土地の名家にして、氏の祖父も戸長たりその血を受けた氏は又謹嚴にして、寡言實踐躬行の前途を囑望された人材であり、町民の信望又厚く、區長及代理等の名譽職として又活躍す。

田村尹良氏

本籍地　熊本縣下益城郡小川町
現住所　市川市高石神八九

氏は明治三十年の生れにして東京府立第二中學校卒業東京醫學專門學校に學び大正十一年卒業、順天堂醫院にて實地研究後葛飾町小栗原に開業、大正十四年に至り現地に開業せし實直謹嚴の名國手にて、園藝に趣味を持ち家庭には光子夫人（佐藤女學校出身）が三人の子女の教育に力を注いで居られる。

井上秋藏氏

本籍地　市川市八幡一九六五
現住所　同

氏は明治二十一年の出生、篤農家にして、一面自治方面に力を注ぎ消防小頭、青年團副支部長、區評議員、區組長土木委員、八幡神社氏子總代を勤めた人望家にして、市制前の町會議員として、又市制實施代表委員の立場に於て盡力された功績は多大なるものがある、溫健にして着實なる氏は町民の信頼厚く將來必須の人物である、家庭には男二女一の子女あり、長男は實業學校卒業、次男は內務省に勤務しつゝ大學に修學する努力家であり、長女は船橋女學校卒業の才媛である、宗旨は日蓮宗。

吉澤永弘氏

本籍地　市川市國分平川
現住所　同

氏は明治十年の出生にして、十七歳の頃より、當國分寺に於て修業し、明治三十三年に松戸町、西蓮寺住職、及龍珠院住職を經て、現國分寺住職の榮職に就き松戸町、圓能寺、及德藏院住職を兼ねたり、信仰信念を中心に溫厚なる學究的名僧にして讀書に趣味を有し、檀家の信頼も厚く家庭には女子三人あり、長女は松戸女學校卒業後、小學校に奉職、現在葛飾區役所に勤務、因に江戸川畔の三人地藏の建立は實に氏の貢獻に依るものである。

恩河朝健氏

本籍地　東京市神田區表神保町一〇
現住所　東京市芝區白金今里町一六七
　　市川市一丁目　（電話市川六五九）

氏は明治二十四年沖繩縣第一中學校卒業後、高千穗高商卒後銀行に勤務數年を經て辭職し、貿易商を十餘年間經營

す、計理士にして前記に事務所を持ち帝國計理師協會理事記帳能率研究會長であるが、現在又、市川市ダンスホールの共營者である、氏の著書は相當あるが「東京市特別稅解說」は最近のもので高評を博す、資性剛毅果斷覇氣に富み才氣縱橫に働らく少壯紳士にして、事業散步讀書は氏の趣味たり、現在經營するダンスホールのダンサー達に「孝經」一冊宛を與へ月二三回茶話會の形式にて平易に講義して人格あるインテリーダンサーの養成に苦心するなど、輕快なる變り種である、因に漢學に造詣が深い。

鎌倉榮太郎氏

本籍地　東京市本所區江東橋二丁目二四
現住所　市川市市川一九八四

氏は明治二十九年の出生にして、長じて無盡會社に勤務後、大阪滿洲等に實業狀況を視察、大正六年十二月輜重兵大隊に入營除隊後、製油事業及機械製作業竝びに、化學染料製造に從事す、大正九年市川に來り、東京住宅會社に關係し出張所長として今日に至る、氏は磊落にして一騎當千の手腕家で植木、繪畫等に趣味をを持ち、家庭には男子、一人あり、小學校一年在學中、氏は市會議員に立候補したに就て左の如く語る各都市町村には必らず、暗い裏面があるが、自分は此の市川市を理想の都市として、正義を中心に一意邁進市民の爲めに盡し度、其れには市議として、市會に立てば自分の抱負を披瀝す可く、最もよき立場と思ふ故で自分が中立派であるのは自治體に於て、政黨に拘泥すれば恰度生れ出る赤ん坊が營養不良になる如く、むしろ流產した方がましな狀態になる事を考へたからである云々、因に此度敗戰を見たるは或劃策によるもので、近き將來必ずや市政の上に頭角を表はす器と度量の人である。

高野吉太郎氏

本籍地　東京市荏原區平塚町戸越
現住所　市川市新田一七九（電話市川一四六番）

氏は明治十三年の出生、明治四十年に東京藏前高等工業學校卒業後は、東京製絨株式會社、富士紡績株式會社技手及廣島製砿所管理人を經て、明治四十五年日本毛織株式會社に入社、技手より技師主任工場長まで昇進、昭和四年十月に至り、現共立モスリン株式會社專務取締役の要職に就き今日に至る、氏は勞資協調に確たる信念を有する、至つて溫厚篤實民衆的なる紳士にして、撞球、庭球に堪能で家庭には男兒三人、女兒四人がある、現在共立モスリンは最も勞資共存の實を圖り、待遇も良く職工の取扱にも細意を用ひ、福利施設として寄宿舍を完備され工場設備に於ては日本屈指のものであるが、尙今後益々社員職工一致協力して國家の爲めに產業の發達生產の合理化を圖り度しと、勞働者の生活向上方法として、共立モスリンに補習學校を設け、女學校、大日本國防婦人會、在鄕軍人分會、靑年訓練所の敎育指導、娛樂機關としては、倶樂部を設立して野球庭球は元より非常時に際して擊劍柔道も奬勵してゐる處なぞ、全國その例を見ない、理想的工業樂園であるあたり、彼、高野氏の手腕によるもので、新しい學問を受けたゞけに上より又下より共に信望が厚く、なす事が堂に入つてゐる。

押火權太郎氏

本籍地　千葉縣千葉郡千丈村
現住所　市川市市川九五七（電話市川五五〇番）

氏は明治二十年の出生にして、千葉中學校卒業後、千葉醫學專門學校に學び明治四十二年卒業、後軍醫として近衛第一聯隊醫務室附を第一步に各所に轉任後、中支那派遣軍司令部附第一師團司令部附の要職を經て、昭和九年三月現市川市國府臺衛戍病院長に就任した陸軍一等軍醫正である氏は平溫な心境を持つ好適なる軍事衛生官にして寫眞、及繪畫に趣味を持ち、夫人シズ子さんは千葉高等女學校出身の才媛にて長女稔子さんは東京御茶之水高等女學校より宇都宮高等女學校に轉じ卒業後は、家に在つて母君を助けて居られる、氏の宗敎は日蓮宗。

眞井鶴吉氏

本籍地　香川縣綾歌郡富熊村
現住所　市川市市川二六四（電話市川三七〇番）

氏は明治二十年香川縣に生れ、廣島地方幼年學校及東京

中央幼年學校を經て士官學校を明治四十年卒業後、少尉任官山砲第一聯隊附となり大正十年陸軍大學卒業、近衛師團及第五師團の參謀を勤務累進して中佐となり、陸軍大學校教官として在職昭和七年山砲視察の爲め歐洲に派遣され、昭和八年歸國同年八月大佐に任官現市川市國府臺野戰重砲兵第七聯隊長として赴任今日に至る、氏は磊落なる軍人にして家庭には滋子夫人（香川縣立高女出身）ありて內助を盡され長女敏子さんは三輪田高等女學校在學中、次女は小學校在學中である、市制實施に就き氏は市川市は住宅地としても東京に近く便利で又一歩踏み出せば田舍なる故軍隊の訓練演習にも便にして風光明媚にして空氣良き爲め、兵營生活の衛生的にも至極好適で軍鄉としては、實に理想的な場所であらう云々。

阿部幸之助氏

本籍地　大分縣中津市一七五七
現住所　市川市砂河原九六三

氏は明治三十五年十二月吉助氏の次男に生れ、大分縣立中津中學校卒業後、東京昭和醫學專門學校に入學昭和八年卒業す、後、東京市電氣局病院にて實地研究後更に東京市立深川病院にて研讃を積み昭和九年十一月現地に開業、以來診療に從事し、今日に至るも尙研究中である、氏は徹頭徹尾醫は仁の精神に生きる、洒脫にして着實味を有する青年闘手である、趣味は撞球であつて家庭には、ハル子夫人との間に男子英生君を設け圓滿なる生活を營む。宗教は眞宗。

染谷愛之助氏

本籍地　市川市宮久保四二〇
現住所　同

氏は明治十四年の出生、土着の名望家にして三十歳の頃より公共事業に參與し消防小頭、部長組頭と歷任して多大なる貢獻をなし其他町內組長、區長町會議員（三期）に當選公職に奔走し八幡町外九ヶ町村の耕地整理組合評議員、道路組合會議員（三期）の職務をも兼ねて一面又白幡神社氏子總代頂圓寺檀家總代であり市政實施にありては代表委員の一人である、氏は溫厚にして實直謹嚴なる紳士にして現在は印刷業を經營す、開發の爲め事業を起す事は氏の趣味であつて、八幡大柏間の乘合自動車も氏の創設に依るものである、家庭には長男は實業方面に携はり、女子五人の子輔者である、市制實施に依て農村が惠まれ市債に依る土木事業に依つて道路の改修をなし交通施設の完備を望む事が出來觀て宮久保高臺は住宅地となるであらう云々。

榎本董太郎氏

本籍地　市川市八幡一三四三
現住所　同

氏は明治十九年の生れにして、土着派の舊家家業は農なりしも昭和四年より現地に米穀商を開店區區長を始め、町會議員として且つは又松戸區裁判所管下陪審員であり、八幡白米小賣商組合會長、及東昌寺檀家總代である、溫厚にして謙讓なる實業家である、家庭には、軍隊在隊中の長男を頭に七人の男子がある。市制に當つて町民の覺醒を望ましく各町村の自覺に依つて宜き都市が生れる云々、因に寡言なるもその德に敬慕する者自ら多し。

佐々木熊太郎氏

本籍地　東京市深川區富川町五
現住所　市川市菅野三五二

氏は慶應三年に生れ、明治二十年より三十年迄軍隊生活をなし、日淸日露の役に從軍歩兵少尉に任官退役後、宮內省官吏を一年間勤めたるも實業方面に志ざし、前田正名氏に付て實業に從事し後、明治三十三年より大正十二年迄安田善次郎氏の下に勤務退職後現地に移り、餘生を在鄉軍人分會長、聯合支部理事等多年間に亘り貢獻した功績は多大なるものがあり、陸軍大臣閣下より軍事功勞章在鄉軍人總裁宮殿下より、有功章を授與され正八位勳六等を帶ぶ。八幡小學校後援會も氏の盡力に依るものであり、氏の愛息は美術學校卒業後、更に藏前高等工業學校卒業、氏は市制實施に對しても正しき道を歩みて一歩も假借せず權力に阿諛せず金力に恐れず進む剛直の士にして、世人が我慾に捕はれ市全體の爲に考慮する人が、尠く共、我一人行くの心境

の持主にて老いて益々旺んなるものがある。

道津幸雄氏

本籍地　長崎縣南松浦郡魚目村
現住所　市川市八幡一二四五（電北八幡二四一番）

氏は明治二十三年郷里長崎縣に於て呱々の聲を擧げ、長崎中學校卒業後上京して、日本醫學專門學校に入學大正六年卒業後は附屬病院に於て一年有半の研究を重ね、大正八年秋九月小峰博士經營の病院に大正十一年迄勤務、同年九月に至り獨立して東京西巣鴨に開業大震災の爲め一先づ郷里に歸りて開業、昭和三年招聘されて、中山腦病院長となり、昭和四年十一月現地に開業今日に至る間、千葉縣代用精神病院の認可を昭和三年五月に下附されたが氏の盡力が預つて大いに力があつた、氏は運動に趣味を持ち終始正道を辿りて處するの士にして練熟せる國手である、夫人は富山女學校出身の才媛にして女子四人あり、長女は千葉高等女學校在學中である。

後藤泰次郎氏

本籍地　市川市新田二二六
現住所　市川市新田一〇九

氏は明治十七年の出生、氏が今日市川町政の上に盡力された事は實に偉大なるもので、青年團長、役場書記、消防部長、町會議員區評議員より農會總代、所得稅調査委員、縣方面委員、土地賃貸調査委員、信用組合委員等殆んど携はらぬ公職は無き程に現在は區の幹事長でもある、美術書畫、骨董に趣味を持ちたる覇氣ある果斷の人にして家庭には長女が小學校在學中である、市制施行の實際は市民の福利增進と道路改修を必要とする因に選擧間際市議に出馬し見事當選す、蓋し又人望の致す處である。

小澤久信氏

本籍地　市川市市川一二八四
現住所　同　（電市川二五八番）

氏は明治三十一年東京本所に生れ、鈴木製作所に於て勤務研鑽八年に亘りて實兄小澤眼鏡製造所に來り事業を授け昭和八年五月獨立して現地に小澤信工舍を設立しシガーケース及ライターの製造に專念す、健實にして實行手腕家たる氏は職工を遇するにもいと細心の注意を拂ひ、從業員は一致協力して能率增進に努力して居る、氏は花道に堪能にして教授の免狀を所持して居る、家庭には男子五人女子一人ありて長男信雄君は東京府立第七中學校在學中である、

市制に關し氏は當市川市は工場地としては場所及建築法の關係より東京では、小資本では仲々發展出來ないものでも其點市川では充分發展の餘地があり、擴張が容易であるが市民の自覺不充分にして、地價が下る等の誤れる思想に促はれ一層の自覺を必要とする云々、宗派日蓮宗。

田村良雄氏

本籍地　東京市牛込區市ケ谷本村町
現住所　市川市五丁目五六六

氏は明治十七年の出生にして、日本中學校卒業後、東京一ッ橋商科大學に學び、同四十年卒業後直ちに横濱正金銀行に就職爾來二十七年間印度に二度大正九年ジャバ支店副支配人を經て、昭和四年南米支店長昭和五年印度支店長と歷任歸朝後同銀行頭取席の要職に就く趣味として、テニスゴルフ其他スポーツは氏の好むところであるが、氏が此の多年間に亘り正金銀行に盡された功績は多大である、眞面目と力量を以て今日の地位を大成した氏は蓋し德の至す處である、長男政一君は日本大學工科に在學、次男康君は慶應大學商科に修學中である、宗派は日蓮宗。

松崎吉右衛門氏

本籍地　市川市中山二五
現住所　同　（電話北八幡一二番）

氏は明治七年の出生にして、亂父より三代醬油醸造及肥料問屋を營む舊家にて千葉縣多額納稅者の一人である、大日本人造肥料特約店、及大日本特許特約店であつて、着實にして溫健なる人望家である、長男俊雄氏は錦城商業卒業後、青山近衞步兵第四聯隊出身にして在郷軍人副會長の要職にあり、町民の信望篤く氏の前途こそ實業界に市政の上に大に見るべきものがあらう、次男輝雄君は、錦城商業卒

業後店に於て實業實習中である長女と次女は既に、他家に嫁し圓滿なる家庭の持主である、宗派は日蓮宗。

廣瀨安之氏

本籍地　千葉縣山武郡正氣村
現住所　市川市字市川二二

氏は明治三十一年の出生にして、縣下成東中學校を卒業後、第一高等學校を經て東京帝國大學醫科に學び、大正十三年卒業帝大附屬病院にて、六年間實地研究後本所區相愛病院に勤務、昭和九年七月現地に開業內科小兒科を專門に今日に至る、圓滿篤行の名國手にて親切なる上、醫學の造詣深ければ開業間もなく早くも人氣を博す、讀書に趣味を有し家庭には、節子夫人（神奈川縣搜眞女學校出身）との間に男三女一の子女あり、宗派は日蓮宗。

松丸丘三氏

本籍地　市川市菅野四三〇
現住所　同

氏は明治二十二年の生れ、農を以て生業となし傍ら公共事業に貢獻せし功績は實に多大にして消防小頭、及部長を九年間大正二年より、大正十二年迄約十年間、在鄉軍人分會副長、在鄉軍人會常務理事、及分會長、其他、昭和七年より二期區長、消防八幡組副組頭、組頭町會議員、土木委員、產業組合理事、果實組合組會長、債務調停員等を勤め更に方面委員であるが、氏が如何に眞劍に公共事業に盡瘁し又鄉黨が、信賴して居るかは此等の事實を推して知る事が出來る、才德兼備今後の活躍が大いに期待される。庭作りに趣味を有し家庭には女子四人あり、市制に就いて又抱負は豊である。

下村定氏

本籍地　高知市南與力町
現住所　市川市新田一七九（電話市川三六九番）

氏は明治二十二年の出生にして、幼少より軍人を志望し東京中央幼年學校より士官學校卒業後は、野砲第十四聯隊附として砲工學校卒業更に陸軍大學校に學び三十一歲にして卒業したる秀才にして後陸軍參謀本部附となり世界戰爭

直後佛國留學を命ぜられ巴里陸軍大學に四年間修學して歸國後再度參謀本部附となりて、昭和七年ジュネーブに軍縮會議準備委員とし派遣され昭和八年七月歸朝、國府臺野戰重砲兵第一聯隊長の要職に就き、今日に至る新進軍部外交官として、未來を囑望された帝國の重要人物である現在氏の居宅は大正十三年以來のもので家庭には、賢夫人芳子さんありて、高知高女出身內助の譽高し、長女節子さんは小學校在學中。

石川正樹氏

本籍地　新潟縣北蒲原郡葛塚町
現住所　市川市市川一七四一

氏は明治二十六年新潟縣に生れ、長じて福島縣立商業學校卒業後は土木業株式會社橋本商店員、古川鑛業株式會社員、又び大同電力株式會社員、等歷任大正十三年合資會社大宮組社員となり株主であつて、現在に及び中山競馬場にも關係がある、當市川には六年の星霜を過した氏は溫厚健實なる仁にして人生のシンボルは正義なりとし決して、嘘を言はぬ事を處世の信條とす、家庭には長男、孝壽君は小學校在學、長女キミ子さんは、松戶女學校卒業後東京大塚帝國女子專門學校通學中であり、次女キヨ子さんは松戶女學校在學中である、市制實施に就て氏は市會の革正は正義に基き市民の幸福を圖り度いとの一念から無理に推されて出馬氏は每日東京に通勤してゐたが、僅か數票の差次點者たりしは氏の人望を物語るもので、將來の活躍が期待せられる。

山下角太郎氏

本籍地　市川市鬼越六
現住所　同　（電話北八幡三一八番）

氏は明治七年の出生にして在來油商を經營せし實業家なれど四十歲頃より自治體に參與し區長、家屋稅調査委員、學務委員、村會議員町會議員等殆ど關係せざる公職はなく隔離病舍組合會議員、消防役員でもある、溫厚着實の人にして家庭に長男は實業に携はり女子二人がある市制の實施により市會の選擧あるや病床より出馬し、見事當選の榮を

かち得たる事程左様に町民の信望も厚い、現市參事會員の要職にある。

大海清三氏

本籍地　山形縣米澤市
現住所　市川市新田一九一（電話市川五四四）

氏は明治二十七年に生れ、幼時より畫才を持つ氏は縣立米澤中學校卒業後、東京上野美術學校に學び大正十二年卒業後洋畫界に身をおき昭和元年に現地に居を定めたる藝術家にして、今日に至る間、米澤市に於て自己の作品畫會を開きたることあり、氏は藝術その者の如き性格の所有者にして謙讓の人家庭に、夫人吉野秀代さんは（水原産婆學校卒業大正十四年現地に産婆を開業）長男利平君は東京府立第三中學校在學中なるが父君の趣味を受けて、畫才に富む氏の令弟忠君は、昭和二年頃フランスに留學せし日本畫界の重鎭である、氏は語る生活と繪を描く事は別な樣な氣がする現市川は日本畫に相應しく、住むにはよいが繪には刺戟が少ない云々。

伊東教順氏

本籍地　市川市市川四八五
現住所　同（電話學校市川一六二自宅市川四二番）

氏は明治十八年に生れ、明治三十八年東京豐山中學校卒業明治四十五年豐山大學卒業特待生として研究科に入り、倶舍哲學サンスクリットを專攻研究、大正五年豐山大學校講師を囑託され、大正八年同校助教授となる同十年市川學館を創設し館長兼教諭となり、大正十二年五月豐山大學教授に大正十四年に至り獨立して市川實業學校を創立校長として、我市川實業教育の爲め盡瘁今日に至る、此間昭和七年には又同宗派教學部長を兼任し、滿、鮮宗教教育視察に派遣さる家庭には子女二人あり、長女は千葉縣師範學校卒業後教職にあり、長男は小學校在學中、因に氏は教育者たるのみならず、一面極樂寺住職として又斯界の權威者である。

沼崎五三郎氏

本籍地　千葉縣東葛飾郡我孫子町
現住所　市川市八幡五一九

氏は明治三十七年の出生にして、長じて大正十二年結城農學校卒業後、直ちに宇都宮遞信講習所に入所同年卒業後東京中央電信局に三年間在勤し、更に北八幡局より印幡郡三里塚郵便局に六年勤續、昭和八年十月現局長代理に就任今日に至る實直にして、謙讓なる氏であるが殆んど凡て局長事務は、氏が取扱つてゐる、スポーツは氏の最も愛好する所、宗派は禪宗。

市島其次氏

本籍地　東京市小石川區林町九三
現住所　市川市字市川一〇二九

氏は明治三十八年の出生、新潟縣新發田中學校卒業後、上京東京齒科醫學專門學校に入學大正七年卒業、大正八年に現地に齒科醫を開業今日に至る、現在は齒科醫師會東葛飾支部の幹事にして健康篤實なる、氏は患者の信頼も厚くスポー、ツ乘馬に趣味を持つ家庭には神田女子職業學校卒業後岩國女學校に奉職せしサワ子夫人ありて氏の忠實なる內助者たり、長男は船橋中學校在學次男は明治中學在學中女兒三人ある、宗派は淨土眞宗。

小坂美郎氏

本籍地　市川市八幡一二一
現住所　同　（電話北八幡一三一）

氏は明治六年の生れにて、東京英語學校を卒業後、明治二十六年檢定試驗に合格、明治二十八年九月開業せし斯界の經驗者にして、自治方面の貢獻も多大その他醫師會理事（十年）縣代議員八幡町消防救護班長を勤め現在は小學校醫をして兒童の保健に盡瘁さる讀書園碁に趣味を持ち快活にして人を容るの雅量を有す、氏が處世の左右銘として同業圓滿に總て共存共榮あれとの主義であつて家庭には花子夫人との間に一子忠夫君あり、慶應大學醫科在學中である宗派は眞言宗。

內浦達仙氏

本籍地　市川市八幡五六四
現住所　同

氏は明治五年君津郡清川村傳正院に生れ、父業を繼ぎて學院其他にて修業同村永井作天性院に住職となり大正九年三月現東昌寺の住職となり今日に至る氏は若年より布教に熱心にして、大正十一年本山より軍人布教士を拜命爾來十五年間、一日の如く布教に從事千葉縣軍隊及學校等氏の足跡を印せざる所はない、資性剛毅果斷にして信念厚く家庭には二女あり、長女は陸軍少佐に嫁し次女は松戸高等女學校卒業後、大妻高等女學校專門部を卒業した才媛である。

藤本勝實氏

現住所　市川市新田一四五番地

氏こそ識る人ぞ知る才德兼備修養至德の人にして、殊に浮世の觀工場にある物質名利を追はず、只信念に生きる陰德家である記者は氏の掲載拒絶により殘念乍ら筆を擱く。

村越榮太郎氏

本籍地　市川市宮久保一一四四
現住所　同

氏は明治二十七年に尊父國太郎氏の長男に生れ、果實栽培業に從事今日に至る間、消防部長三年、小頭六年を繼承奉職し小作爭議に當りては同志會を組織して會長となり、調停に成功して鄉黨の感謝の的となり其他ガソリンポンプ購入に奔走する等公共に對する貢獻多大にして、現在は一年前より區長の要職にある正直實直の仁にして、家庭には男一、女四あり、長男は家業を補く市制實施に當り氏は左の如く語る農民は農家としての本領を忘れず市になつたからと直ちに市民振りを發揮して、本業を疎にする樣では忽ち財政困難になる云々、宗派は日蓮宗。

黑羽信氏

本籍地　長野縣上田市上四八七六
現住所　市川市中山三〇四

氏は明治二十一年に生れ、鄉里中學校卒業後上田市宮澤辯護士方にて法律研究、大正六年三十歳にして資格試驗に合格長野縣上田市に事務所を開業、大正六年上京東京にて事務所開設昭和二年現地に法律事務所を設置今日に至る、氏は實に立志傳中の人にして剛毅果斷能く衆人の氣持を理解して相談に應じ、多年の經驗に基づく名手腕を以て事件を處理する半面花茶を味はう雅量に富む趣味を持つ、家庭には男三女四の子女がある、現在は東京市赤坂新町五ノ三六にも事務所を有し活動さる。

平井虎之助氏

本籍地　市川市市川三二一七
現住所　同　（電話市川二六九番）

氏は明治二十三年の生れにて、現地に酒類商を營み今日に至る堅實なる實業家にて、青年會長、國勢調査委員、の職にありて公共の爲めに盡瘁し現在は區長なるも剛毅果斷の半面に至つて謙遜深き氏は自己の行を人に識らさず、唯默々として社會の爲めに働く隱れたる貢獻家にして自ら歸依する人多き人格者である。

金子日聰氏

現住所　市川市中山遠壽院

氏は東洋大學卒業後東京市中野區野方町蓮花寺の住職として、二十七年間法燈の生活をなしつゝ氏の人望は同町會議員、方面委員、社會救護員等の公職に在らしめ同町に於ては社會的事業は先づ金子氏に相談せよと云ふ程、町民の信賴を一身に集めて居たが、昭和四年に至り現中山町遠壽院住職として赴任以來感ずるところあり、又靜養の爲め政治的活動は一切中止し只管修行僧の爲め指導者となり、宗教三昧に聖なる日暮しを續けて居るが强き信念に生きる氏は將來必らずや大なる事業を完成すべき人物である。氏は本市の人と云ふよりも寧ろ東京の人物として、賢德の譽高い。

村瀨虎雄氏

本籍地　東京市赤坂區表町三丁目二五
現住所　市川市市川一〇七二（電話市川一二〇番）

氏は明治十七年の出生にして、東京赤坂にて高等馬車貸附並に葬具社を經營せしが大正十年市川に移り現地に住居し、大正十三年に至り映畫常設館三松館を開設今日に及べるが此間、第五區長を二ケ年町會議員を二期當選其他土木委員等の要職に就任町文化の開發に盡瘁する處少からず、溫厚にして健實なる事業家である、市制實施に關し市制は宜しいが徒らに市民の負擔を增す樣な事なく華を捨て、實を採つて最も住み易い都市たらしめ度い云々。

富取次郎氏

本籍地　東京市日本橋區濱町二ノ五七
現住所　市川市新田一二二

氏は明治二十五年尊父近藏氏の次男として生れ、松本楓湖氏に師事せし日本畫に堪能なる日本美術院同人、院展派の泰斗である、當市川に居住せしは大正十三年で院展に當選した最初の出品は、大正三年頃氏が二十四歳の時である至つて磊落優雅なる藝術家で趣味としては、繪畫は寧ろ當然であるが、漫然と旅行するのも氏の又樂しみの一つである由、當市川は昔と異なり繪になり難いが關西の郊外に似たところに市川の特徴がある云々。宗旨は禪宗因みに多作を愼しみ傑作に精進しつゝあり風堂は雅號である。

伊藤勇氏

本籍地　千葉縣山武郡上堺村
現住所　市川市八幡一二七

氏は明治二十七年の生れにして、長じて東京京北中學卒業後、東京齒科醫專を卒業、東京淺草平民病院に於て實地研究後、東京市向島區吾嬬町高石病院を共同經營今日に至る、町會議員として代表的功勞者たり、質實剛健にして犧牲的信條あつく園藝を好む家庭には、夫人（千葉縣立女學校卒業）は現在八幡小學校に教鞭を取つてゐるがその教育振り內容共造詣深く評判がよい氏との間に男兒二人、女兒一人あり小學校在學中である、宗派は天台宗。

稻毛清氏

本籍地　市川市市川三一六五
現住所　同

氏は明治十八年の出生にして、青森縣弘前市工藤氏に師事して勉學、明治四十二年齒科檢定試驗に合格青森縣に於て更に二年間實地研究後明治四十五年二月現地に開業今日に至る迄東葛飾齒科醫師會支部幹事、縣齒科醫師會健康保險部監事たりし事もあり、剛毅果斷にして才德兼備の譽高く信望も篤い旅行に趣味を持ち家庭には二男、一女あり長女一枝さんは松戸女學校卒業、次女久子さんは松戸女學校卒業後東洋女子齒科醫專卒業、長男は中學在學中養嗣子稻毛良作君は金澤市田中淸次郎氏の六男にして、日本大學齒科出身の秀才である、宗派は日蓮宗。

川上憲治郎氏

本籍地　市川市八幡五〇一
現住所　市川市八幡八〇〇

氏は明治二十七年の生れにて、農を以て家業とし傍ら公共自治方面にも力を盡し今日に至る迄靑年團支部長消防部長小頭、區組長、町會議員、町農會評議員、土木委員の要職にありて町の爲め碎心の努力をなし、郡農會議員產業組合理事である、氏は穩健にして淡々として大道を行くが如き心境の持主にて退職手當の全部は區に寄附發動機購入の費用に充てた如きは最も、氏の性格を物語るものである、家庭には男二、女三あり、市制實施に就て氏は交通の發達に意を注ぎ殊に道路の完備を期し度い云々。自治發展の功勞者として擧ぐべき一人である、宗派は禪宗。

上田千之氏

本籍地　市川市高石神一〇二
現住所　同

氏は明治三十三年の出生にして、東京齒科醫學專門學校卒業後、市川町の某醫院にて實地研究をなし、大正十二年現地に齒科醫を開業、今日に至る町會議員二期傳染病隔離病舍組合委員、傳染病豫防委員、齒科醫師會幹事の要職に就き、昭和三年より學校醫として兒童の口腔衞生に携はつて居る資性恬淡磊落にして、着實熱心齒醫者の「ハ」の字を日常生活の凡てに使用し公休が八の日、朝八時から夜八時迄診療二十有餘年來不勤尊信仰者として八の日は公休日

とし、成田詣でをする程の信仰家である、先に公職に貢献せし功績に依り町より表彰狀を受く、圍碁、盆栽、園藝に趣味を持ち家庭には長男明孝君、長女節子さんあり、共に小學校在學中、學校衛生方面は二萬圓にて治療機を購入、氏の献身的技術と相俟つて內容は充實さる。

川上孝之氏助

本籍地　市川市八幡五〇四
現住所　同

氏は農を以て家業とし傍ら評議員、學務委員を勤めたることあり、町會議員には三期當選、現在は產業組合理事であり、市制代表委員である君資性至つて居常敵を作らない內觀的心境の持主にして、穩健家である、家庭には、長女一人あり、市政に對して工業の振興による、產業の發展を以つて市民の負擔輕減と市財政の完璧を望んでゐるところに異つた抱負所見を持つ、因に壯年より一貫せし思想を持ち變ることなき人格者として、町民の信望が厚い。

佐久間石太郎氏

本籍地　市川市若宮三七六番地
現住所　同

氏は明治十一年尊父忠五郎氏の代から篤農の譽れ高き舊家に生れ二十八歳の頃より區の自治に參與し昭和四年頃から同八年三月迄、町會議員の要職に其他區評議員、元町消防組小頭より部長など約十五年就任現在は三期に亘り區長の職に有り八幡神社氏子總代智泉院檀家總代である、剛毅果斷にして園藝に親しむ趣味を有す、目下若宮より中山競馬場に拔ける道路移轉の爲め努力奔走中である、家庭には男三、女一あり、長男清吉氏は消防副部長、青年會支部長と亦公共に貢献さる處大なり、道路の完成、衛生施設、教育施設の完備は氏の新市への希望である。

杉田與三郎氏

本籍地　東京市深川區海邊町
現住所　市川市字市川二三　（電市川二四三番）

氏は明治十四年に生れ、大正十一年現地に料理業田甫を開業今日に至る、其の間東京肥料合資會及社び大塚ゴム株式會社に常務取締役として關係を持ち、資性恬淡磊落にして鄕黨の評判よく、釣は氏の最も好む處である、氏は現在料理業の主人なるも推しも推されもせぬ實業家にして、才器に富み温厚圓滿なる人格者である、宗派は日蓮宗。

大澤整太氏

本籍地　千葉縣安房郡保田町
現住所　市川市八幡一二三七

氏は明治二十九年の出生にして、安房中學校卒業後、千葉師範二部に入學大正六年卒業、行德尋常高等小學校、布佐尋常高等小學校、市川尋常高等小學校、船橋尋常小學校松戸尋常高等小學校、千葉第三尋常高等小學校、市川尋常高等小學校等に勤續教鞭をとり、本縣教育界の重鎭として、現在は今回市制と同時に獨立したる市川眞間尋常小學校の主席訓導である、剛毅果斷にして能く生徒を慈しみ、町民の信賴も篤く園藝に趣味を持つ、家庭には清子夫人ありて、一男、一女あり、家庭教育に力を注ぎ長男は眞間小學校在學中である、宗教は神教。

中山泰明氏

本籍地　栃木縣上河內郡上三川町
現住所　市川市鬼高町一

氏は明治十九年の出生にして、明治四十二年房總學校を卒業後、警察官を志し佐原八日市市川茂原の各警察に歷任千葉縣警部として重任を果たし昭和八年一月聘せられて中山町役場助役に就任謹嚴を以て鳴る、氏は市制實施迄の名助役として町民の信望を集めて難事をよく處理す園碁に趣味を持ち家庭には長男、龍郎君が專修大學に在學中である市制實施に就て氏は都市計劃の完備を希望し住宅都市として、遊園地帶が理想ならずや云々。因に氏が市川茂原警察署長時代に於ける功績は萬人の認むる處で市制實施により輔利課長に推さる又宜なり。

谷口長三氏

本籍地　市川市鬼越三〇三
現住所　同

氏は明治二十年の出生元農業なりしが現在は閑にあり消防部長町會議員を始め種々の公共事業に盡力せし功績少からず、資性恬淡にして磊落而して謙讓の人である、團恭に趣味を有し家庭には子女五人あり、市制に就て氏は語る、社會の狀勢は一律には行かぬ人生にも公法人にも共通のものあり、臨機應變の政策が必要であつて先づ住宅都市として吾が市川を盛立て、次に商業工業に及ぼすが宜しく工業は俄に發展の餘地が無い云々、氏は主として京成停留場設置運動に奔走し最後の建議案提出者として、町議中市制促進の爲めに盡せし點が多い。

小倉俊之氏

本籍地　千葉縣長生郡本吉村
現住所　市川市宇市川四一七

氏は明治二十六年の出生にして、幼にして教育家を志ざし千葉師範學校を大正三年に卒業、縣下茂原小學校に教鞭を取りたるを振出しに長生郡鶴枝小學校を經て、昭和四年現市川小學校に轉任今日に至る氏の教育的才能は夙に認められ、主席訓導の要職に就く、校長は元より同職員及び父兄間の信望も篤く、兒童よりは、慈母の如く仰がれて居る責性健實にして勤勉、典型的良教育家である。

稻垣貫三氏

本籍地　東京市麹町區飯田町五ノ三五
現住所　市川市五丁目二五五

氏は明治十三年の出生にして、大正三年檢定試驗に合格帝國大學齒科滿鐵病院等にて實地研鑽、昭和六年現在の地に市川齒科診療所を開始一般診療に從事今日に至る、溫厚にして篤實なる氏は、齒科治療の民衆化を圖り大いに努むる處あつて附近の信望も厚い。

田邊恆之氏

本籍地　千葉縣夷隅郡御宿町
現住所　市川市中山五〇五

氏は明治十九年の出生にして、東京府立四中卒業後、帝國大學獨法科に學び明治四十四年卒業、萬朝報社に入社財政經濟を擔任、大正八年東京本所相生町に法律事務所を開設、辯護士計理士の業務を開始傍ら大學院に於て更に研究を積み、大正十三年當中山町に居を移し六十九銀行、北海道銀行、汽車會社、京成電車、及日本種苗會社に關係顧問辯護士たり、其他二三の事業に關係商法を專攻し、二三の著書もある、氏は仕事の迅速簡明を尊び民事專問家として名聲を博し今や東都一流の地位を占めて居る讀書、書畫狂歌俳句に趣味を有し、家庭には貞子夫人(東京女學館出身)との間に三子あり、長男恒貞君次男恒郎君、三男恒人君は共に千葉師範附屬小學校に在學中である。

栗山久助氏

本籍地　千葉縣市川市國分二七〇
現住所　市川市國分二七〇

氏は明治二十四年の生れ、尊父の家業たる農業に從事せしが明治四十四年十二月近衛砲兵第一聯隊に入營、除隊後再び家業に親しむ傍ら自治方面に盡力せんと決意し、三十二歳の當時區長代理の要職に就きたるを手初めに役場收入役區長、農會評議員、昭和八年町會議員等に推され、昭和九年二月以來、元國分村名譽助役として今回の市制實施まで多大の貢献をなせし事は鄕黨の齊しく、感謝する所なり、現在は一將功成り、悠々自適するも尙愛町の念は旺んにして機會だにあらば公共事業に盡瘁の希望を惜しまざる寡言默行實踐の人である、家庭によし子夫人の外女子二あり、長女百合子さんは、松戸女學校在學、市制實施に就て都市計劃の第一歩として道路の改修を急務とし殊に、舊國分村は道路が惡かつた爲め、文化の發展に遲れた事は殘念で市制に依つて、町村合併の上は租稅の負擔の輕減を計り一般の福利を增進して、市政の發展を望み度い云々。

戸村慈精氏

本籍地　市川市中山五六一
現住所　同　（北八幡三〇五番）

氏は明治十年に生れ、法華經寺中山第十一區檀林にて修學更に池上本門寺第一學區檀林にて修學後東京市豐島區西

大泉町大乘院の住職より千葉行德町妙典清壽寺、住職となり大正二年に現安正院住職となり今日に至る現安正院の住職就任前に宗務院に勤務せし事もあり、才德兼備の士として衆民の渴仰するところ宗務所長宗會議員等の重職にも就きし事あり、書道に趣味を有せる信仰厚き高僧にして、稀なる信念の把持者である。

山野金藏氏

現住所　市川市眞間小學校際

氏は明治八年の出生、埼玉縣の出身にして少年の頃より有斐閣に四十年精勤現に支配人の要位にあり稀に見る勤續家にて溫厚着實の士として實に立志傳中の人である、書物を作る事は氏の趣味にして四十餘年間の研究努力粉骨碎心の勉强は今日の有斐閣を築きあげ、又一面今日の氏をあらしめたのである、今は法律に對する造詣深く專門家も及ばぬ程の見識を有し、新時代の要求コンメンタリーの著に意を向けられ準備中と聞く、眞間山麓、小學校際に高壯なる土地を需めて新築、昭和九年三月之に轉住す。

山崎久吉氏

本籍地　市川市國分根古屋
現住所　同

氏は明治十八年の出生にして、農を以て生業となしてゐるが三十歳頃より自治開拓に意を注ぎ、舊國分村消防創立の功勞者なり、創立後は、小頭より現在は顧問の要職にあり、其他區長代理を三期、區長三期、村會議員一期、土木委員等を勤め今回市制の實施さるゝや光輝ある市會議員の榮冠をかち得たり、今日に於ても戸數割調査委員、金錢貸借調停委員の要職をも兼ねて今後氏の政治的努力は大いに觀るべきものがあらう、資性溫厚にして篤實能く大衆の指導者となる園藝と釣は氏の魂の唯一の安息所である、家庭には男四、女二あり、長男は十九歳にして農事にいそしみ次男は大日本帝國空の護りとして航空兵を志願し、目下在隊中である、市制實施第一の急務は道路の完備にあつて、舊村制時代には年三百圓位の豫算しか無かつたので、隨分

苦心したが其點に於ても市制實施を急ぐ理由であつた道路が完成する事に依つて產業狀態も次第に活潑になるであらうと、氏は語る、宗派は日蓮宗。

村井良二氏

本籍地　富山市千石町一六
現住所　東京市江戸川區平井町（市川市新田）

氏は鄕里富山中學の出身、明治三十七年出生の壯年盛りである、藝術に趣味深く在學時代よりその才を認めらる、三五聯隊に入隊歸隊後、東亞キネマ池袋金星館、赤羽錦輝館、品川帝國館、深川千石館、新宿劇場等に關係し現市川松竹館支配人たり、此間氏は劇の執筆、監督を始め新進映畫の上に貢獻せる斯界の先覺者にして知る人ぞ知る、その器量と手腕は特筆すべきもの多し。

藤井鋼藏氏

本籍地　東京市目本橋區伊勢町
現住所　市川市平田二〇五（電話市川二二九番）

氏は齡未だ拙なくして、東京府立第二中學に在學中なり當家は名家にして、殊に父君勇次郎氏は、昭和八年迄在世一世の大實業家として知られ、勇次郎氏は先に藤井同族會社を設立、其の他ヤマト工業株式會社の重役たりし人にして、日本屈指の實業家たり、長女清子さんは、東京府立第二高女出身、齡正に二十歳の才媛である、一面又今日の成功をなさしめたる裏面には、夫人の內助の譽高きによると聞く。

櫻田桝太郎氏

現住所　市川市五丁目

氏は岐阜縣の出身にして、獨立獨行正に立志傳中の人にして苦學力行檢定試驗により、醫師となり初め東京市深川に開業、衆民救濟に心を致し同地に於ける十三年間の開業にて其の地に此の人ありて謳はれた、健實、默行の人であるが震災に遭遇し、大正十三年現市川に永代醫院として開業す、浮世の裏面に於ける醜狀に悲憤慷慨し人を租手とする

より自然を相手として私渉する人格者、浮世の風の間に間に動く人達には思ひも寄らぬ先覺者であらう、從つて同氏を知る人はその高潔なる德を敬慕してゐる、尺八、と劍道が氏の趣味にして何れも堪能である。

森　豐次郎氏

本籍地　東京市日本橋區鯛殼町一ノ一
現住所　市川市倉塚七九一（電話市川五〇四番）

氏は慶應二年の出生、埼玉縣熊谷の出身にして、漢學塾折遷學舍を卒業、漢學に對する造詣深し製糸業を本業とし勸業奬勵會員として、諸方を講演し或は埼玉養蚕組合第二部長として、且又同縣生糸改所頭取として斯界の爲めに功勞尠からず、今は市川眞間に閑居して、園藝書道を趣味とし殊に菊作りは氏の得意とする處にして、三十餘人に教授し造詣深し、令息義雄氏は、明治三十二年の出生、千葉醫大の出身にして、卒業後、軍隊に入り、正七位一等軍醫たり、成績優秀にして、澄ノ宮　殿下に御治療奉りし程の光榮に浴す劍道四段にして、水泳スポーツ又多藝多趣味である。

椎名　秀氏

本籍地　市川市五丁目
現住所　同　（電話市川四二四番）

氏は明治三十三年の出生、縣立成東中學を卒業後、明治薬學專問學校を優秀の成績にて大正十四年卒業、慶應大學病院臺灣總督府病院に歷任後昭和元年市川市市川五二三現令第豊保氏の處に薬局を開業せしが後、現驛前に移轉す學校卒業後は、佐倉聯隊に入隊し歩兵少尉に任官正八位に叙さる、謙讓着實の努力家にして、その態度の眞面目なると熱心なるより業績は日に日に擧つてゐる、スポーツに趣味を有し中學時代より野球選手として活躍す、夫人みつ枝さんは、東京府立第七高女の出身にして、內助の譽高しと聞く。

椎名豐保氏

本籍地　市川市市川五二三
現住所　同　（電話市川六五四番）

氏は椎名秀氏の令弟にして、明治三十六年の出生、東京聖學院中學を卒業後、令兄と同樣明治薬學專問學校に學び、大正十三年卒業後、赤坂聯隊に入隊、正八位少尉として退役大阪の某會社にて三年間研究後、昭和五年現地に薬局を開業今日に至る、君穩健商才に富み奉仕心强く店狀頗る好況にある、スポーツは唯一の趣味にして、特に、スキー野球を好む、夫人滿喜子さんは山口縣厚狹高女の出身貞節の賢夫人たり。

五十川玖表氏

本籍地　岐阜縣武儀郡下牧村
現住所　市川市中山四三八（電北八幡一一九七番）

氏は明治二十年の出生、往年には新聞記者として才腕を振つた事もあるだけに氣慨果斷剛氣に富む、恬淡の人であるが、その眞摯なる態度と公德心に厚きより選ばれて、區評議員、金錢債務調停委員、房總相互救濟會長、千葉縣料理店聯合組合理事中山三業組合長等々の重職にあるのみならず、町議として二期殊に市制實施に就てはその代表委員として中山町治の上に貢獻せし處尠からず、此度更に第一回市川市會議員として、高點にて當選、現市參事會員の要職にあり、所謂退職慰勞金も公共救濟事業に投じ、一錢も身につけぬだけに町內の信望も厚い、感想を叩けば、將來船橋を加へた大都市計劃の腹で歩を進むべきもので、交通の便灌漑對策小岩國府臺間の橋梁架設本市開發の爲めの小岩町の開拓、住宅組合設備等識見は、限りなく豐富である、一面妙泉閣市川に江戸川園等を經營してゐるが此の方面に對しても改善上造詣が深い。

新井智龍氏

本籍地　市川市中山二三二
現住所　同　（電話北八幡三一一番）

氏は明治十三年の出生にして、横濱妙寮寺及中山法華經寺にて修業、明治三十八年池本坊の住職となり、大正十四年現本行院の住職として赴任す、溫厚にして而も氣慨あり若年の頃より已に多僧の中圭角を表はし、名僧の譽高い一人の嗣子又社會濟度を志し、僧侶として修業中である、

町田曲江氏

現住所　市川市平田

氏は長野縣の出身にして千曲川の邊りに生る、因んで曲江と號す、君資性自ら畫才に富み、在學時代より圭角を現はしてゐたと聞く、日本畫壇の重鎭、故寺崎廣業畫伯に師事し氏の篤學と畫才は相俟つて今日の大成をなした、現在は日本畫壇の總將にして畫風自ら優麗典雅絶妙の彩管なり、氏よくその精神氣分を描寫し多作を避け、花鳥は氏の最も特意とするところである、されど洋畫に又造詣深く青年時代には美術の都巴里に遊學した程である、彼の明治神宮繪畫館の壁畫、陛下の御練兵は實に氏の筆になるものである、現時は帝展審査委員として日本畫壇の權威者である、吾が市川市民に於ても氏に師事する者が少くない。

新井與四郎氏

本籍地　東京市淺草區山之宿町五三
現住所　市川市新田二五〇（電話市川五四番）

氏は文久三年の出生であるが、東京府北豐島郡町役場の收入役を振出しに東京區制が布かるゝや、淺草公園事務主任として、又淺草區學務委員、區會議員、或は同區教育會衛生會、兵事慰勞會、理事又は監事等淺草區の自治開發に貢獻尠からず更に進みて、東京市會議員、學務委員、參事會員を二期迄勤め、名譽職として自治政に干與せし事、實に二十餘年間、大正十年には、東京市囑託として、歐米に見學、教育制度衛生狀態の視察をなし、參考資料を供せし功勞を認めらる、氏は一面又實業家として合資會社、電氣館同千代田館、大崎演藝株式會社、日本興行株式會社、ヤマト興業株式會社、末廣合資會社等に關係しその代表社員又は取締役たり、氏が東京市政の上に貢獻せし功績は萬人の認むる處にして、今尙東京市區の名譽待遇者として、特遇を受く、藝術に趣味を有し、特に俳句に堪能である、家庭は男三、女四人あり、長男次男三男、何れも大學を卒業、殊に長男精司君は、獨逸イエナ大學を卒業、東京府會にも出で、又覇氣に富む、才器豊かな活動家として知らる。

青木要吉氏

現住所　市川市八幡菅野　（電話北八幡八番）

氏は京都同志社大學の出身にして、卒業後、米國のエナ大學に學び歸朝後、岡山中學に教諭たること八年、後安田銀行に轉じ主要の地歩を占む傍ら頭取の秘書として、信頼され、後年銀行關係より轉じて北海道炭礦に事業を經營し吾妻商會を興し現在に至る、更に氏は教育事業に趣味を有し日之出學園に關係創設當時の功勞者にして、金力に阿附せず權力に恐れず名譽に拘泥せず强き信念に生きる、氏は近代稀に見る純潔の士である、記者が面接中に氏より受けたる感化印象は又忘れ得ざるものがある、又學究的人物にして古書に對する造詣深く古色雅趣に富む庭園を手入れする事も又、氏の趣味の一つである、因に氏の令弟には一世の大實業家、虎大臣山本唯三郎氏のある事は萬人の知るところである。

小島儀兵衛氏

本籍地　市川市市川二丁目
現住所　同

氏は市川土着派の舊家にして、明治二十年の出生、家業は世々商業たり、氏も又質屋を經營せしが、人物の眞摯なると堅實なるより町の信望も厚く、二期間の區長を始めとし諸種の公共事業に盡力す後、志す所あつて、四十五歳の時愈々過去の業務を一切清算して、禪學を基調とする眞理の探究に耽り、物的、心的凡ゆる世の苦酸と戰ひ遂に最近人生の煩悶より脱して、宇宙の眞理を味得し、過去の大なる犧牲と努力に報いられた、羨ましい心境の人である、生きゝ爲めにのみ生活るのでなく、同時に功名の爲めに生活るのでもない、眞理の爲めに、衆世濟度の爲めに生るのが世人の姿でなければならない、人に百年の命なし、功名を爭ふが如きは凡夫の業、氏の決して好まざる處、四十八歳の今日迄酒と煙草の味を知らぬ氏は何十年かの煩悶の末、修業を重ね漸く人生の彼岸を見出し「眞理味得の體驗を語る」なる一卷を公にし、濟度に力めてゐる、神を愛し正義

を慕ふ氏も又稀なる信念の人といふことが出來る。

仁茂田　馨氏
仁茂田武夫氏

本籍地　市川市市川三〇一〇（電話市川二一四番）
現住所　同　三〇一三

兩氏は縣下長生郡東村の出身にして、同村豪農兵四郎の次男同三男として生る、三十三歳に二十八歳の青年實業家にして、兄弟睦まじき前途有爲の活動家である、市川三丁目の角に酒類商と米穀商を營み開業後、未だ數年を出でずして已にその經營、當を得て、近隣の信望が厚い、令兄馨氏は千葉中學の出身、弟武夫氏は茂原農學校の卒業にして、千葉縣立農事試驗場に勤務す後志す所ありて、實業に轉し、兄弟軒を竝べて商賈を開き、早くも町内の信望を得て馨氏は、區評議員、及同業組合の役員たり、二人とも圍碁に趣味を持ち、弟君は愛犬と散策を唯一の樂しみとしてゐる、商業には眞摯直實にして、兩氏の今後の本市に於ける飛躍振りは必ずや期待に値するものがあらう。

清岡榮之助氏

本籍地　東京市本所區石原町四丁目二
現住所　市川市字市川九八五

氏は高知縣の出身、明治十三年の出生にして、十五歳の時單身上京し本所の大實業家内田商店に雇はれ勤務中その才腕と器量は、内田氏の認むる處となり、大番頭の地位を得、同時に内田氏令孃と婚姻、三十四歳にして獨立、隅田製鐵所を經營、業績益々擧り、久野鐵工所を買收して、隅田川鐵工所となす、氏の器量と不撓不屈の精神は彌が上にも益々業狀進展して、百萬圓を以つて、之を讓渡し、昭和二年外遊し、歐米を視察遊歷昭和三年末歸朝す、昭和五年吾嬬製鋼所を創立、（同氏經營の千住鐵板を合併）昭和八年株式組織となし、向島區吾嬬橋東四丁目、及淺草に工場を設く、資本金六百萬圓にして、正に氏の今日の財産は八百萬を以て數へらる、最近更に又、千住製鋼所を計畫中と聞く、氏のモットーとして、馬鹿も一心何事かならざらんの信念を奉持し、他力本願を排斥し、稼ぐに追付く貧乏なし、

の平凡なる哲理に生く正に之、氏の性格の反影にして實に今日の富を築かしめたる所以である、正しく立志傳中の人として世の龜鑑たり、趣味に大弓をよくし、その達人である、更に又育英に趣味を持ち多數の篤學青年を養へ、勉學せしむる處あり實に高邁の士といふべし。

高木善行氏

現住所　市川市市川四二三番地

氏は千葉醫科大學庶務課長、會計課長の要職にあり、高等官三等從五位勳五等の地位を有す、資性自ら聰明にして謙讓閑居、讀書研究する位が氏の趣味にして、浮世に顔を出すことを餘り好まない、温厚雅趣の性格である、氏の懇望により記者は、以上の外多辯を愼しみ擱筆する。

鈴木助二郎氏

本籍地　市川市八幡一四一
現住所　同

氏は明治九年の出生、永く千葉縣巡査を拜命、その間その人格の圓滿なると、技倆の優秀を以つて重要され、大正八年市川警察署より、舊八幡町助役となる市制實施の昭和九年十一月迄、滿十五ヶ年間八幡町の爲めに碎心の努力を傾け、その人格の高潔なると識見の豊富なるは已に世の知る處である、町長の代ること數度よく之を援け、仕事の實際は殆んど同氏の手によるものにして、殊に監物町長就任前は町長代理としてよく難政を處理し、人氣を博せり、此度市制實施により市川市役所に入り、戸籍兵事課長に重任す。

青木運之助氏

本籍地　市川市中山二八五番地
現住所　同

氏は明治二十九年の出生、東京實科工業學校を卒業するや、父業青木ロール會社を援けて直ちに、實業界に乘出し後、之を繼承して、東都一流の會社にまで發展せしめたるは氏の力に據りしもの多し、後、更に關東製鋼株式會社を興し、現在兩會社の取締役社長たり、不況の間よく、社業を維持し最近の工業インフレに際し、今や社勢旭日昇天の

業狀を示す、氏は齡未だ三十九年の働盛りにして、已に東都實業界に於いて其の人ありと認めらる君は覇氣ある手腕家にして而も一面溫厚着實、人情に厚く、門下に私淑する者が尠くない、その前途は實に注目に値ひするものがあらう。家庭は夫人と、子女五人、殊に夫人は內助の譽が高い。

平山米太郎氏（改精吾）

本籍地　東京市淺草區柳橋町
現住所　市川市市川九二五（電話市川三三二番）

氏は明治三十年の出生、千葉縣屈指の土木業者、通稱川俣寅吉郎、平山寅吉氏の長男として、東京小石川に生る、大正十二年現市川に居を定め、町民の信望篤く、現に眞間區會副會長、衞生組合長、防護團分團長等の名譽職にあり一面父業を繼ぎて土木業に從事す、競馬場、市川小學校、市川橋道路等、市川の土木工事は大半同氏の手によるものにして、千葉縣總土木課指定請負人である、銃獵、水泳、柔道等、又多趣味にして、剛毅不屈、覇氣に富み、反面、仁俠の士を以て鳴る、年齒僅に三十八の壯者にして、將來我が市川市政の上にも大いに活躍する人物である、感想を問えば眞の市川市の發展には、交通、衞生、即、道路下水の完備が急務にして、かくてこそ始めて東京都人士の吸收が出來る云々。宗派日蓮宗。

大須賀末郎氏
大須賀力氏

本籍地　東京市神田區三崎町三ノ一
現住所　市川市中山三八四

末郎氏は力氏の父君にして曾て鐵道省に奉職後、保險會社に轉動、現に帝國火災保險株式會社監査役、日本火災保險株式會社取締役等の重責にありて、名聲嘖々同社をして今日有しめたるは氏の力にまつ處が多い、溫厚、謙讓にして奥床しい感じの人である、力氏は末郎氏の長嗣にして、明治三十九年の出生東京大成中學卒業後、昭和六年東京美術學校卒業帝國美術院會員、建畠大夢氏に師事し、小壯彫刻家として譽高く、昭和五年の帝展初入選、以來引續き五回入選殊に昭和七年特選となり、前途頗る春秋に富む斯界の權威者

である、令弟新次君も又東京府立第五中卒業後、東京高等工業出の秀才にして、擧て明朗なる飛躍道程の一家である。

木川悌之亮氏

本籍地　千葉縣香取郡多古町林
現住所　市川市八幡五五八

氏は明治十四年の出生、篤學の士にして獨學力行明治三十八年裁判所書記登用試驗に合格、同年木更津裁判所、中川出張所に奉職、爾來、松戸、大網、當川、成東、船橋、八幡（京都）等の各裁判所に歷任し、昭和七年四月現市川登記所主任として赴任、現在に至る、斯界の人と見えぬ多感溫情低頭の人なり、園藝を趣味とす、氏が三十年に亘る官界生活の功績は、その識見と、相俟つて世に知られてゐる。

山崎政之助氏

本籍地　市川市國分北臺一七〇五
現住所　同

氏は明治十年の生れにて、農を以て家業となし、中山慈育學校卒業後、二十四歳の頃より村の自治體に關係、消防創立當時よりの世話役として、十八年の永きに亘りて貢獻し、農會代議員、區長、土木委員、戶數割調査委員、村會議員等を勤め、現在は金錢調停委員、及方面委員の要職にある、恬淡磊落なる氏は農家の主人とは思えぬ明朗さを持ち市制施行の隱れたる功勞者として國分の立役者である、園藝に趣味を有し、又姓名學を研究す家庭には男一、女四あり、長男昇君は、青年訓練所を出て家業に就いて居る、目下氏は農事改良、肥料改良に全力を注いで居る篤農の士である。

湯淺忠藏氏

本籍地　市川市高石神六三
現住所　同　（電話北八幡二五九番）

氏は明治九年に生れ、長じて家業たる農業に從事せしが適齡に及んで、近衞四聯隊に光輝ある軍務に服して日清、日露の兩役に參加したる勇士にして、功績により勳八等を拜授して居る、爾來、區評議員、神社總代等の公共方面に貢獻し、昭和八年三月には、町會議員に當選し、市制實施に付ては隨分奔走せし功勞者である、剛毅果斷なる反面又菊

作りの雅趣を持ち、仲々堪能である、家庭には男五人、女一人の子女がある、宗派は日蓮宗。

佐竹敬吉氏

本籍地　岐阜縣大垣市
現住所　市川市市川四二五

氏は明治八年に生れ、岐阜中學卒業後、第四校を拔群の成績にて卒業、東京帝國大學工科に學び、明治三十七年卒業、海軍經理部に志願して永年奉職、日露戰役にも從軍して國防の第一線に轉戰したる功績により、正五位勳四等の榮光ある肩書を得て、大正十二年に辭職、現地に住して、東京市麴町區丸之內三丁目、東京特許代理局を經營して今に日至る、家庭には男三、女三の子女あり、次男は神田大成中學卒、三男は東京府立第七中學校在學中である、長女次女共に、小松川府立第七高等女學校卒業の才媛である、宗派は淨土宗。

梶谷昇氏

本籍地　東京市葛飾區高砂町四一九
現住所　市川市市川四〇一

氏は明治二十二年の出生にして、長じて教育家たらんと志し、明治四十四年、千葉縣立師範學校卒業後、印旛郡安食成田匠瑳郡八日市場各小學校の訓導を奉職後、大正十四年匠瑳郡豐榮小學校長に就任後、市川小學校訓導に轉じ、昭和九年香取郡笹川小學校長より、現市川市眞間小學校長に榮轉今日に至る、氏は本縣教育會の權威者にして、資性溫順圓滿中正にして教員間の統制も圓滑に行はれ、兒童教育方針に又見るべきものあり、家庭には夫人ヨシ子さん(青山女學院卒業)との間に男二、女三あり、長女幸枝さんは、東京府立第七高女在學、次女文子さん、長男潔君は市川小學校在學中、因に氏は、正八位奏任待遇にして、縣教育會より表彰された篤行家である。

椎橋已喜雄氏

本籍地　市川市八幡五八六
現住所　同

氏は明治二十六年の出生、東京中學校卒業後、早稻田大學商科に學び、大正七年卒業後、三井物產株式會社に就職現隅田出張所主任の要職に就く迄、約十五年間一日の如く精勤せし勤勉家である、昭和八年町會議員に當選して、公共方面にも功勞多大なり、君資性謹嚴にして剛毅、趣味として弓術、居合術の研究をなし、スポーツも又氏の愛好するところである、氏は正義に立却すれば、一人と雖も吾行くの心境にて處生し家庭に子女二人あり、長女は小松川女學校卒業の才媛である、宗派は日蓮宗なるも氏は、宗派に拘はらず獨特の强き信念に生きる人格者である、此度市制實施さるゝや、市議候補として出馬し、八幡の激戰地に於て見事當選せしは、一に氏の力量と德望を物語るものなり。齡未だ壯なる氏の今後の市政の上に於ける活躍は蓋し注目に値する。

城幸助氏

本籍地　山口縣都濃郡須々萬村大字須々萬
現住所　市川市二丁目二四三(電話市川二六六番)

氏は明治十八年、父君小助氏の長男として生れ、十四歲迄幸福なる家庭の人となりしが、尊父が米國スタンフォード大學在學中病を得て遂に異境に歿せらるゝや、氏は斷然立志して東京に出で築地工手學校、及電氣學校に入學卒業後遞信省電信燈臺用品製造所に就職、次いで當時の市街鐵道株式會社、東京電氣鐵道株式會社を經て、明治三十九年には陸軍電氣試驗所主任となり、二十七歲にして、鐵道省電氣課に入り、昭和五年に至る十八年間を未だ過度期なりし電化事業に獻身努力し、現場主任として、日本最初の電氣機關車の運轉、東海道線、横須賀線、及信越線等の電化事業に携はり、我が鐵道界電氣界必須の人物となる、後京成電軌會社よりの招聘に依り入社、爾來、電車課長車輛課長等を兼務して社の制度改善に盡瘁せし業績は遂に、氏を現在の要職に就かしめむ、昭和八年十一月迄市川眞間に住せしも、現地に自己設計の新築落成をみ、之に移轉今日に至る、氏は多趣味なるも取り分け謠曲、野球を好み明快にして、覇氣力行の紳士として、實に立志傳中の人である、力行を主として、明るく正しく强くの信條を以て處世し、家庭に

は操子夫人（廣島高女卒）ありて內助に盡さる、長女夭折、次女和子さん、三女房子さんは國府臺女學校に在學、長男元秀君及、四女伊津子さんは小學校修學中、市制實施に就いて語る、人間の集團に黨派は避け難い事ではあるが實、際に共れが災して市民の利害を度外視した政治は避け度いと思ふ云々。

長金作氏

本籍地　東京市小石川區江戸川町二三
現住所　市川市砂河原九一二

氏は明治二十二年の出生、苦學力行、東京麻布獸醫畜産學校卒業後、東京帝國大學農學部講習修了、大正三年及九年の事變に、西比利亞に出征軍功に依りて、勳八等に叙せられ、白色桐葉章を授與さる、凱旋後、馬政局に奉職、後辭職して、東京市城東區大島町二丁目二一へ開業、昭和九年十月現地に分院設置今日に至る、磊落にして用意深く諸事を律する人にして、將棋に趣味を有し、宗教を通じての正しき信念を以て世を一貫するの信條を有し、正に立志傳中の人である、家庭にはなつ子夫人ありて産婆を開業、長女嘉子さんがある、氏が市制實施後に於ける立場上の希望は衛生上野犬を捕獲し、飼養犬の屆出を嚴にし、狂犬病豫防の注射を勵行し以て野犬病犬に依る被害の減少を圖る、保安上警察及憲兵隊へ犯罪捜索用犬を飼養せらるゝ事、動物愛護上各種動物に對し、警察の指示徹底を指導し、町の適所を見計り、牛馬用水所を設置し、動物愛護デーを行ふ飼養者に苛酷を戒め溺愛を注意し、萬事宗教感念を以て溫和に接せしむ、又之が治療は人の疾病其ものと何等異る事なく、寧ろ口の利けない者を眞心を持ていたはりつくすこそ、我等の天職を完ふせしむるものなり云々。

島崎操氏

本籍地　市川市八幡一四一
現住所　市川市八幡一六六九（電話北八幡二〇九）

氏は明治二十七年に生れ、長じて適齢に達するや、海軍に入り、光輝ある軍務に服して除隊後、現地に藥局を開業昭和九年更に現地に改築業務の擴張を行ひ今日に至る其の

間、昭和五年以來町會議員に二期當選、市制前の町會議員であり、代表委員として、內務省土木出張所囑託會計である、健實剛毅の人にして、人望厚く圍碁、釣に趣味を有す家庭には子女四人あり、長男は日本大學中學部在學中である、市制實施に就て氏は語る、一、明るい都市を作ること、二、經濟的負擔の膨脹を避けること、三、鄕土愛の精神强き自治干與者を得ることが必要である。

保々誠次郎氏

本籍地　東京市本所區緣町三ノ一二
現住所　市川市市川九〇一（電話市川二〇一番）

氏は明治二十六年の出生にして、東京都文館中學卒業後明治大學商科に學び、大正四年卒業、尊父の時代よりの家業たる石鹼製造に從事し、昭和五年事業を擴張し、合資會社芳誠舍石鹼製造所となし、東京に大工場を有す、大正十三年より、當市川眞間に豪壯なる邸を設け移住し、町內の信望も厚く現に眞間區會長、町相談役である氏は穩健にして私心なき信仰家にして、圓滿なる人格者である釣は最も氏の好むところである、家庭養女一人あり、浦和高等女學校出身の才媛である、市制に就て氏は語る、市になつたに就て第一に市民の覺醒を急務として量よりも質に於て完全なる都市を希望する、舊東京市が大東京市制を實施した當時に多大の不利を招いた例もあり、財政方面は當然負擔の多くなる事も覺悟を要するが、地主、家主の理解がなくば、都市計劃は至つて困難にして、自我意識が影をひそめなければ、市の發展は困難と觀られる云々。

岩澤宗之助氏

本籍地　市川市八幡一四二
現住所　同

氏は明治十年に生れ、今日に至る迄農業を以て家業とす其の間、近衛輜重兵大隊に入營、日露戰爭に參加して殊勳を立て、勳八等に叙せらる、公共方面に又貢獻多く、消防部長、區長代理、區長を經て、區評議員、及十年を通じての八幡神社氏子總代であるが、資性溫厚にして、篤實私心なく、事に熱心附近の信望も篤い、農に携はる事を趣味として

家庭には、男子三人、女子一人あり、長男は父君を輔け、次男は東京にて實業に就き、三男は陸軍戸山學校在隊中である、宗派は禪宗。

高橋兼太郎氏

本籍地　市川市市川三二〇三
現住所　同　電市川（一一一番）（五五番）

氏は明治二十二年の出生にして、明治三十九年度の千葉中學の出身である、中學卒業後、永く米國にあり彼地のカレーヂに學び卒業後、通譯官として、國際上貢献する處あり後昭和二年家業たる菓子商を繼ぐ營業所は本店の外、東京日本橋、人形町及市川驛前に支店を設け業蹟盛大にして、千葉縣多額納税者たりされど氏は決して、一個の商店主にあらずして確固たる信念と、個性を持し識見具はる智德兼備市川市の人物である、その宗教上に於ける眞の人生を求むるの容、又自ら異彩ありて、而も人を射るの見識を持す將來に於ける氏の進出は又期して、吾人の待望する處である。

島田昌三氏

本籍地　群馬縣高崎市宮元町四六
現住所　市川市平田二一四

氏は明治十六年群馬縣に生れ、郷里の中學を卒業後、早稲田大學政治科に學び、更に外國語學校を明治三十九年に卒業、陸軍參謀本部にて、日露戰史編纂に從事せしが、後岡山醫科大學及び、第六高等學校の助教授を拜命、大正元年辭して、獨逸教會學校の教授たり、其他陸軍通譯官、及海軍通譯官として斯界に貢献後、獨領南洋移民地に赴き、民政部調査課長、文書課長及び、外事課長を兼職、大正十年歸國、海軍省に入つたが、大正十三年聘せられて日本大學の教授として、醫科、齒科に語學を擔任して今日に至る、語學の最高權威者にして郷里よりは市會に推された程の手腕家、德望家である、論曲に趣味を持ち酒は至つて好物、性磊落非常に人間味の深い學者であると共に、又一面實業家たる氏は、現在萬富合資會社の代表社員、獨逸醫學時報社長、高崎セロファン株式會社取締役、及び、合資會社南進

洋行の代表社員である。

竹内實造氏

本籍地　東京市京橋區西八丁堀四丁目
現住所　市川市新田一九九

氏は號を愛光と呼び、明治九年長野縣松本市に瀧藏氏の次男として生る、壯年時代には警視廳に奉職せしも後、感ずるところあつて、東京京橋クリスチャン教會學校に入り洗禮を受けて、教會傳道教育に携はる傍ら京橋に事務所を置き、實業に就く、此間京橋の町會長を始め青年團の創立に奔走自ら團長として或は又善行會、憐人會の幹事、公共會委員及び京華小學校の評議員等町の信望を一身に擔つて、公共の爲め私心なく盡瘁す昭和六年俗塵を避けて現地に塾を開き閑居し、爾來今日に至る氏は熱心なるクリスチャンとして強き信念を有し、至誠天に通ずるの熱意の人で現在も、名士の子弟を六十名以上も指導し、最初は無料で教授の方法を執り、一週に一、二回の精神講活をして日本精神の發揮、國體觀念の鼓吹、忠孝道の眞意を識らしめ、隱れたる社會奉仕、精神教育の指導者である、長男太喜男君は明大法科に在學中である。

塚本清三郎氏

本籍地　市川市新田一八五
現住所　同　電話市川（一三八）（七〇五番）

氏は明治二十八年の出生にして、實兄にして一流實業家たる東京日本橋區茅場町塚本長三郎氏方にセメント問屋業を見習ふ事、十二年間、大正十一年現地に石油、セメント卸商を開業今日に至る、昭和五年より三菱の石油セメント千葉縣一手販賣店となり、業績を擧ぐ元商工會長、副會長として創立以來の貢献者である、至つて恬淡磊落で穩健着實なる士にして將來を約束された實業家である書道研究に趣味を持つ、市制に關しては東京郊外住宅都市として發展せしめたい、商業には不適當ではなからうか、蓋し工業と住宅の混合地帯は不可、田圃の改善には工業は可なるも眞の住宅地とするには、相當都市計畫が論議さるゝであらう、

要は市の財政を充分考慮して、市民と市會議員の綜合的意見に依りて、都市計畫の完を期し度い云々。

菅谷銀三郎氏

本籍地　千葉縣長生郡豊田村
現住所　市川市中山二〇

氏は明治二十年縣下豊田村に呱々の聲をあぐ、幼にして教育家たらんと決心した氏は、明治四十年に千葉師範學校を卒業、同時に東葛飾町田中尋常小學校に十九年間奉職、大正十五年現在の中山尋常高等小學校に榮轉以來、九年間校長として教育界に貢献され、功績見るべきものあり、昭和八年七月に至りて、高等官七等待遇を拜授す、至誠一貫十年一日の如く、兒童の愛撫と、教育の向上に盡瘁されし努力は實に氏に於てのみ初めて觀らるゝ尊いものである、正に本縣教育界の權威者であり功勞者である、家庭には三人の男子があり、長男直君は、東京府立第七中學校卒業、次男寛君は、保善工業學校在學、三男は、小學校在學中である、氏の談に曰く『本校は十年間に生徒數、倍加して來たが餘りにも虚弱兒童の多きを悲しむ、將來市になれば是非衛生設備の完全を望むものである』と。

鹿倉三雄氏

本籍地　千葉市千葉一六八
現住所　市川市高石神六五

氏は明治四十二年千葉市に生を享け、鄕里の中學卒業後齒科醫師たる可く志し日本大學齒科醫學校に入學、昭和七年首席を以つて卒業後、醫大齒科附屬醫院に入りて、實地研究の結果、昭和九年十月より現地に開業、診療に從事さる、性來氏は明朗にして機略に富みスポーツを好み在學時代既に角力選手として有名であつた、前途有爲の新進青年たる氏の活躍は正に期待すべきものがあらう、宗派は天臺宗。

仲村金右衞門氏

本籍地　滋賀縣神崎郡南五ヶ莊村
現住所　市川市菅野二〇七八

氏は明治十五年に生れ、商業學校卒業後上京、東京本所に於て二十六歲の時、質屋業を開業せしが後、大正十三年

現地に日出園養鷄場を開設、現在にては市川市隨一の養鷄場である、氏は恬淡にして、磊落何事も熱心にやれば、趣味を生ずと云ふのが氏の信條にして、家庭には長女ゆう子さんあり、府立第七女學校卒業後、共立女子專門學校出身の才媛にして、近く華燭の典を擧げらる由、因に日出養鷄場は羽數、三〇〇〇一日の生産高、一八〇〇個あり本市に於ける有力なる生産者の一人である。

川上平吉氏

本籍地　市川市八幡一六六九
現住所　同

氏は明治十六年の出生にて、長じて工兵第一大隊に入營光榮ある軍務に服して、歸隊後、米穀商に從事、今日に至る、此間消防部長、組長、在鄕軍人分會理事、監事、區評議員として、且又、昭和六年七月町會議員に當選、二期町會議員、市川代表委員、土地買收委員長及び八幡神社氏子總代にして現に評議員である、氏は今回の市制實施に就ても建設の功勞者であり、停車場設置に附ては實に四年越しの運動奔走者にして隱れたる恩人であるのみならず、殆んど、町の公共的事業に關せざるものなく、眞の活動家であり、實行力ある才德兼備の信望家である。

北澤甲吉氏

本籍地　市川市五丁目五五五
現住所　同　（電話市川四三九番）

氏は明治三十年の生れにて、十九歲の時、藥劑士檢定試驗に合格せし秀才にして、其後、東京帝國大學藥學科にて研鑽を積みて、東京の製藥工場に就職、大正十二年當地に藥局を開業今日に至る、穩健實直にして圓滿なる德望家で顧客の信用も厚く從つて、業績頓に擧る、尺八に趣味を有し、家庭には庸子夫人ありて、內助の擧あり、宗派は淨土宗。

山越諦治氏

本籍地　千葉縣市原郡市原村
現住所　市川市五丁目

氏は明治十七年千葉縣下に生れ、長じて明治三十九年千

業師範學校卒業、縣内市原郡五井、八幡各小學校訓導を經て柿ケ崎尋常小學校長となり、後轉じて、市川村尋常高等小學校長に昇任大正十三年迄奉職後、匠瑳郡視學に榮轉、大正十五年郡制廢止と同時に縣視學となる、昭和三年三月に至り、松戸小學校長拜命、昭和六年三月現市川尋常高等小學校長に轉任今日に至る、同七年に氏が、教育界に對する献身的な努力は酬ひられて、高等官奏任待遇を以つて遇せらる、讀書に趣味を有し、會ふ人をして必らず、愉悅感快の情を起さしむる有德圓滿なる人格者である、市制實施と共に氏の希望は二部制を廢止し、學校衛生を普及徹底せしめ度い云々、因に市川小學校が全國稀に見る成績を擧げつゝあるのも氏の努力が預つて力ありと云はねばならぬ。

高橋統閏氏

本籍地　山梨縣北巨摩郡清春村
現住所　市川市五丁目五七八

碩學の大家として、醫學の傍はら漢數學を敎へたる、高橋壽磧の二男として、明治二十年生る、長じて父業を繼いで、明治四十四年岡山醫專を卒業、直ちに東京佐々木杏雲堂病院に勤務研究し、大正二年同院醫務長となる、同五年牛込區矢來町に開業、同八年岡山醫學專門學校講師を囑託され、更に同十二年岡山醫科大學講師となり、同年末より現地に開業し今日に至る、此間、大正十一年博士の學位を得て氏の篤學は江湖に定評がある、斯界の泰斗にして溫厚にして、公德心に富み、磊落なる氏の風格は自から人をして尊敬せしむるものがある、尙氏は藥學に造詣深く、高橋理化學研究所長として、專ら藥物の發見創製に務む、一面自治方面に貢献深く市制に就いては推されて代表委員たり、其他新設市川醫師會の會長、市川消防後援會長として又町治開發の功勞者である、因に氏の祖先は、武田信玄の家臣であつて、長兄は村長として、鄕里信用組合創立者である。

岡本實氏

現住所　市川市眞間下七一（電市川一二二番）

氏は檢定試驗に合格したる研學の醫師にして、數年前市川に開業信望厚く繁榮して、最近新藥擴張す、內科小兒科を專門として居る、頭腦明晰なる努力家にて、現に市川市醫師會理事たり、患者に對し親切にして、而も見識ありと聞く。

後藤一郎氏

本籍地　東京市深川區佐賀町一丁目
現住所　市川市平田二〇七（電話市川六八番）

氏は明治十二年の出生にして、最初米穀商に從事せしも明治二十九年より北支那貿易に携はる、元東京瓦斯社長、岩崎清七氏に師事して、實業界に活躍し業績擧る、昭和四年には歐米見學視察の途に上り、歸朝後、昭和六年に至りて、資本金十五萬圓を有する株式會社、後藤一郎商店を開設今日に至る、努力家にて、滿蒙貿易に於ける重要なる地位を占む、他人の世話をするを唯一の樂しみとする潔白淸廉の士である、家庭には夫人久仁子（東京府第一高等女學校出身）さんありて內助の功あり、養嗣子惠治氏は東京帝國大學を大正十四年に卒業せし秀才にして、現在は川崎第百銀行本店の重役である、宗派は禪宗。

宮寺卓爾氏

本籍地　神奈川縣平塚町
現住所　市川市高石神八三（電話北八幡二七五番）

氏は明治十七年の出生、將來國手たらん事を志ざして獨逸協會中學校卒業後、千葉醫學專門學校に學び、大正三年に卒業、同大學院にて三年間に亘る實地研究を積みたる後神奈川縣平塚町杏雲堂病院に勤務、昭和八年二月千葉醫科大學に論文を提出して、博士の榮冠を獲得同時に現地に開業して今日に至る、其間大正五年より、昭和八年迄局所痲醉の中樞神經系に對する藥理作用の研究に沒頭して、眞理を發見し論文の資料とす斯界の權威者にして、德望家を以て稱へらる、謠曲、は趣味として實に堂に入つたものがある、倭子夫人（日本女學校出身）ありて內助に盡され、男二女一あり、長男は明治大學中學部に在學中である、宗派日蓮宗。

小泉正之助氏

本籍地　市川市菅野三二七
現住所　同

氏は明治三十七年に生れ、八幡小學校卒業後、消防手として火防の第一線に犧牲的活躍をなし後、日本パイプ工場に職工として就職、爾來、今日に至る迄、十七年間の長日月一意專心精勤しつゝある努力家にて、同僚間の信望厚く推されて日本勞働總同盟組合員となり、町會議員に當選した、氏は剛健なる無產黨のピカ一にして、民衆の爲めに働らく事は實に唯一の趣味である、因に氏が町會議員、當時町會に拋げし一石々々は眞に民衆の味方としての熱ある誠意の結晶であつた事は人の知る處で、正義を守る雄辯家で今後の動向が期待される。

大和久吉郎氏

本籍地　市川市二丁目
現住所　同　（電市川一六四番）

氏は明治三十年の出生、以前は東京兜町に於て、株式仲人及現物店を經營せしが、後、現住所に移り現在は日本食品株式會社常務取締役、京成押上驛構內、タクシーの重役たり、氏は熱心なる日蓮信者にして小事に拘泥しない磊落な政治的手腕家である、總て形式を尊ばず、自治參劃者としての新人であり、政治的には敵もあるが、味方も又充分に在る、才氣縱橫に溢るゝ才子である、人ぞ識る氏の雄辯は大いに期待すべきものあり、人を感動せしむる舌力を持つ市制實施に關しては、市役所の位置に關し、鴻之臺里見公園の發展に就き、或は江戸川の利用等抱負は豐かである因に市會に出馬し最高點を以つて當選す、更に選ばれて市參事會員の榮職にあり以て見るも氏が如何に市民の信望を持つかが察せられる。

田中昌龜氏

現住所　市川市菅野二九六

氏は高知縣の出身にして、明治十年の出生、實業家を志して、上京現に東京本所青木染工場の支配人として、實に

今日の盛業を成さしめたるは全く、氏の努力によるものである、今や正に東都に於ける一流の染工場としてその名を知らるゝと同時に、田中氏あることを知らぬ者はない、自立獨行よく今日の地位を成したる氏は、剛毅にして、眞摯默々として事を成就する才德兼備の士である、家庭は男五女三を惠まれ、長男義正君は、東大經濟科出の秀才、父君を援けて同社にあり、次男次郎君は、本年東大法科を卒業す。

海鹽錦衛氏

本籍地　廣島縣福山市
現住所　市川市菅野一五三

氏は福山市の出身廣島縣士族にして、慶應元年の出生である、福山中學の第一回卒業生にして、東京高等師範を明治二十年に卒業、爾來鄉里福山中學の教諭を振出しに、香川師範、宇都宮師範を經て、千葉縣佐原の中學を創立し、その校長として赴任する、當時に於ける氏の努力研鑽は今尙人の知る所である、後千葉中學の校長に轉じ、更に朝鮮海洲高等普通學校の校長として榮轉、從五位、高等官三等の榮位を極めて、環曆を期し退職す、されど氏の人格を仰いで日大より招聘、現に教授たり、今日迄教育界にある事實に四十七年間、稀に見る斯界の權威者である、殊に佐原中學の校長當時、帝國學士會の囑託により「伊能忠敬」を編纂せし功績は吾が歷史上の一大產物たり、家庭には男一女一あり、長男義男君は、駒場農大を卒業し、現に農林省技師たり。

清水貞子氏

現住所　市川市八幡一一九三

氏は石川縣の出身、外次郎氏の長女として、明治三十六年の出生にして、東京府立第三高女を卒業後、女子醫學專門學校に學び、大正十五年卒業、爾來東京富士見町河本眼科醫院にて眼科を研究して、今日に及ぶ、在學中は秀才を以て謳はれた才媛で、溫淑而もバターの香も抹香の香も共にある明朗獨身の麗人である、音樂に對する造詣又深い。

茂木忠次氏

本籍地　市川市八幡一九八〇
現住所　同

氏は明治十二年の出生、米澤市の出身にして米澤中學卒業後、東京藏前高工に學び、明治三十六年卒業、直ちに芝浦製作所に技手として入り後、鈴木鐵工所技師に轉じ且又大日本製氷會社設計課長として、才腕を振ふ、同社の解散となるやサクション瓦斯機械製作所顧問として現今に至るその職務自ら派手にあるざるも、斯界に於ける權威者であつて到る處、その人物を惜しまれてゐる、園藝に趣味を有し廣壯なる庭園いぢりは、氏のホリデイーのタスクである家庭教育は賢母によりて行屆いたもので、男三あり長男英一君は慶大醫科を卒業、次男正男君は東京齒科醫專在學中

矢澤鶴雄氏

現住所　市川市五丁目

氏は東京齒科醫專を拔群の成績を以て卒業、二、三年の實地研究後、大正十二年現地に齒科醫院を開業、正に十餘年市川齒科界でも古參の方である、現に市川小學校校醫たるのみならず、千葉縣齒科醫師會學務委員たり、忙中の傍らよく公共事業に盡す德望家である、氏は社會を眞面目に直視し、一歩々々健實な中道を歩む、着實の人である青年齒科醫師、或は開業後、新しき同業者等に對しては、誘導の精神を以て共存の實を圖る爲めに形式的な容を排すると共に眞に着實な生道に向つて進んでゐる。

岩城幸二氏

本籍地　市川市市川九四五
現住所　同　（電市川四五七番）

氏は東京市の出身にして、明治二十八年の出生、獨立獨行、裸一貫から今日の地位と富をかち得た立志傳中の人である、小學校を卒業するや、某店の店員として修業後、株式實買業を志し、今日迄、十八年間斯界に活躍す、現に東京荒城商店に關係し、業界にその人ありと今や人氣を背負つて立つ重鎭である、大正十四年市川に居を構へ、町の信望も厚い、恬淡磊落而も剛毅よく人を容るゝの器量に富む家庭は男一、女一長男守君は、京橋中央商業在學中、長女洋子さんは幼稚園通學中。

中島初五郎氏

現住所　市川市市川九六三（電市川一五一番）

氏は東京市の名門の出にして、明治十二年の出生、資性自ら聰明にして、怜悧且つ仁俠の人として知らる日露役にも從軍して勳功を立てし歴史を有す大正九年現市川に居を設け閑居す自然を友とせる靜養の生活を送り殊に菊には堪能にして、本昭和九年度も品評會にて天位銀盃を得た程である、一面多くの貸家を有し且又知友の關係より、明治火災の代理店たり、家庭は惠まれ、長嗣子は山梨高工に在學中の秀才ときく、次男又千葉中學に在學中。

松丸房吉氏

本籍地　市川市高石神一七
現住所　同　（電北八幡七四番）

氏は中山土着派の新人にして明治十五年の出生、明治三十五年より現材木商を營む、一面民政黨の重鎭にして、中山町會議員として自治向上の爲め活躍せし事あり、意氣の人であり、情熱家であつて、正義を愛する直條の人町の信望自ら深く、中山屈指の人望家である、家庭は大いに惠まれ男五、女一あり、嗣子眞一郎氏は、又公共事業に心厚く消防部長として或は又、青年團理事として青年の指導に盡瘁する所多し、因に釣を以て唯一の趣味とし、都市計畫に對する抱負は遠大である。

山田英氏

本籍地　東京市日本橋區横山町三
現住所　市川市市川一〇三五

氏は東京市の大實業家、貿易商山田太吉氏の長男として明治三十五年の出生、東京附屬中學卒業後上智大學にて獨逸文學を研究し、稀に見る篤學を以て稱へらる卒業後、イリス商會に入り重要の地位にあり目下は數年前に市川に高壯なる居を構へて、捲土の活躍の爲め某方面に研究中、嗣

氣磊落果斷の人にして輕快な明朗さを思はせる、文學趣味豐富な好感の持主である、東京桐蔭會會員にして、一流名士との間に親交深し、家庭には淺草實科高女卒の麗人壽々子さんとの間に男子一人あり。

石井國藏氏

本籍地　市川市菅野四〇〇
現住所　同

氏は明治二十五年の出生、縣下高砂の出身若年鄉里にありて農業に從事せしが、大正七年京成電軌會社に入り不撓不屈社務に熱心にして、その器量と眞面目を認められ今日中山、八幡驛長たり、實に今日迄十六年間一日の如く、精勤智德、共に具はる溫厚篤實の士である、信念家であると共に公衆關與者として公德心篤く好適の配所として民衆からも好評を博してゐる、宗派眞言宗。

西久保良行氏

本籍地　市川市菅野一五五
現住所　同　（電北八幡六五番）

氏は明治二十八年東京市牛込余丁町岸三郎氏の三男として生る、後、現西久保家に養嗣子として入家、天下の聲望家、元、東京市長西久保弘道氏に認められただけに、才德兼備の名判官である氏は早稻田中學卒業後、一高に入り卒業、東京帝大法科に學び、大正十二年拔群の成績にて卒業初め横濱裁判所に司法官試補として入り、その才は忽ち上司の認むる處となり、トン〳〵拍子の昇進現に東京地方裁判所の判事として高等官四等である、剛毅果斷なる反面至つて人情厚く、常に名判決を以て稱へらる、釣と柔道に趣味を持ち柔道五段の猛者である貞節の譽高き夫人は東京第五高女出の才媛である。

田村郡造氏

本籍地　千葉市寒川八三四
現住所　市川市市川國民共濟無盡會社

氏は治明十二年三月十六日を以て生れ、明治三十七年官界に入つて、樺太廳土木部に勤務大正二年轉じて、千葉縣廳に入りて勤務すること、多年越えて、昭和七年之を辭し

同年庶民金融界を志して、國民共濟無盡に關與し同九年擧げられて、同社市川支配人の職に任じ、今日に至る、氏常に自業に一家見を有し語つて曰く、即ち無盡の根本精神は庶民の貯蓄と金融にあり、之がより良き運用の如何は現時の行詰りつゝある農村の金融界に一大炬火を點ずるものにして、即直に云へば現時農村の救濟は無盡にありといふことが出來る、依つて之が普及の如何は延いて、農村金融の圓滑を促し發達は、さしづめ農家經濟に活潑なる原動力を與へ直ちに國富に反影する故に、本事業は大きく云へば、國家事業中の尤なるものであると云つても過言でない、此の點からして余は農家諸賢の理解を得て、提携之努め進出方法に一段の工夫を考へ組織の上にも幾多の改良を加へて益々效果的たらしめ、尙配當金の分配奬勵金の交附等を呈して銀行同樣の金融機關として利用さるゝ樣ありたい念願である、かくして將來は加入者にも、貸附をしたい布望を以つて精進して居る趣味は謠曲、撞球を良くし、宗派は眞宗。

小島昌治氏

本籍地　市川市二丁目三〇七五
現住所　市川市市川三〇七五（電話市川二五〇番）

氏は明治二十三年の生れにして、夙に現地に米穀商を營み土着派の新人なり、年齒僅かに十一歳にして家督を繼ぎ二十四歳より二十九歳迄米穀商に從事す、昭和四年現市川市八幡前郵便局の開設に當り、其の局長に就任す、資性磊落にして至つて謙讓の人にして多くを語るを欲せざるも接する者多く、感快の情を懷く令弟は明治大學を卒業後、銀行に奉職新進實業家として囑目さる、因に先代は郡會議員及市川郵便局長として公私事業に貢獻せしことあり、君又現時遞信事務に映掌す誠に奇緣といふべし。

中山利靜氏

本籍地　市川市市川眞間二八〇
現住所　市川市眞間二　（電話市川四三〇番）

氏は明治四十一年の五月十日生れにして、立正中學修業

群の故を以つて戸山學校に入學、射擊學生として入隊軍曹に任官す、同三十二年軍務を果して除隊再び農業に從事す時恰も日露の風雲急を告げ遂に兩國の國交の斷絶するや後備兵として原隊に入營勇躍第二軍に屬して大石橋渾河及黑溝臺等に轉戰、赫々たる偉勳を樹つ越へて三月奉天總攻擊に參加奮戰敵砲彈の見舞ふ處となり、右大胎部に命中貫通重傷を受けて血涙を呑み、後退のやむなきに至る療すること半歲現時傷痍軍人として遇せらる君其の勳功により勳七等に叙し青色桐葉章を賜ふ爾來現地にあり餘生を樂しむ餘り尙第三旅團經理部助手として奉公一面町自治に貢獻すること多年、其間區長國勢委員在鄕軍人分會長等に擧げられ現時戸數割調査委員、國府臺農業總代及千葉傷痍軍人會幹事等の要職にあり、氏は齡六十二歲今尙釣鯉として明朗其の者の如く多分の先覺意識を藏し魚釣には多大の趣味有し正義的信條に厚く、國家奉仕に燃ゆ實に君の如き有德圓滿なる信念の持主といふべし、今其の家庭に在鄕軍人たる三男、勝男君夫妻及四男、廣吉君あり、父業を補く、更に五男、義規君は市川實業學校に六男、耕造君は東洋商業に在學次女しづ三女もとさん共に家事に從事し一家擧げて團欒の內にあり君今回市制實施に就て述て曰く、市の發展に資する爲め自己所有地を市遊園地として提供專ら市民の娛樂機關を設置し、犧牲的提供を用意し當局者の市制完備を希望しつゝありと、宗派は新義眞言宗、

北川善太郎氏

本籍地　市川市八幡一九六八
現住所　同

氏は明治二十三年に生れ、夙に農業に從事する傍ら公共に盡瘁す、二十八歲にして區評議員に選ばれ區長一期町會議員二期土木委員等の要職に擧げられ、町自治に參與し產業組合の創立に關與す、氏性頗る恬淡一面園藝に趣味を有す、家庭には女子四人あり三人は女學校を卒業一人は女學校在學中である、市制實施に就て氏は土地發展の爲めに先づ道路下水の改修を叫んで、市會議員に立候補大衆の輿望を擔つて當選、更に市參事會員に推さる蓋し氏の手腕は今後に期待すべきものあり、氏の兼ての持論たる農家組合を結成し東京市の糞尿引受論の如き誠に時宜に適せる當意の經濟論として括目に價するものがある。

肥田金一郎氏

本籍地　市川市菅野一一四
現住所　同　（電話北八幡一六七番）

氏は明治七年實業界の有力者三菱の重役、肥田昭作氏の長男として生れ、明治二十五年學習院中學科卒業、福島安達郡に高玉銀山を經營して、金銀の採掘に從事明治四十五年福島高川村より、縣產馬匹組合議員として勤續すること二期大正四年、福島縣立川村長として大正九年迄自治に參與し、此間大正六年同縣安達郡畜產組合長郡會議員を勤め大正九年其の議長の要職に就任其他大正七年度には產馬功勞者として馬政局より銀盃受領、福島競馬クラブ幹事理事會頭を勤め、高川村長を辭し帝國競馬協會常務理事に就任東京競馬クラブ常務理事京都競馬クラブ理事を兼任し、其の功に依り、同十四年紺受褒章を受與さる、同十五年當中山競馬クラブ常務理事を經て、昭和五年一月理事長に擧げらる、其の間多年日本馬匹畜產界に貢獻する處多し、家庭には長男太郎君あり、東京帝國大學卒業後、上海自然科學研究所に勤め次男正次郎君又東北帝國大學にあり、法科在學中なり。

松丸藤松氏

本籍地　市川市國分貝塚
現住所　同

氏は明治十四年に生れ、家業たる果樹園を經營今日に至る間、村治に携はり消防小頭より部長、土地賃貸價格調査委員、耕地整理組合會委員、區長代理等を勤めて三十五歲の當時區長となり、引續き今日に至る其他土木委員、家屋稅調査委員、村會議員、及市制代表委員等に、擧げらる、氏は實に衷心より公共的事業に身命を捧ぐる決意を有する溫厚篤實の士にして、園藝方面に趣味を有し家庭に、男一女五あり、長男は十八歲で父君を助けて農業に從事し模範青年の譽高し。

後、立正大學に學び、昭和七年之を卒業す、尙之より先昭和五年、日勇上人の後を承けて現安國院住職となり、法燈を守る、氏は純情の士にして頗る學究的の宗教家として知られ、又藝術的天分に富む、君常に宗祖、日蓮上人の行蹟を規範として體得し、極力實行せんとの信條に燃ゆ、氏は宗教に關して曰く、現在は因襲的な宗教生活に入つて居るが宗教生活の根本精神は業に於ては讃佛奉謝の生活、學に於ては向上心の一途にある云々、家庭には夫人榮子さん（富山高女卒）あり貞婦として知られ內助の功を積む。

小川富士男氏

本籍地　東京市豐島區巢鴨町三ノ一六
現住所　市川眞間寒室二七二（電話市川四〇〇番）

氏は明治三十五年二月の生れ、鄕里福岡縣嘉穗中學を卒業後、早稻田大學に入り商科に學び、大正十四年卒業す、翌年現地に居を卜し、葛飾瓦斯株式會社に勤務新進實業家として知らる、氏極めて溫厚篤實謙讓の手腕家にして同社の不況時代より孜々營々專ら今日の大をなす、趣味に野球を解し、大の早稻田ファンとして知らる、君學生時代には選手として活躍せしことあり、氏は一面頗る學究的才能を有し淘宮術の研究に從事帝國學士會館にて研究され（會長高木仙藏）處世の指針とす、家庭には淑子夫人（御茶の水高等女學校出身）との間に三人の愛子あり長男は東京文理科師範附屬小學校に通學中である、氏のモットーは民衆生活の向上を目標とし經濟學に造詣深く產業統制の弊は向上進展の長所を無くするものなり云々と。

磯野政太郎氏

本籍地　兵庫縣赤穗町高雄村
現住所　市川市八幡五〇一

氏は明治二十三年に生れ、適齡に及んで軍務に服し再役して二十五歲にて、除隊後警察界に入り、兵庫縣相生稻警察縣刑事課等に勤務兵庫縣警部に任ぜられ、官界にあること拾貳年感ずるところあり辭して日本毛織會社庶務課に招ぜらる後、同社が共立モスリン會社に繼承後尙引續き同社にあり以て現時に至る、君資性公平にして圓滿なる德望を藏し、謙遜多くを語らずと雖も天稟自ら他を壓する風貌あり、趣味たる圍碁に通じ又投網は氏の最も得意とするところなり、宗教は眞宗大谷派。

石川隆三氏

本籍地　市川市新田一一
現住所　同　（電話市川三四一、六三五番）

氏は明治二十六年に生れ、長じて金物商を志ざして大阪にあり銅板販賣業に從事後、京都下京區に石川工業所を創設、大正十三年當市川町工場を創して移轉し、爾來商運隆盛遂に今日の發展を見る、昭和九年七月組織を變更して、資金十一萬圓の合資會社となし今日に及ぶ、氏は頗る溫厚篤實而も縱橫の才にたけ商才に富み、事業に精進するを以つて自己の趣味とす、家庭には女兒一人あり、小學校通學中である、宗派は眞宗大谷派。

酒井寶祐氏

本籍地　市川市眞間二六五
現住所　同　（電話市川五七八番）

氏は明治十一年に生れ、修業後立正大學校の前身たる日蓮宗大學を明治三十九年卒業、東京宗務院の主事議員を經て派遣布敎師として朝鮮京城に在りし後、大正五年當市川玄授院住職となり來住法燈を守る傍ら自治に關與して千葉縣方面委員設置當時より其職にあり、職業紹介所長として社會事業に携る、昭和四年町民の輿望を入れて町會議員たること二期、その他免囚保護事業南部歸性會主事、東葛小作調停委員眞間區會議員等の要職に擧げられ以て今日に至り、才德兼備の高僧である。

太田幸助氏

本籍地　市川市國府臺五五
現住所　同

當家は、當地に於ける舊家として知らる、氏は其の五代勝右衞門の長男として、明治八年三月を以つて生れ、幼にして父業を補け農事に精勵す、同二十八年偶々徵兵に應じ佐倉步兵第二聯隊に入營日淸の役に參加專ら威海衞の攻略に從事し、武勳を樹つ戰火治まるも尙續いて兵籍にあり拔

群の故を以つて戸山學校に入學、射擊學生として入隊軍曹に任官す、同三十二年軍務を果して除隊再び農業に從事す時恰も日露の風雲急を告げ遂に兩國の國交の斷絶するや後備兵として原隊に入營勇躍第二軍に屬して大石橋渾河及黑溝臺等に轉戰、赫々たる偉勳を樹つ越へて三月奉天總攻擊に參加奮戰敵砲彈の見舞ふ處となり、右大胎部に命中貫通重傷を受けて血涙を呑み、後退のやむなきに至る療すること半歲現時傷痍軍人として遇せらる君其の勳功により勳七等に叙し青色桐葉章を賜ふ爾來現地にあり餘生を樂しむ餘り尙第三旅團經理部助手として奉公一面町自治に貢獻すること多年、其間區長國勢委員在鄕軍人分會長等に擧げられ現時戸數割調査委員、國府臺農業總代及千葉傷痍軍人會幹事等の要職にあり、氏は齡六十二歲今尙矍鑠として明朗其の者の如く多分の先覺意識を藏し魚釣には多大の趣味有し正義的信條に厚く、國家奉仕に燃ゆ實に君の如き有德圓滿なる信念の持主といふべし、今其の家庭に在鄕軍人たる三男、勝男君夫妻及四男、廣吉君あり、父業を補く、更に五男、義規君は市川實業學校に六男、耕造君は東洋商業に在學次女しづ三女もとさん共に家事に從事し一家擧げて團欒の內にあり君今回市制實施に就て述て曰く、市の發展に資する爲め自己所有地を市遊園地として提供專ら市民の娛樂機關を設置し、犧牲的提供を用意し當局者の市制完備を希望しつゝありと、宗派は新義眞言宗、

北川善太郎氏

本籍地　市川市八幡一九六八
現住所　同

氏は明治二十三年に生れ、夙に農業に從事する傍ら公共に盡瘁す、二十八歲にして區評議員に選ばれ區長一期町會議員二期土木委員等の要職に擧げられ、町自治に參與し產業組合の創立に關與す、氏性頗る恬淡一面圖藝に趣味を有す、家庭には女子四人あり三人は女學校を卒業一人は女學校在學中である、市制實施に就て氏は土地發展の爲めに先づ道路下水の改修を叫んで、市會議員に立候補大衆の輿望を擔つて當選、更に市參事會員に推さる蓋し氏の手腕は今後に期待すべきものあり、氏の衆ての持論たる農家組合を結成し東京市の糞尿引受論の如き誠に時宜に適せる當意の經濟論として括目に價するものがある。

肥田金一郎氏

本籍地　市川市菅野一一四
現住所　同　（電話北八幡一六七番）

氏は明治七年實業界の有力者三菱の重役、肥田昭作氏の長男として生れ、明治二十五年學習院中學科卒業、福島安達郡に高玉銀山を經營して、金銀の採掘に從事明治四十五年福島高川村より、縣產馬匹組合議員として勤續すること二期大正四年、福島縣立川村長として大正九年迄自治に參與し、此間大正六年同縣安達郡畜產組合長郡會議員を勤め大正九年其の議長の要職に就任其他大正七年度には產馬功勞者として馬政局より銀盃受領、福島競馬クラブ幹事理事會頭を勤め、高川村長を辭し帝國競馬協會常務理事に就任東京競馬クラブ常務理事京都競馬クラブ理事を兼任し、其の功に依り、同十四年紺受褒章を受與さる、同十五年當中山競馬クラブ常務理事を經て、昭和五年一月理事長に擧げらる、其の間多年日本馬匹畜產界に貢獻する處多し、家庭には長男太郎君あり、東京帝國大學卒業後、上海自然科學研究所に勤め次男正次郎君又東北帝國大學にあり、法科在學中なり。

松丸藤松氏

本籍地　市川市國分貝塚
現住所　同

氏は明治十四年に生れ、家業たる果樹園を經營今日に至る間、村治に携はり消防小頭より部長、土地賃貸價格調査委員、耕地整理組合會委員、區長代理等を勤めて三十五歲の當時區長となり、引續き今日に至る其他土木委員、家屋稅調査委員、村會議員、及市制代表委員等に、擧げらる、氏は實に衷心より公共的事業に身命を捧ぐる決意を有する溫厚篤實の士にして、圖藝方面に趣味を有し家庭に、男一女五あり、長男は十八歲で父君を助けて農業に從事し模範青年の譽高し。

福地春吉氏

本籍地　市川市新田一三五
現住所　市川市宮田一二七二

氏は明治三十四年の出生にして、錦城中學卒業後中央大學經濟科に入學大正十二年卒業後は、横濱生命保險會社に就職後拔擢されて會社より、東京帝大に保險學の研究をなし二ヶ年後歸社昭和五年迄、同社に在職されしも後辭し昭和七年三月町會議員に當選せし前途有爲の青年なり、君常に叮嚀慇懃溫厚を以て人に對し庭球、野球、圍碁に趣味を持て居らる、家庭には賢夫人ヨシ子さん（行德出身）が在り、長女孝代さん長男一郎君次男併次君の教育に心を碎かる令兄、新作氏は現在市川市會議員、同消防組頭等の要職にあり、市政實施に就ては强力なる自治團體の完成を必要とし、財政の合理化を行ひ、理事者の技術にまち市の負擔輕減を要望し住宅地として、發展の餘地は頗る大にして、道路の區劃整理都市の人口吸收を成し、土木工事は低利資金に依り、財源のバランスを取り起債に依つて生產的に實施

されん事を望むといふ、氏の宗教は日蓮宗。

吉田眞氏

本籍地　長野縣北安曇郡池田町
現住所　市川市新田二五六（電市川一三一番）

氏は明治二十五年長野縣北安曇郡に生れ、夙に醫を志して第六高校を卒業後、東京帝國大學醫學部に入り、大正九年卒業其後附屬病院に副手勤務、泉橋慈善病院駒込傳染病院、東京帝大藥理學教室等に勤務六ヶ年の研鑽を積んで、大正十五年に論文を東大に提出、昭和二年博士を授與さる其の間、大正十五年來現地に開業一般の診療に從事す君が手腕の凡ならざるは既に町民の認むる處となり今日の隆運を招く、現時同市醫師會幹事を兼ね同業者界の信望又厚く、醫は仁術なりの精神に生く、夫人は跡見女學校出身の賢婦人で、其間に四男二女あり。

北川民藏氏

本籍地　市川市八幡一九五四
現住所　同　（電八幡二六五番）

氏は北川善藏氏の次男明治十一年三月二十八日を以つて東京に生れ、父祖の業を輔け傍ら煙草雜貨販賣業を營む氏夙に兵籍に入り、世田ケ谷近衛輜重兵大隊に入隊特務兵として勤務す、ついで、明治三十四年町會議員として町自治に盡瘁すること八ケ年、其の他消防の組頭として防火事業に携はること四年に及び貢獻する處多し、氏資性恬淡頗る子孫に惠まる長男、和泉君、すぎ子、四女たつ子、五女てつ子さんあり、宗教曹洞宗。

筥崎博道氏

本籍地　市川市八幡五二二番
現住所　同　（電話北八幡四番）

氏は慶應三年維新を前に世上物情騷然たる中に本市内八幡に生れ、長じて皇典講究所（國學院大學前身）に入り之を卒業直ちに相模の一ノ宮國幣中社寒川神社の宮司を奉仕し轉じて東葛八幡神社の宮司として轉務、正六位に叙せられ、尙昭和九年七月奏任官を以つて待遇せらる、氏は神に仕ふる淸淨高潔の士にして謠曲に通ず、家庭に一男一女あり、長男は二十三歲、現時國學院大學本科在學中、長女は淑德高女を卒業の才媛なり。

鈴木秋太郎氏

本籍地　市川市市川一六二
現住所　同　（電市川一一七番）

氏は明治十六年八月を以て本市に生る、現時は材木商を經營され昭和八年三月町會議員として町自治に貢獻する處あり、土木委員に擧げられる、この外、昭和五年信用組合の創立と共に監事の要職にありて創立以來盡瘁する處あり性極めて溫厚篤實寡言默行の士として知らる、令弟鈴木謙吉氏は英國ハーバート大學英文科を出て高等師範名古屋高等商業學校に教鞭を執る長男銓一君は千葉商業學校卒業後家事を手傳ひ、次男總司君は目下東京府立、第七中學校に在學、長女喜代子さんは第七高等女學校出身の才媛なり、市實制施に就いては都市計劃を立てゝ土木事業を興して八幡以北に人口の均霑を策すべきであると主張しつつあり誠に同感といふべし、宗教は淨土宗。

石井靜氏

本籍地　市川市市川三一三三番
現住所　同　（電市川二一六番）

氏は明治十一年三月熊本の產熊本涉々營に中學の課程を卒へ軍務に服す其間日露戰役に參加滿洲の野に轉戰大に武勳を立つ、明治四十二年軍を辭して、實業界に入り、東京火災保險に入社統計課長として、大正十年迄在職後感ずる處あり、現地に居を構えて材木商を經營し今日に及ぶ、根が軍人だけに至つて恬淡磊落にして書道に趣味を有し、書風に一家を創す、君常に座右に銘する處世は禪の延長で有りとの信念を持つ、家庭に七歳の長男と十歳の長女と一歳の二女あり、至極圓滿なる日常を送る。

後藤五郎氏

本籍地　茨城縣猿島郡長須村
現住所　市川市高石神二

氏は明治三十三年の生れにて、水海道中學を卒業後、千葉醫學專門學校に學び大正十二年卒業後、同大學精神科に在り三ヶ年間の研究を積み、昭和四年現地に移り現中山腦病院を創設院長に就任す、爾來精神病科は氏が專門の獨壇上にして新進國手としての定評あり、同業者間に於ける氏の信望隆々たるものあり從つて、業績又好成績を示す、當市川市唯一の精神病院として知らる、宗派は日蓮宗。

田中光三郎氏

本籍地　市川市市川新田一八五
現住所　同

氏は明治八年市川に生れ、爾來農を以て家業とし今日に及ぶ、大正十五年區長に推薦され、勤續すること四ヶ年、昭和五年二月補缺町會議員として當選す、この外消防第二部長として消防事業に盡力し昭和七年再び町會議員に推さる氏は性頗る謙讓篤農の士として信望あり大衆の尊敬の的となる一面寡言實行の志厚く一度決心したる事は斷行せねば置ぬところに氏の面目が躍動して居る、昭和九年十一月市制實施に供ふ市議選に立候補大多數を以つて當選今日に至る、家庭に男三人女子二人あり、至極平和な生活を營んで居る。

山崎熊次郎氏

本籍地　市川市國分一七九七
現住所　市川市國分一七九九

氏は明治十二年千葉縣下法典村に生れ、明治三十九年迄實家に在り家業に從事せしも、當國分の舊家山崎兼吉氏の養子となり、其の姓を冒す、大正七年七月より日本パイプ株式會社に勤務今日に至る其間實に十五年の永きを十年一日の如く勤續し三代の社長に奉仕能く、他職工の模範となる、君の本社に貢献せる功績は實に偉大なるものあり、玆に於てか昭和五年三月工場主より滿十ヶ年勤續功勞者として表彰され同じく九年三月二十三日には滿十五年勤續者として表彰置時計一個を授與さる、昭和八年三月二十一日氏の人望は鄕黨の推すところとなり、村會議員の要職に就き現在にても日本パイプ會社に勤務の傍ら村治に盡す、資性溫厚實直にして、家業に精を出す事を唯一の趣味とし家庭には長男暢吉君は京成電車津田沼車庫に約十年間勤續の精勤家にして、妻しんさんがある、次男尤三君は家事を手傳ひ、三男は夭折し四男勝君は、東京本所の某大商店に實地見習中である、氏は市制に就て國分方面道路改修の急務國分在住者の稅金の輕減、農家の不況職工の負擔を救はれ度いとの希望を語つてゐる、因に山崎家は太兵衛數代を名乘りし當地に於ける草分の舊家にして、宗派は日蓮宗なり。

久根崎源左衞門氏

本籍地　市川市國分曾谷
現住所　同

氏は明治十一年に生れ、家業たる農業の傍ら商業を經營今日に至るその間村治に貢献したる功績は實に村民より尊敬さる區長代理、區長(三期)國勢調査委員、村會議員（三期）の要職にあつた、凡そ村治開拓の功勞者として、村政上の事に就き關せざるなし、氏は覇氣縱橫の才に富み、而も人格圓滿の士にして家庭には男一女一あり、長男は東京順天中學校卒業後商業に從事して居る。

吉野仁吉氏

本籍地　千葉縣夷隅郡烟村堀切七九
現住所　市川市四丁目四二四

氏は明治十九年四月二十日の出生、嘗て夷隅郡役場書記たりしが郡制廢止後、市川町役場に入り助役となりて、市制實施迄勤續せし精勤家である、圓滿高潔なる人格者にして信念の人である讀書殊に國文學に趣味を有す、市川町助役時代名助役の譽高くよく浮谷町長を援けて、市制促進の大業を果す、今回市制と共に市川市庶務課長の要職に就任、市助役候補の噂が高い。

桐谷一雄氏

本籍地　東京市四谷區愛住町八六
現住所　市川市市川二八六

氏は明治三十五年佛畫の大家桐谷洗鱗氏の長男に生る、大正十四年、松戸園藝學校卒業後國府臺騎砲兵隊に一年志願兵として入營光榮ある軍務に服したる後、昭和二年太田興業株式會社に就職、昭和三年二月同社より選ばれて南洋に派遣マニラ麻椰子の栽培監督に從事、昭和七年五月迄同社の爲め異境にありて貢献し歸朝、同年七月尊父洗鱗氏逝去に附き家督相續、昭和九年七月より千葉縣廳内都市計劃委員會に勤務今日に至る氏は至つて磊落謹嚴少壯の紳士にして正八位豫備陸軍砲兵少尉として在郷將校會の幹事である、乘馬及び尊父よりの趣味たる宗教的藝術品の蒐集は最も好むところにして、家庭には母堂瀧子さん、夫人綾子さん（小石川家事專門學校出身）の外長妹靜代さんは東洋家政女學校出身次妹君代さんは國府臺學院出身實弟大悟君は遠くジヤバにありて印刷業經營、又三妹、日出代さんは目下國府臺學院在學、氏は市制に就いて街路新設改修風致地區の決定區劃整理の忽務を說き市政當局者が黨派に拘泥せず眞心から市民の幸福の爲めに貢献されん事を望む云々、因に氏の尊父は本名を長之助と呼び、明治十年新潟に生れ明治三十年上京富岡永洗畫伯に師事し、師の歿後、橋本雅邦畫伯に就き學習明治四十年東京美術學校日本畫選科を卒業後、佛畫研究に專心明治四十四年より昭和七年に至る迄

印度、布哇、米本土、メキシコに畫遊を試みて東洋美術を紹介し、遠く蘭領東印度諸島に迄佛敎の古蹟を探りたる熱心家にして、昭和六年ポーランド國の招聘に應じ作品を携へて入國し國賓を以て遇せられシュヴリエオドロゼニヤポルスキー勳章を授けられ歸途獨逸佛蘭西、ベルギー伊太利に畫名を轟かし歸朝後昭和七年五十六歳にて死去されたる日本佛畫の泰斗であつた。

岡崎康中氏

本籍地　新潟縣高田市幸町
現住所　市川市中山四七三

氏は明治二十六年の出生にして、鄕里高田中學校卒業後早稻田大學に學ぶ、後昭和二年迄銀行員たりし、輕快篤實の士にして實に好感を思はせる快男子、野球、庭球に趣味を有し、家庭には惣子夫人（實踐女學校出身）が内助を盡され女子三人あり、長女は高田高等女學校在學次女三女は中山小學校在學中。

後藤仁助氏

本籍地　市川市市川新田二九六
現住所　同　（電話市川三四六番）

氏は明治二十六年市川に生る、土着派の舊家名門にして長じて松戸中學に學び後東京麻布中學校に轉校明治四十五年卒業、兩來農を本業とするも町内の信望厚く、大正十二年三十三歳にして町會議員に當選以來、三期を通じて現今に及ぶ此外土木委員、學務委員を二期及び隔離病舍組合會議員等、兼務五年前迄消防部長として、約十年間在職された功績を持つ更に一面家屋税、所得税調査委員、及在鄕軍人會理事等凡そ君の關せざるものなし、氏の性格は直條頭行果斷にして圓恭將棊に趣味を持つ、自治發展の爲め盡瘁するを樂しみとして、處世の上に華美を避けて健全の保持に勤め大いに社會に盡す決心との事だ、尙數年前より市川苺生産組合長として在職、組合の栽培にかゝる苺が東京市場に於て今や一流品として、デパートに進出するに至りしは氏の努力の賜なりと云ふべきである。

家庭には三男三女あり、長男は中學校在學、長女は女學校卒業他は小學校に勉學中である市制實施に就ては線路南側は大工場地帶内は住宅地として發展せしむる事人口吸收に依る市民の負擔輕減教育の資金の政府補助等抱負は遠大である、因に民政黨市川の旗頭として、名實共に力あり此度市議に選ばれ市參事會員の要位に就く。

近藤岩松氏

本籍地　千葉縣千葉郡二宮町
現住所　市川市四丁目四一七

氏は明治十八年の二宮町の出身にして、明治四十三年早稲田大學法科卒業一時社會に活躍せしも今は市川に閑居す傍ら、昭和八年三月町會議員に當選、土木委員、隔離病舍組合委員を兼務し町の爲め奔走す、氏は溫厚篤實の人格者にして讀書に趣味を持ち、芝居や映畫は見た事がなく、酒の味は全然知らない健實家で嗜好として茶を好まれ生涯子供の教育に盡すのが自己の務めの全部であると言つて居られる、長男睦彌君は明治中學三年に次男秀也君は小學校に在學中長女多喜枝さんは津田英學塾を本年二月卒業、次女總子さんは東京府立第一女學校を卒業現在は、明治大學法科に研學中氏の感想を伺えば市制完成の功を喜び住宅都市として理想的なものにしたいが、行德町を加ふれば工業は盛んになるだらう云々。

久保寺保久氏

本籍地　東京市本所區向島三丁目一五
現住所　市川市八幡一九八七

氏は明治廿四年の出生にして、錦城中學卒業後、第一高等學校を卒業して東京帝國大學にて法律を二年間研究、後志す處ありて、京都帝國大學哲學科に轉學し卒業す後、教化事業を志ざし大阪府立修德學院に院長として、教化に努め大正十四年に至りて現地に移り、兒童教化八幡學園を起し、自らその園長として育英に力め今日に至る、爾來八幡町會議員に當選、町政に貢献せしこともあり現に私設社會事業聯盟の理事を務め、其の他種々の團體に講演する等社會事業へ多大の貢献をなす、才德兼備の士にして社會の先

覺者として兒童教化そのものを趣味として居る。日本精神薄弱兒童愛護協會の幹事たる氏は、精神薄弱たる兒童を指導して、朝起きるより夜寢る迄盡瘁す同學園は東京市及千葉縣の指定社會事業團體であり文部省宮内省を始め、種々の官省より表彰を受く、宗派はキリスト教。

寺西幸作氏

本籍地　富山縣中新川郡柿澤村
現住所　市川市市川六六九

氏は明治三十年に生れ、長じて歩兵第六十九聯隊に入營歩兵伍長にて除隊後東京鐵道局技手を十三年間勤續後、東京市京橋區三丁目片倉ビル株式會社、大和三光商會に囑託となり今日に至る、覇氣磊落なる風格充分なる見識の人にして情實に拘泥せず、地位に阿附しない民衆のよきガイドナーであると共に識見の人である、語る所見によれば地形の關係上本市は東京郊外の延長としての都市計畫を完備し先づ、住宅地として發展せしむべく同時に將來經濟界の變動上水陸兩便の利用にある、工業發展の餘地は充分である村落を顧慮して物資集散の合法的消費都市たらしめ度い云云。氏は共存共榮の精神から會社も市民も立ち行く樣電燈瓦斯料金の値下運動に熱心である。

松丸益雄氏

本籍地　市川市北方二九二
現住所　同　（電話北八幡一六）

氏は明治三十七年に中山町の舊家謹五郎氏の二男として生れ、令兄友彌氏亡き後は十七歳にして家業たる、醬油醸造業を繼ぐ、東京錦城中學校を卒業、昭和七年より現在に到る迄青年團長として貢献し、又町會議員たりし事も市制直前である、現在も東葛飾聯合青年團理事たると共に中山少年團長の要職にある氏は溫健にして、率直スポーツに趣味を持ち、就中陸上競技のジャンプは氏の得意とする所である。家庭には男子一人女子三人がある、市制實施に就て氏は希望感想を語る、當中山町は生産都市としての見込充分なれば大いに工業を發展せしめ度く市會議員は其の人を得る事が肝腎で、實際仕事の出來る人で無ければならない、

自分の少年時代には皆純心にして元氣溌溂たるものであつたが現代の青年は一變して物質に拘泥して理性のみ働く、狀態である云々。

百田英二氏

本籍地　市川市市川四二八
現住所　同

氏は明治三年に生れ、壯年時代迄は東京にて土木建築業に携はり、斯界にその人ありと云はれた敏腕家であつたが震災後大正十四年現地に移轉閑居すと雖も公共心に燃え今日迄に區評議員、區長等の要職に就く、殊に區長は昭和五年より二期一意町の爲め奔走す六十五歳の高齢に似ず、元氣果斷の士にして菊作り等に悠々自適されて居る、關東大震災の際四兒を失はれた氏は、唯々町の爲め出來得る限り盡力し度いとの事で奉仕の生活を續けられてゐる、市制實施に關しては是非共住宅都市として發展せしめたい希望云々。氏の宗派は禪宗なり、

鈴木浦次郎氏

本籍地　市川市八幡一四二
現住所　同

氏は明治二十一年に生れ、長じて師團經理部に入隊、退役後、在郷軍人分會長として六ケ年間貢献さる傍ら、又青年訓練所創設時代より上級指導員として招聘され、盡瘁す其他區組長をも勤め市制直前の町會議員として立役者であつた、青年訓練所が縣下の模範であるとて表彰された歴史も、又氏の爲に負ふ所大である現在は貸家貸地業經營平靜にし至つて、着實な人材である、運動音樂に趣味を持つ、家庭には男四あり、長男は日本大學工學部在學中、次男三男は日本大學中學部に四男は小學校修業中、市制實施に就いて氏は語る、市は團體生活の發展上資力を增し事業を盛大ならしめ市民に幸福を齎らす事が必要で、市會議員に選ばれたる者は市民の幸福を基礎として、自治に携はる可く市役所を中心として行るゝ事を要す、第一規範に適つた政治を要求すべく法の精神は自治の精神を根本として、仁德

帝の仁政を忘れてはならぬ、上下一致して初めて市の幸福は生れるであらう云々。

牛尾守二氏

本籍地　市川市三丁目三〇二八
現住所　同

氏は明治十八年準之助氏の長男として出生、本市名門の舊家にして父業たる呉服商を營業として居る傍ら、町村に干與全く公共心に富み、一に民衆の爲め盡力區長及區の評議員、並びに區長代理等を勤め現在も商工會理事或は防護團に關係す寡言にして温厚篤實の實業家で、釣を趣味とし家庭には三女あり、長女は千葉縣立女學校卒業、二三女は國府臺女學校卒業の才媛である、市制實施に就ても抱負又多々、因に市制實施時の區長として內助の功ありと聞く。

小林義重氏

本籍地　市川市一丁目五番地
現住所　同　（電市川三六三番）

氏は明治二十四年の出生にして、明治四十四年より大正七年迄野砲第十六聯隊へ入隊、大正七年より青島守備隊陸軍經理部及第一師團經理部へ勤務、大正十一年に至り主計經理官の肩書を捨つて退職大正十一年より地發展の爲料理業に就き今日に及べるが、昭和四年を振出しに今日迄二回町會議員に當選し、其他區役員、三業組合長を勤むる篤信望深き仁で恬淡磊落にして、俳諧は氏の最も愛好するところ家業の傍ら之を樂しんで居られる、市制實施に就ては東京市と提携して觀光都市としての住宅都市たらしめたい、又土地開發に重きを置き、行事として公衆の慰安と土地の紹介を兼ねて花火制度を創設したのも氏である、因に市議戰始まるや立候補して見事當選、初代市川市會議員として榮冠を得、之を以て三期繼續の議員である。

伊藤新一郎氏

本籍地　市川市八幡五三六
現住所　同　（電話北八幡八番）

氏は明治二十年に生れ長じて、父業金物商を繼ぎしが若年より公共事業に盡す念厚く消防部長青年團支部長及大正

十三年より町會議員の要職に就き財政調停委員、區長等に擧げらる君は溫厚篤實なれば商運又繁盛し公共の爲め盡瘁するのが氏の唯一の趣味である、家庭には三男二女あり、長男は父君を補けて實業に携はり、次男、三男は現時中學在學中であり、長女は松戸女學校在學中である、市制實施の曉は住宅都市として發展せしむる事を希望すと、宗教は禪宗。

湯澤文晤氏

本籍地　栃木縣上都賀郡犬飼村字深津
現住所　市川市笹塚七四九（電話市川三三六番）

氏は明治二十九年に生れ、字都宮商業學校卒業後、上京早稻田電氣科に學び後東京大崎に在つた應用電氣株式會社に主任として勤續、昭和四年に至りて獨立共同にて現、東京鉛工株式會社を經營、重役として今日に至る。此外尙目下事業擴張計劃中にして前途を囑望された手腕家である、圍碁、釣、撞球に趣味を持つ、資性小事に拘泥せず淸實にして至つて恬淡社交的な器を具ふ、家庭には福島女學校出身の夫人布久子さんが內助に盡され、賢母の譽高し長女卓子さんは日乃出幼稚園に通つて居る、外夫人の實弟四郎君が氏の事業を補つて努力して居る、市制實施に就て氏は道路改修、電燈瓦斯料金の輕減の急を說き市當局が黨派に拘泥せず市民に親切な爲政を望むと、宗派は天台宗。

島根太堂氏

本籍地　埼玉縣南埼玉郡出羽村
現住所　市川市野四二九

氏は明治三十一年の生れにして、長じて東京豐山中學校卒業後、豐山大學に學び大正十二年首席を以て卒業、埼玉縣迎攝院住職たり、昭和四年七月現不動尊住職として赴任今日に至る、氏は溫健篤行の高僧にして圍碁及び旅行に趣味を持つ家庭には男二女五あり、信仰に附いて氏は當地は比較的信仰の薄い土地にして、今日の靑年に信念が乏しい是非共信仰心を植え付け度いと思ふが、信仰は自分が宗教を作るのでなく道化して佛になる事だ其場合に依り他力も自力も必要だが逆境に在る時も順境の時も宗教に賴れば社

會は安泰である人間は弱きもの故、一つの對象物が必要で同時に自己を自力の中に置き如何なる場合に於ても暗夜に燈の如く又物に動じない信念は宗教より外に得られない心境と語る、その見識は不盡の豐富さを持つ。

武田吉次氏

本籍地　新潟市中蒲原郡大江山村
現住所　市川市中山四九二

氏は明治三十五年に生れ、長じて適齡に達するや鄕里より召集されて、千葉鐵道聯隊で軍務に服し歸隊後日本パイプ工場に入社、爾來十年間一日の如く精勤し、現在社會大衆黨千葉縣支部執行委員であり、大衆黨全國委員に推されて居る資性剛毅果斷にして同僚の信望も厚い、植木いちりは氏の最も樂しむところ家庭には夫人との間に長女一人あり、氏は今回市制に當り無產黨より選ばれて市會議員の要職に就く總ては黨委員會の決定に基づき市政淨化の爲め活動し市政を監視して民衆の爲め幸福增進を計るべく、邁進すべき强き信念と勇氣を持つ實行家である。

福地新作氏

本籍地　市川市新田一一三〇
現住所　同　（電話市川二〇〇番）

氏は明治二十六年直次郎氏の長男に生る、後現地に移轉若年より消防事業に携はり、昭和五年より消防組頭に就任後、現在に至る其間町會議員、傳染病隔離病舍組合委員土木委員を兼務して地方自治體の改善發達を圖る市制實施には大いなる貢獻をなし公民より選ばれて市制代表委員として奔走市制實施と同時に高點を以つて初代市會議員に當選した敏腕家である、圍碁、將棋、銃獵に趣味を持ち謹嚴にして信念深き氏は決して利害に左右されず正義の前には何人をも恐れずに行くの信條である、家庭にはたか子夫人がある、市制實施に就て消防組の改善住宅都市として、都人士を吸集する設備の完備を希望して居る、因に氏は且つて市町村制度の危機を救ひし尊とい歷史の所有者である、宗派は日蓮宗。

福田傳左衛門氏

本籍地　市川市鬼越九八
現住所　同　（電話北八幡二五〇番）

氏は明治十一年の生れにて、最初米穀商を經營せしも、轉じて花柳界に入り、藝妓置屋として紅燈を掲げて今日に至る、その間村治に盡瘁すること多年、町政施行後も尙町會議員として四期繼續當選の人望家なり、現時は中山藝妓屋組合長、方面委員及、隔離病舍委員等に擧げられ、性恬淡にして磊落溫情を主として親切に世話をなし、圍碁に趣味を持つ、家庭には男一人女二人あり、長男は實業界にあり、市制實施に就て一時は市民の負擔が增すであらうがやがて輕減され商業都市として發展するであらうと語る、宗教日蓮宗。

小泉正雄氏

本籍地　長野小縣郡泉田村
現住所　市川市八幡一六六七

氏は明治三十五年に生れ、苦學して大正十三年專檢に合格後、昭和四年齒科檢定に合格して、直ちに現地に金子齒科醫院を開業今日に至る、氏は實に獨立獨行百折不撓の立志傳中の人といふべく誠に後人の龜鑑とするに足る、家庭には夫人初子さんあり女子齒科醫專の卒業にして夫妻共に斯業に精勵す、君との間に男二人、女四人の子女あり、宗教は「人の道」教を信じ信念徹す。

森山隆次氏

本籍地　長崎縣彼杵郡彼杵村
現住所　市川市市川三三五（電市川五一二番）

氏は尊父良平氏の次男として明治二十二年を以て生れ、夙に長崎中學校を經て更に、長崎高等商業學校を卒業鄕黨にあり綿布及煙草元賣業に從事すること八年、大正九年上京藤山雷太氏の息震氏が社長たる日本食料工業會社に關係す、同氏の才能は、夙に藤山雷太氏の認むる所となり、大成化學工業株式會社取締役に拔擢就任今日に至る、氏は溫情にして有德の士、事業に熱心なれば當社に於いて未だ紛爭の如き事態全く絕無にして、勞資共存共榮義務を果して

後植利を主張するの合理的信條を以つて相和す、家庭には靜岡縣立高女出身の房子夫人あり、良く內助に盡され長男東一郎君は眞間小學校三年に通學、長女光子又兩親の膝下に愛撫さる、因に流山町在帝國酒類釀造會社長森英示氏の從兄である、市制に就ては道路改修水道の完備電燈瓦斯料金の輕減を切望すと、宗教日蓮宗。

平山孝一氏

本籍地　千葉縣香取郡多古町
現住所　市川市八幡一三一七

氏は明治三十七年に生れ、成田中學を經て東京日本齒科醫學專門學校に學び昭和二年之を卒業更に帝國大學齒科教室に一年の實地研鑽を積み昭和三年市川平田に開業、昭和九年九月現地に移轉し今日に至る、氏は元來資性素直にして修飾なく、竹を割りたるが如き性格は、自ら面接者をして好感に導く有德を備ふ、庭球、圍碁に趣味を有し、家庭にはる子夫人あり又、十七歳の時檢定試驗に合格、木下病院にて研學、昭和九年產婆を開業夫妻共に本縣斯界に貢獻す。

川瀨春雄氏

本籍地　熊本縣出身
現住所　市川市五丁目一七三八

氏は明治三十九年に生れ、鄕里熊本中學を卒業後、更に熊本高等學校を經て千葉醫科大學に學び、昭和六年卒業後同大學にあり實地研究を積みて東京に出で、東京贊育會病院勤務、更に昭和九年五月現地に外科皮膚科、性病科及秘尿器科、專門に開業以て今日に至る、君人に接して感懷の情を抱かしむる高潔なる人格の所有者なり。

石津昂氏

本籍地　茨城縣行方郡潮來町
現住所　千葉縣葛飾町小栗原一三七

氏は明治二十九年の出生、長じて齒科醫師たらん事を志さして研究すること多年、友人橫井齒科醫院に寄寓して、東京齒科醫學專門學校に螢雪の功を積み、大正十三年齒科醫檢定試驗に應じ見事合格後、船橋町金子齒科醫院にて實

地研究、昭和五年現地に開業、今日に至る、斯界の仁醫として定評あり、又立志傳中の人として後輩に範を垂るに足る人格者なり、家庭には夫人と當年二歳の男子あり圓滿に琴瑟相和するものあり宗教は眞宗。

太田隼太郎氏

本籍地　市川市國府臺四四
現住所　同

氏は明治十三年に尊父孝之助氏の長男として生れ、家業たる農を繼ぎ今日に至る君は資性頗る溫順にして、一面公共事業に盡すの念篤く、大正十年町會議員後、區長等歷任次いで大正三年消防九部創立以來の同部々長に推され、爾來六ヶ年勤續、尙其の間虫害驅除豫防委員、及衞生組合委員等に擧げられ、村治唯一の貢獻者として知らる、家庭には子女七人あり、長男左金吾君あり君又父業を輔けて今日に至る、因に同家は明治の初期迄陸軍教導團の中にありしが明治十一年現地に移轉せしものにして、祖先は又太田道灌の血緣を引くといふ、宗教は眞言宗。

小山辨智氏

本籍地　熊本市新屋敷町
現住所　市川市國分北台

氏は明治三十年に生れ、東京大成中學校卒業後當國分小學校に十三年の久しき間教鞭をとり、現在は曾谷分校長として生徒に慈母の如く慕はる資性溫厚にして篤學なる氏は七年前より考古學の研究に全身を捧げその蘊奧を極む現時は相當の考古學者、大學生等にして氏の師事を受くるもの尠からず、今日まで氏の發表する處の貝塚繩紋式――アイヌ系彌生式――現日本人系の資料等に至つては我が國人類學上に貢獻する處又大なり。

大峽清太郎氏

本籍地　市川市市川四四七
現住所　同　（電話市川二七三番）

氏は明治二十二年山形縣に生れ、縣立山形中學卒業後仙臺に遊學醫學專門學校に學び、明治四十四年卒業、直ちに陸軍衞生部に入り、國府臺陸軍衞戍病院附軍醫に任官勤務

すること三年軍醫としてメスを振ふこと多年一等軍醫の肩書を擔つて、大正十二年辭職任地を緣りとして現地に居を卜して籍を移し純粹の市川市民として內科小兒科を專門に一般診療に當り其の手腕は認められて今日の盛運をみる、氏は一面スポーツを解して庭球、柔道、野球等至らざるなく趣味を有す、家庭には男二女二の子女がある、宗派は曹洞宗。

中島清明氏

本籍地　茨城縣
現住所　市川市眞間五五

氏は明治二十年茨城縣下に生れ、同縣立下妻中學を經て九州帝國大學校に學び、大正六年之を卒業す後、同校副手助手として實地の研鑽を積み同八年、三井物產造船部附屬病院長に就任同十五年辭して現地に內科專門醫として開業、今日に至る、醫學士にして圓滿なる國手として知らる。

石井保氏

本籍地　市川市中山四二九
現住所　同　（電話北八幡五四番）

氏は明治十五年に生れ、現地に文房具雜貨商を經營今日に至る、其の間區長（二期）家屋稅調査委員、方面委員、町收入役等の要職にあり、現時は方面委員として社會事業に盡瘁惠まれざる人々の相談相手として溫厚にして平靜なる心境を有し家庭には、子女五人あり、男四人中の長男は海軍志願兵として海の護りに就く、現時は歸鄕父君を輔けて家業に就く、市制實施の曉は生產都市として發展の餘地があるだらうと氏は語る、宗教は日蓮宗。

粟屋周祐氏

現住所　東京市小岩町

氏は國學院大學卒業後更に、京都帝國大學專科を卒業せし秀才にして、關西中學校に教鞭をとり、後昭和五年に至り現國府臺學院高等女學校に赴任今日に至る、現時同校の教務主任として職員生徒間の信望を一身にあつめつゝある

溫厚純情の教育家たり。

村田精市郎氏

本籍地　千葉縣登戸七三〇
現住所　市川市千葉無盡株式會社市川出張所
（千葉市五二〇）

氏は明治二十四年に生れ、千葉中學を卒業と同時に千葉稅務所に勤務すること四年後、千葉市役所に轉じ、四年間の職を奉じ、大正九年四月千葉無盡株式會社に入る、爾來累進して、昭和九年一月より現市川出張所長の要職に就き日ならずして今日の隆運を招く、氏は明敏機略の才能を有し商才の天分に富みよく當地人の氣を呑む、誠に君の如き正に適材適所の感を深からしむ氏は將來無盡會社が庶民金融機關として大いに庶民の理解と利用を得て、遂次中山八幡等にも會場の設備をなしたき旨の抱負を語る宗教曹洞宗

太田寛氏

本籍地　岩手縣東磐井郡奥玉村
現住所　市川市新田一九六

氏は明治二十七年に生れ、岩手縣立福岡中學卒業後、大正二年より明治大學に學び傍ら講道館に於て柔道を修業、昭和三年五段に昇進す、尙之より遡大正十年現地に移り接骨及柔道教授を開設後進に盡す處あり、氏は文武を兼備の篤學家にして小事に拘泥せず、信念に生く夙に中學校時代はスポーツ界に相當令名を馳せしも現在は圍碁に趣味を持ち神の心を心として精進するのが人の道なりとの信念を以つて百萬の敵をも恐れざる心境を鍛練しつつあり、心身を有効に使用する、研究即ち、柔道であつて釋迦の教にも柔道の精神は一致點があるといふ感點を持つ、家庭には氏の愛する男兒一人あり、宗教曹洞宗。

山崎三之助氏

本籍地　市川市國分北台
現住所　同

氏は當地の素封家に生れ、氏をもつて連綿十代を算す齡喜寿に達せんとして尙矍鑠壯者を凌ぐの感あり頗る愛郷心強く今日迄區長、消防組副組頭、戸數割調査委員土木委員村長、及村會議員等に數次引續き擧げられ、至誠以つて之に當り偉大なる抱負と經倫とを振ひ今日の市制實施の基礎を造る家庭には男二人、女七人の子あり長男宇乃亮氏は當年二十七歳にして工業學校に學び、現時在鄕軍人分會常務理事として靑年團支部長を兼ぬ次男輝雄氏は東京府立第七中學校在學中他は夫々一家をなし纍々の中に日を送る。

鳥羽辰之助氏

本籍地　千葉縣香取郡佐原町
現住所　市川市宇市川三一〇八（電話市川一六三）

氏は明治二十五年の出生にして、北佐原實業學校を卒業後東京早稻田大學政治經濟科に學ぶ、大正十二年陸軍軍籍に入り拔擢されて司令部附となり、特務曹長に任官國事に貢献勳八等高等官として遇せらる、退役後專ら操觚界に入り月刊千葉を創刊して健全なる輿論の換起に務め、後總武新聞社を經營之が社長となり、千葉新聞界の重鎭として知らる、右の外法律事務所、陸軍階行社特約店等の經營に當り今日に至る、氏剛毅果斷覇氣旺盛の手腕家にして今回の市制施行には多大の貢献をなし、功勞者として町より表彰を受く、蓋し何等の公職なく市井の一啓發者として市よりの表彰を受けたるは氏を以つて嚆矢となす、宜なるかな今回の市會議員選擧に立候補、大衆の輿望を擔て見事當選す、氏は現在民政黨千葉縣支部の幹事にして前途有爲の爲政家なりと推賞して過言でない。

加藤辨三郎氏

本籍地　島根縣
現住所　市川市宇市川一九三三

氏は明治三十二年八月十日を以て生れ、島根縣立大社中學を經て第三高等學校に學び後京都帝國大學工科に入り大正十二年卒業、直ちに實酒造株式會社研究部に勤務す由來氏は頭腦明敏其の才能は夙に同社幹部の認むる處となり、同十五年十月現市川工場長の要職に就き、今日に至る、之より襲昭和五年論文を提出理學博士の學位を受く、氏は溫厚篤實殊に釀造工業に精通し斯界の權威として定評あり、當實酒造株式會社には缺くべからざる人物なり、趣味は讀書

研究謠曲等。

吉田稻之助氏

本籍地　千葉縣阿房郡八東村大津
現住所　市川市字市川一六六一

氏は明治三十年の生れ、本縣安房中學校を經て、千葉縣水産試驗所に勤務更に昭和四年東京朝日新聞社に關係尋で東葛牧場を經營、同年三月町會議員に當選す、其間土木委員、第五區評議員、幹事等に就任、現時東葛牧場取締役として斯界の重鎭を以つて自他共に任ず又氏は、新聞事業に趣味を有し、國民新聞社の通信販賣等を兼務す、君は當市川に居を構へてより既に十三年を閲し、土地の事態に通じ業務の傍ら俳句を玩味し、時々佳句を出す。

種山久之助氏

本籍地　市川市八幡
現住所　同

氏は青年時代より町の自治に參與誠心誠意奔走し、自治體の爲め寢食を忘れて働き區役員、町會議員、學務委員を

經て前々町長の要職に就きその他町の名譽職は殆んど氏の携はらざるはなく、現在は學務委員なり氏の町長時代の功績は實に大なるものがあり、今日の八幡たらしめたるは氏の遺績忘るゝべからざるものがある、氏は又教育に熱心にして造詣深く、趣味として園藝、特に菊花、栽培は得意とする氏の處世座右銘は至誠神に通ずと言ふにある、因に寡言默行の人にして謙讓、記者は一言も氏に就て聞くを得ず、全く調査による特種である。

矢作榮吉氏

本籍地　東京市本所區菊川町一ノ三二
現住所　市川市八幡一八四三

氏は明治二十七年に生れ、東京錦城中學校卒業後明治大學商科に學び、東京に染色加工場を經營今日に至る本市に閑居して已に十年町會議員學務委員等に選ばれて町政の運用に献身的努力を致す多趣味にして野球、銃獵、等當地に於て野球チームを作りコーチして試合を行る事もある輕快なスポーツマンである、家庭には七人の子福者にて長男は東京府立第三中學校に長女は大妻女學校に在學中である。市政に當る人は市民の利益を計り、負擔の輕減を先づ考へて貰いたいと、因に昭和八年の町議は最高點にて當選す以つて如何に町民の信望が厚きかが察知される、宗派日蓮宗。

平松元治郎氏

本籍地　市川市八幡一三三三
現住所　同　（電話北八幡一六八番）

氏は明治十六年の生れにて、現在は菓子商を經營するも傍ら今日迄に消防組頭、區長等、學務委員、今日迄三期を通じての町會議員であつた、園碁、讀書に趣味を持ち家庭には女子一人あり、舟橋女學校卒業の才媛である、市制實施には先づ住宅都市として發展せしめ漸次に産業都市にしたいとは氏の希望である、氏が今日迄公共事業に私心なく奔走せし功績は何人も知る處にして此度町民の信望を擔つて初代市會議員に當選榮えある重職に就く、

福地芳藏氏

本籍地　市川市新田二四七
現住所　同

氏は明治二十七年三月の出生にして、市川土着派の舊家である、東京にて研學、大正十四年齒科檢定試驗に合格、東京府下王子町に約一年間開業し、昭和二年に現地に開業せし齒科醫であるが、溫健にして圓滿なる人格の所持者である、讀書に趣味を有し抱く考へは新しい、感想を叩けば生は人類最上の目的にて國家本位社會本位の思想も結局生の基調から織出される云々。氏は組織立つた學歴は有しないが實に多方面に亘つて研究せる篤學の人であり陰德家である、宗派は日蓮宗。

坂本元次郎氏

本籍地　市川市新田一二〇
現住所　同　（電話市川四八番）

氏は明治二十一年相州鎌倉に生れ、適齡に及んで軍務に服し、明治四十四年除隊後陸軍へ木炭、石炭、雜貨類を納入し現地に店舗を構えて今日に至る其間二十年昭和八年三

月迄、町會議員の要職に在つた外、家屋税調査委員、及區長商工會長等に貢献した温厚篤實の實業家にして、釣は最も氏の好むところである、元は日蓮宗信者であつたが、感ずるところあつて人の道教に歸依し毎朝東京へ通つて教を受け信仰の生活に入つて居る信念の人である、家庭には女兒一人あり小學校在學中である市制都市計劃と共に當新田は責力の中心點でもあり、納税額も新田が最も多く、新田と言ふ名稱は變更し度い云々と氏は語る。

林　德　松氏

本籍地　市川市市川三二五九
現住所　同　（電話市川七五番）

氏は明治十四年に林與五郎氏の長男として生れ、先代よりの土木建築請負業を繼承して今日に及び、斯界の權威として知らる現に市川市の主要建築にして氏の手に成らざる物尠き狀態なり、氏夙に公共方面の貢献も厚く、町會議員たること二期、其の間學務委員、及創立當時の瓦斯會社監査役たりし事もありしが、最近は隱退して居る、氏は市川市の多額納税者の一人で、東京市向島區吾嬬一丁目に出張所を有し、温厚にして篤實言葉少なき人格者である、家庭には二男二女あり、長男利一君は仙臺東北帝大在學、次男茂君は東京帝國大學に在學中の秀才揃ひである、長女次女何れも女學校を卒業後、他家に嫁す市役所は氏請負にて着々工を急ぎ明年二月末日完成の豫定である、氏の今日迄の業務成績は主として軍隊方面にして東京近縣の聯隊の工事又殆んど氏の手に成る。

横田信四郎氏

本籍地　東京市本所區石原町三ノ四
現住所　市川市市川九九三

氏は明治九年の出生、東京本所に於ける毛糸商の老舗にして斯業に於ける東京市第三番目の店である、現在は嗣子信一氏に讓りて、大正七年現地に居を定め、閑居す東京に於ても種々町治に關與し江東橋小學校理事としては創立以來今日に及ぶ市川にて又公共方面に貢献多く、方面季員、區長を始め昭和五年創立の市川家庭購買組合長であり、經

營者である氏の生活の信條は今日一日の事は必らず果たすと云ふにある、家庭には子息信一氏あり東京本所にて同業を經營す、氏は温厚着實の士にして、圍碁に趣味を有す、氏が市川市に盡力する所以は、彼の關東大震災の際七人の子供を失ひたるに自分等の不思議に助かりたるは市川に居ありしによる事に起因すと、因に氏の産業組合の創立は吾が市川の物價調節の上に多大の效果を示せり。

湯淺利助氏

本籍地　市川市高石神二四
現住所　同　（電話北八幡一七〇番）

氏は明治十一年の出生にして、薪炭商及農事を兼業し今日に至る、實直なる仁にして區氏子總代を始め、諸種町治開發に盡す現在は方面委員であるが、氏の温情に浴して生命線を救はれた人も尠なくない資性敦厚にして園藝に趣味を持ち、菊作りは氏の得意とするところである、家庭には男六女一の子福者にして、長男莊助氏は、元消防小頭を勤め町治に關せし事あり、現在は實業に從事して居る、宗教は日蓮宗。

御園生政一氏

本籍地　千葉市千葉八七九
現住所　市川市中山五三〇（電話北八幡三二七番）

氏は明治十七年の出生、千葉中學卒業後、千葉醫學專門學校に學び明治四十二年卒業陸軍衛生部に入り千葉衛戍病院千葉歩兵學校より、支那膏島陸軍病院滿洲駐屯軍病院に歷任此間日獨戰爭西比利亞出征に從軍、國防の第一線に勇士の生命線を保證せし功は多大なり、陸軍に在る事實に二十年の長きに至り、從五位勳六等陸軍二等軍醫正にて退職昭和五年十一月現地に開業、一般の診療に從事現在は共立モスリン會社囑託であり、市川醫師會評議員である、温健にして嚴正なる、氏の人格は面接者に深い印象を與へずには措かない、昭和三年に旭日章四等を昭和五年には瑞寶章三等を陛下より賜はる家庭にはゑゐ子夫人（縣立女子師範學校出身）ありて貞節の譽高し長女夏江さんは長崎縣大村高女出身の才媛である。

石津秀治氏

本籍地　市川市八幡前一〇六八
現住所　同　（電話市川五二番）

氏は明治二十八年茨城縣鹿島郡醬油釀造業、貴族院議員多額納稅者、名家米川松太郎氏の次男として生る、長じて東京高等學府に學び、卒業後銀行界に勤務して居たが大正九年現地に遠藤運送店を開業、合同運送會社の設立さるゝや是が取締役となり、貸自動車業を兼業今日に至る、名望家にして茨城縣人會の會長である、資性至つて謙讓溫厚の仁にして釣に趣味を有し家庭には夫人きよ子さん（東京竹早女子師範出身）ありて內助に盡され、長男正年君は東京府立七中に次男博道君は市川小學校に在學、三男義齊君は自然幼稚園に通つて居る、市制實施に就て氏は稍々尙早の感があつて、政黨に拘泥し自治體の本領を忘るゝが如き傾はないか？　道路下水等は經濟の關係も在るが出來得る限り早く改修を望む云々。

岡澤是平氏

本籍地　市川市市川一ノ二五五
現住所　同　（電話市川二四一番）

氏は明治二十七年茨城縣に於て彦次郎氏の二男に生れ、小學校卒業後、印旛郡安喰學園卒業實兄と共に家業たる乾物商に從事大正七年に至りて現地に獨立移轉し、乾物商を經營せしが昭和八年八月招聘せられて市川購買組合專務取締役の要職に就き、爾來今日に至る此間市川町青年會支部長、區役員消防第五部長として自治方面に貢獻したが現在は市川信用組合理事であり茨城縣人會の幹事である登山に趣味を有し、シーズンには旅に出る事が唯一の樂しみである、氏は至つて溫厚にして見識博き紳士にして自己親ら實店に起つて客に接する精勵さは實に氏が處世の信條である家庭にはさわ子夫人との間に是淸君あり、目下市川小學校に通學中市制實施に就いて語る當購買組合が未だ大衆に理解されず、豫期の効果を擧げ得ぬのは殘念であるが將來市內四ケ町の組合が合併して經營さるゝならば會員にも最も安價なる品物を供給する事が出來る故、專心奔走中であるが、市民が當會を理解して相互的利益を得られん事を望む更に又消防設備は義務的でなく、專門的施設に改良さるゝならば統制上は勿論幾多の無駄を省き得ると信ずる云々。

釋宗活氏

本籍地　東京市下谷區天王寺町三四
現住所　市川市八幡一二一六

氏は江戸時代の蘭醫、高野長英と共に斯界の濫觴をなしたる入澤貞意氏の孫として明治三年生る尊父も醫師にして其後を繼承すべく嚴格なる敎育を受けたが、十一歳の時慈母の逝去續いて尊父に別れ深く志すべき修養を感じ慈母の遺言に從ひて獨立獨行苦學を積み、二十歳に至りて禪宗今北洪川禪師の門下に入り、三年間眞劍なる修道を續けたが洪川和尙遷化後は後嗣釋伽窟老師の元にあつて修業を續け二十三歳の夏、剃髮受戒宗活と言ふ法語を授與せられ、其の後何時と知らず戶籍上の養子となつて釋性を名乘樣になつたが出家した寺が、氏の祖先北條時宗公の建立した圓覺寺であつた事は偶然とは思へない、其後二十九歳の夏大事了畢、海外修業を立志師に別れて出發約二年間外遊修業を積んで歸朝したが後、再度渡米北米兩忘會を設立三年間禪道に精進して歸朝先師より一等敎師輟翁の號並に圓覺寺住職の法階を辱うし紫衣を賜はつた爾來三十五年間、財團法人兩忘協會を組織し、居士は禪道の權威として現在にては門下生三千人を有し、本部を東京谷中に支部を紐育、岡山戶畑、米澤の各市及當八幡に置き氏は現地殘夢莊總裁として宗敎的雅趣に富んだ生活をして居る、趣味としては若年より愛道たる美術書畫彫刻及禪道古德の墨蹟を蒐集して唯一の樂しみとし且つて院展に入選した熱心家だ、氏は禪其のものに處世の信條を有し家には雇人三人を使用して純然たる孤獨の生涯を樂んで居る、因に醫界の權威入澤博士は氏の從弟にして明治帝の侍醫を勤めし池田謙齋先生は叔父の間柄である。

浮谷準太郎氏

本籍地　市川市新田二三六
現住所　同　（電話市川四六九番）

氏は明治二年に生れ、農を家業として今日に及べるが明治十九年には地租改正調査委員を振出しに、明治四十年に市川町會議員に當選、土木委員を兼務其後、明治四十一年より東葛郡長より害虫驅除豫防委員を囑託され、更に市川町農會創立準備委員たり、又農業生産調査委員、耕地整理組合會議員に當選、次で町農會幹事、囑託の要職を經て大正二年三月町會議員に再選、同年宮内省千葉縣下江戸川筋御獵場監守を拜命、大正六年三月町會議員に三期當選其後隔離病舍組合會議員、江戸川水防會議員、市川町助役、市川町農會副會長、千葉縣方面委員、東葛方面委員、聯合會南部會部長の要職に在つた、氏は溫厚篤實慇懃謙讓の人にて正に今日の市川市建設の功勞者である、數十年町自治の發展を圖り私心なく、一に町民の福利增進に力む傍ら又農事の改良進歩にも意を用ひ、郡農會長より篤農賞を授與さる、家庭には長男安千代氏ありて、父君の後を踏んで青年會長、消防部長、胡錄神社及春日神社總代たりし事もあり現時は耕地整理組合會會議員で農事も營む。

阪井　辨氏（號久良岐）

本籍地　東京市麹町區富士見町一ノ七
現住所　市川市市川八六

氏は明治二年の出生にして、共立學校卒業、高等師範國漢科に學び後報知新聞日本新聞の美術記者として日本派の歌を紹介し、正岡子規に歌を敎へた事もあつた傍ら川柳を研究し氏が五月鯉獅子頭の著書は今日の川柳界に貢獻する所尠くない昭和六年六月當市川に來り住み爾來川柳を友として今日に及ぶ、家庭には二男あり、長男は獸醫として起ち次男は文理科大學を卒業中學校に敎鞭をとつて居る、氏は人も知る天下の川柳界の權威者にして、俳句書道を又良くす、語る處によれば川柳は日本固有の文明であつて、無產者と有產者の趣味の疎遠を緩和するものであつて行動として双對的なるを要す其意味に於て王子の扇屋附近の古川柳は實に當を得たものだ、川柳は沒個性のもので根本思想は

鄕土愛の觀念より起る云々、

石井初五郎氏

本籍地　市川市鬼越三〇六
現住所　同

氏は明治八年に生る家業たる農業に從事する傍ら二十五歲の當時より六十歲の今日迄引續き自治方面に貢獻された點は偉大なるものがある、消防小頭農會幹事、耕地整理組合會議員の外區長を數回、神明社氏子總代町會議員、三期當選、尙土木委員を三期及市制代表委員の要職に就ける人望家であるが、現中山信用組合の如きは市が零細な日掛金を成長せしめて今日あらしめたものである、資性活潑にして一面剛健な人で、釣に趣味を有つて居る、家庭には男子三女子三ありて長男鈊一郎君は東京錦城中學校卒業後、東京の大會社に勤務中市制實施には都市計劃を誤らず人口の吸收を圖り先づ住宅都市たらしむべく、市會に立候補する人達も自分が出るのでなく、人が出すてふ信念の元に總てを讓され度い云々、宗敎は日蓮宗。

世羅九一郎氏

本籍地　市川市砂河原一〇〇二
現住所　同

氏は明治三十二年に生れて、廣島縣福山中學校卒業後日本大學齒科に學び大正十年に卒業、文部省一橋病院に勤務昭和五年現地に開業せし齒科醫にして溫厚にして、堅實なる氏の性格は患者の信望も厚く、書道、圍碁に趣味を有つ小壯紳士である。

谷口金太郎氏

本籍地　市川市鬼越八六
現住所　市川市鬼越二五二

氏は明治七年に生れ、長じて明治二十七年東京灣要塞砲兵聯隊に入營砲兵軍曹の肩書を得て除隊元中山校長谷口又兵衛の養子となり雜貨商と湯屋を兼今日に至る、其間舊中山村會當時より自治に奔走せし中山町の建設者の一人である初め役場に書記として奉職後、助役代理を四年間勤め遂に助役の要職に就いて、實に大正九年迄二十餘年間よく町